



THE NATIONAL
ART CENTER, TOKYO
国立新美術館

NACT REPORT
APRIL 2014-MARCH 2015
平成26年度 活動報告

平成26年度
国立新美術館 活動報告

NACT REPORT
April 2014 - March 2015
The National Art Center, Tokyo

平成26年度の活動を振り返って

国立新美術館の平成26年度入場者は企画展と公募展を合わせて約262万人である。

公募展として全国的な活動を行っている69の美術団体が展覧会を開催した。公募展は日本における美術活動の社会的文化的基盤を示すものとしても重要な意味を持つ。

当館が行う企画展には、自主企画展と共催展がある。

自主企画展として、平成26年度は二つの展覧会を開催した。一つは、「イメージの力ー国立民族学博物館コレクションにさぐる」であり、いま一つは「中村一美展」である。前者は、大阪にある国立民族学博物館の34万点に及ぶ所蔵資料の中から美術館での展覧会にふさわしい世界各地の逸品約600点を選んで展示し、人類の抱くイメージの多様性と創造性、その普遍的な力に触れる貴重な機会となった。後者は、現代日本を代表する美術作家・画家の全貌を、およそ150点の抽象画作品によって示した。この二つの展覧会は、アジアやアフリカなど世界各地の仮面や神像ほかの文化作品と抽象画作品の展示という対照的な展覧会であった。

共催展として「魅惑のコスチューム：バレエ・リュス展」。これはオーストラリア国立美術館が所蔵する「バレエ・リュス」の貴重なオリジナル・コスチュームを網羅する展覧会である。バレエのみならず美術や音楽、ファッションにも多大の革新的影響を与えた伝説のバレエ団の全20年間の活動を示した。

「オルセー美術館展 印象派の誕生ー描くことの自由ー」。オルセー美術館の所蔵する印象派の巨匠たちの作品によって、近代絵画の幕開けを「描くことの自由」という観点からとらえる展覧会。マネやモネ、ルノワールからクールベやミレー、カバネルやブグローまで84点を展示した。

「チューリヒ美術館展ー印象派からシュルレアリスムまで」。これは日本とスイスの国交150年を記念する展覧会であり、同国が誇る美術館のコレクションからモネやシャガール、ホドラー、クレー、ジャコメッティなどの代表的な作品74点で印象派からシュルレアリスムまでの現代美術の展開を具体的に辿る機会にもなった。

平成27年に入ってから新たに二つの展覧会が始まった。まず「ルーヴル美術館展 日常を描くー風俗画にみるヨーロッパ絵画の真髄」。16世紀から19世紀半ばまでのヨーロッパ風俗画の展開を精選された83点を通して明らかに。初来日のフェルメール《天文学者》も評判である。次に「マグリット展」。ベルギーの生んだシュルレアリスムの巨匠マグリットの本格的な回顧展であり、ベルギー王立美術館とマグリット財団の全面的な協力のもと世界10か国以上から集められた作品約130点によるこの展覧会は画期的なもので、この画家の生涯にわたる作品を鑑賞できる貴重な機会となった。

このほか、文化庁との共催による「未来を担う美術家たち 17th DOMANI・明日展 文化庁芸術家在外研修の成果」、文化庁メディア芸術祭実行委員会主催による「平成26年度 [第18回] 文化庁メディア芸術祭」を開催した。

日本を代表するファッション・デザイナー「ジュン アシダ」の業績を記念する展示会を開催することができたが、大きな成功を見たことは今後の展覧会事業活動にとっても大きな意味を持つものと思われる。

港区の障害を持つ生徒たちの絵画を展示する「地域で共に生きる障害児 障害者アート展」を1階ロビーで行った。またスタジオジブリの高畑勲監督の人気アニメ作品『かぐや姫の物語』の原画の一部などを展示する『『かぐや姫の物語』の物語』もロビーで行った。

教育普及事業としては、前年に引き続き講演会や作品解説会などによる展覧会の内容を普及するための各種イベントに取り組んだ。また子ども向けの鑑賞ガイドや小冊子を自主企画展と共催展の両方において無料配布した。アメリカのホイットニー美術館から招いた教育普及担当者を中心とするアーティストとの教育事業をテーマとした国際シンポジウムを開催し、当館の特徴的な取り組みである「アーティスト・ワークショップ」の活動も紹介した。平成24年度から当館が取り組んでいる未就学児を対象にしたワークショップを開催したが、26年度は小学校1～4年生の親子も対象に加えた。現代アニメーションを広く紹介するイベント「TOKYO ANIMA! 2014」及び「インターカレッジ・アニメーション・フェスティバル (ICAF) 2014」を開催した。

情報資料収集・提供事業では、日本の美術展カタログの収集や近現代美術・デザイン・建築・写真・メディアアートに関する刊行物の収集に努め、これらの資料を一般の閲覧にアトライブラリーと別館閲覧室において公開した。また所蔵資料の一部のデジタル化を行ったが、その中で山岸信郎氏旧蔵資料に含まれる写真資料に関しては、ポーラ美術振興財団の助成により画像データベース構築を進めることが可能になった。感謝したい。

独立行政法人国立美術館の収蔵品修理費により寄贈資料の燻蒸、クリーニングを実施することができた。

調査研究活動として国立新美術館の研究紀要『NACT Review 国立新美術館研究紀要第1号』を創刊することができた。これは懸案の出版である。幸い狭い研究紀要の枠を超えた内容の充実した紀要となり、好評をもって迎えられ、大きな反響をうることができた。鋭意第2号の編集に取り組んでいる。また来館者向けに展覧会・教育普及・情報資料など主な当館の事業活動を分かりやすく伝える広報誌として『国立新美術館ニュース』を刷新した。

美術館の響きの良い空間の中で音楽を楽しむロビー・コンサートは、毎回人気の催しである。26年度もジャズ・コンサートとクラシック・コンサートを各1回開催した。館長によるトークイベント「カフェアオキ」も継続的に行うことができた。

以上、平成26年度の国立新美術館の活動は展覧会のみならず多岐にわたり、美術館という公共サービスの文化機関・施設としての役割と機能をより広げてゆく可能性を示すものとなった。こうした役割と機能の追求はこれからさらに積極的に行ってゆきたい。

最後に、国立新美術館の活動をさまざまな面でご支援いただきました企業各社の皆様に改めて感謝申し上げます。

国立新美術館長

青木 保

目次 Contents

平成26年度の活動を振り返って Foreword	2
1 平成26年度主要記事 Record of Events April 2014 - March 2015	7
2 展覧会 Exhibitions	9
2-1 平成26年度展覧会一覧 List of Exhibitions April 2014 - March 2015	10
2-2 平成25年度までの展覧会一覧 List of Past Exhibitions to March 2014	12
2-3 展覧会記録 Exhibition Details	17
3 美術団体等への展覧会会場提供 Provision of Exhibition Venues to Artist Associations	33
4 教育普及 Education and Public Programs	41
4-1 講演会等 Lectures, etc.	42
4-2 ワークショップ Workshops	47
4-3 インターンシップ、ボランティア Internships and Volunteering	48
4-4 その他の教育普及事業 Other Education and Public Programs	49
5 情報資料収集・提供 Collection and Provision of the Library and Information Services	51
5-1 美術関連資料の収集と公開 Collection and Provision of the Library Materials	52
5-2 JACプロジェクト JAC Project	55
5-3 展覧会情報の収集と提供 Collection and Provision of the Information Services	55
6 広報・出版 Publicity and Publications	57
6-1 印刷物 Publications	58
6-2 ホームページ、各種ウェブサービス Website, SNS	66
6-3 広報活動 Publicity Activities	67
7 調査・研究 Research April 2014 - March 2015	71
8 その他の事業 Other Programs and Events	77
9 記録 Records	81
9-1 入場者数 Number of Visitors	82
9-2 予算 Budget	82
9-3 企業協賛 Corporate Support	82
9-4 来館者サービス Visitor Services	83
9-5 国際交流 International Exchanges	84
9-6 展覧会出品リスト List of Works	89
9-7 名簿 The NACT Advisory Board, The NACT Council and Staff List	112

主な事業

平成26(2014)年

- 5月9日 国立新美術館評議員会(平成26年度第1回)開催
- 5月13日 国立新美術館顧問会(平成26年度第1回)開催
- 6月18日 「魅惑のコスチューム:バレエ・リュス展」開催(～9月1日)
- 7月9日 「オルセー美術館展 印象派の誕生―描くことの自由―」開催(～10月20日)
- 9月25日 「チューリヒ美術館展―印象派からシュルレアリスムまで」開催(～12月15日)
- 11月28日 『NACT Review 国立新美術館研究紀要 第1号』発行
- 12月13日 「未来を担う美術家たち 17th DOMANI・明日展 文化庁芸術家在外研修の成果」開催(～1月25日)

平成27(2015)年

- 2月4日 「平成26年度[第18回]文化庁メディア芸術祭」開催(～2月15日)
- 2月21日 「ルーヴル美術館展 日常を描く―風俗画にみるヨーロッパ絵画の真髄」開催(～6月1日)
- 3月25日 「マグリット展」開催(～6月29日)

トピックス

平成26(2014)年

- 4月19日 「六本木アートナイト2014」開催(～4月20日)
- 5月5日 延べ展覧会入場者数1800万人を達成
- 5月14日 高円宮妃殿下「第110回記念 太平洋美術展」、「第36回日本新工芸展」御観覧
- 5月18日 「国際博物館の日」への協力
- 9月17日 延べ展覧会入場者数1900万人を達成
- 11月14日 麻布消防署「署長感謝状」受賞
- 12月3日 「エレガンス不滅論。―ジュン アシダの軌跡と未来にみる、ファッションのひとつの本質―」開催(～12月8日)(主催:株式会社 ジュン アシダ)
- 12月4日 常陸宮正仁親王妃華子殿下「エレガンス不滅論。―ジュン アシダの軌跡と未来にみる、ファッションのひとつの本質―」御観覧
- 12月17日 特別展示「『かぐや姫の物語』の物語」開催(～12月23日)(主催:ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社、国立新美術館)

平成27(2015)年

- 1月21日 「地域で共に生きる障害児 障害者アート展」開催(～1月26日)(主催:港区、共催:国立新美術館)
- 2月8日 延べ展覧会入場者数2000万人を達成
- 3月15日 国際シンポジウム「アーティストとの関わりは私たちに何をもたらすのか―経験する”現場からの検証」開催
- 3月20日 高円宮妃殿下「ルーヴル美術館展 日常を描く―風俗画にみるヨーロッパ絵画の真髄」御観覧
- 3月25日 高円宮妃殿下「マグリット展」御観覧



7月8日 オルセー美術館展開会式

2

展覧会

Exhibitions

2-1 平成26年度展覧会一覧

List of Exhibitions April 2014 - March 2015

2-2 平成25年度までの展覧会一覧

List of Past Exhibitions to March 2014

2-3 展覧会記録

Exhibition Details

2-1 平成26年度展覧会一覧 List of Exhibitions April 2014 - March 2015

イメージの力—国立民族学博物館コレクションにさぐる
The Power of Images: The National Museum of Ethnology Collection

会期：平成26(2014)年2月19日(水)～6月9日(月)
日数：61日(全会期;97日)
入場者数：45,056人(1日平均739人)(全会期;59,767人)
入場：有料
種別：自主企画展



中村一美展
NAKAMURA Kazumi

会期：平成26(2014)年3月19日(水)～5月19日(月)
日数：43日(全会期;55日)
入場者数：16,473人(1日平均383人)(全会期;18,939人)
入場：有料
種別：自主企画展



魅惑のコスチューム：バレエ・リュス展
Ballets Russes: The Art of Costume

会期：平成26(2014)年6月18日(水)～9月1日(月)
日数：67日
入場者数：74,067人(1日平均1,105人)
入場：有料
種別：共催展



オルセー美術館展 印象派の誕生—描くことの自由—
The Birth of Impressionism – Freedom in Painting: Masterpieces from the Musée d'Orsay

会期：平成26(2014)年7月9日(水)～10月20日(月)
日数：92日
入場者数：696,442人(1日平均7,570人)
入場：有料
種別：共催展



チューリヒ美術館展—印象派からシュルレアリスムまで
Masterpieces from the Kunsthaus Zürich

会期：平成26(2014)年9月25日(木)～12月15日(月)
日数：72日
入場者数：300,086人(1日平均4,168人)
入場：有料
種別：共催展



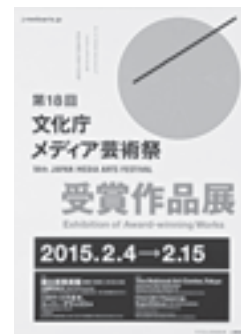
未来を担う美術家たち 17th DOMANI・明日展 文化庁芸術家在外研修の成果
“17th DOMANI: The Art of Tomorrow” Exhibition, The Achievements of the Japanese
Government Overseas Study Program for Artists provided by the Agency for Cultural Affairs

会期：平成26(2014)年12月13日(土)～平成27(2015)年1月25日(日)
日数：27日
入場者数：13,906人(1日平均515人)
入場：有料
種別：共催展



平成26年度[第18回]文化庁メディア芸術祭
2014 [18th] Japan Media Arts Festival

会期：平成27(2015)年2月4日(水)～2月15日(日)
日数：11日
入場者数：43,660人(1日平均3,969人)
入場：無料
種別：共催展



ルーヴル美術館展 日常を描く一風俗画にみるヨーロッパ絵画の真髄
Louvre Museum: Genre Painting – Scenes from Daily Life

会期：平成27(2015)年2月21日(土)～6月1日(月)
日数：33日(全会期;89日)
入場者数：215,349人(1日平均6,526人)
入場：有料
種別：共催展



マグリット展
René Magritte

会期：平成27(2015)年3月25日(水)～6月29日(月)
日数：6日(全会期;86日)
入場者数：21,394人(1日平均3,566人)
入場：有料
種別：共催展



2-2 平成25年度までの展覧会一覧 List of Past Exhibitions to March 2014

国立新美術館開館記念展 20世紀美術探検—アーティストたちの三つの冒険物語—
Living in the Material World— 'Things' in Art of the 20th Century and Beyond

会期：平成19(2007)年1月21日(日)～3月19日(月)

黒川紀章展—機械の時代から生命の時代へ
KISHO KUROKAWA: From the Age of the Machine to the Age of Life

会期：平成19(2007)年1月21日(日)～3月19日(月)

文化庁メディア芸術祭10周年企画展 日本の表現力
The Power of Expression, JAPAN

会期：平成19(2007)年1月21日(日)～2月4日(日)

エトランジェ
異邦人たちのパリ1900-2005 ポンピドー・センター所蔵作品展
Paris du monde entier: Artistes étrangers à Paris 1900-2005. Exposition organisée par le Centre Pompidou

会期：平成19(2007)年2月7日(水)～5月7日(月)

大回顧展 モネ 印象派の巨匠、その遺産
Claude Monet: L'art de Monet et sa postérité

会期：平成19(2007)年4月7日(土)～7月2日(月)

スキン+ボーンズ—1980年代以降の建築とファッション
Skin + Bones: Parallel Practices in Fashion and Architecture

会期：平成19(2007)年6月6日(水)～8月13日(月)

日展100年
The 100th Anniversary of NITTEN

会期：平成19(2007)年7月25日(水)～9月3日(月)

パーソナルフォトアーカイブス
安齊重男の“私・写・録” 1970-2006
ANZAI: Personal Photo Archives 1970-2006

会期：平成19(2007)年9月5日(水)～10月22日(月)

アムステルダム国立美術館所蔵 フェルメール「牛乳を注ぐ女」とオランダ風俗画展
Milkmaid by Vermeer and Dutch Genre Painting— Masterworks from the Rijksmuseum Amsterdam

会期：平成19(2007)年9月26日(水)～12月17日(月)

文化庁芸術家在外研修制度40周年記念 『旅』展—異文化との出会い、そして対話—
The 40th Anniversary of the Japanese Government Overseas Study Program for Artists provided by the Agency for Cultural Affairs:
Journey— Encounters and Dialogues with Foreign Cultures

会期：平成19(2007)年12月15日(土)～平成20(2008)年1月28日(月)

没後50年 横山大観—新たなる伝説へ
YOKOYAMA TAIKAN Fifty Years On— A legend in the making

会期：平成20(2008)年1月23日(水)～3月3日(月)

平成19年度[第11回]文化庁メディア芸術祭
2007 [11th] Japan Media Arts Festival

会期：平成20(2008)年2月6日(水)～2月17日(日)

アーティスト・ファイル2008—現代の作家たち
Artist File 2008— The NACT Annual Show of Contemporary Art

会期：平成20(2008)年3月5日(水)～5月6日(火・祝)

モディリアーニ展
Modigliani et le Primitivisme

会期：平成20(2008)年3月26日(水)～6月9日(月)

エミリー・ウングワレー展—アボリジニが生んだ天才画家
Utopia: the Genius of Emily Kame Kngwarreye

会期：平成20(2008)年5月28日(水)～7月28日(月)

ウィーン美術史美術館所蔵 静物画の秘密
European Still-Life Painting from the Kunsthistorisches Museum Wien

会期：平成20(2008)年7月2日(水)～9月15日(月・祝)

アヴァンギャルド・チャイナー〈中国当代美術〉二十年—
AVANT-GARDE CHINA: Twenty Years of Chinese Contemporary Art

会期：平成20(2008)年8月20日(水)～10月20日(月)

巨匠ピカソ 愛と創造の軌跡
PICASSO: Sa vie et sa création

会期：平成20(2008)年10月4日(土)～12月14日(日)

未来を担う美術家たち DOMANI・明日展2008 文化庁芸術家在外研修の成果
“DOMANI: The Art of Tomorrow 2008” Exhibition, The Achievements of the Japanese Government Overseas Study Program for Artists provided by the Agency for Cultural Affairs

会期：平成20(2008)年12月13日(土)～平成21(2009)年1月26日(月)

加山又造展
KAYAMA Matazo Retrospective 1927-2004

会期：平成21(2009)年1月21日(水)～3月2日(月)

平成20年度[第12回]文化庁メディア芸術祭
2008 [12th] Japan Media Arts Festival

会期：平成21(2009)年2月4日(水)～2月15日(日)

アーティスト・ファイル2009—現代の作家たち
Artist File 2009—The NACT Annual Show of Contemporary Art

会期：平成21(2009)年3月4日(水)～5月6日(水・祝)

ルーヴル美術館展 美の宮殿の子どもたち
L'enfant dans les collections du Musée du Louvre

会期：平成21(2009)年3月25日(水)～6月1日(月)

野村仁 変化する相—時・場・身体
NOMURA HITOSHI: PERCEPTIONS-CHANGES IN TIME AND FIELD

会期：平成21(2009)年5月27日(水)～7月27日(月)

ルネ・ラリック 華やぎのジュエリーから煌きのガラスへ
René Lalique: A Retrospective

会期：平成21(2009)年6月24日(水)～9月7日(月)

光 松本陽子／野口里佳
The Light: MATSUMOTO Yoko / NOGUCHI Rika

会期：平成21(2009)年8月19日(水)～10月19日(月)

THE ハプスブルク
Treasures of the Habsburg Monarchy— 140th Jubilee of the Friendship Treaty between Austria – Hungary and Japan

会期：平成21(2009)年9月25日(金)～12月14日(月)

未来を担う美術家たち DOMANI・明日展2009 文化庁芸術家在外研修の成果

“DOMANI: The Art of Tomorrow 2009” Exhibition, The Achievements of the Japanese Government Overseas Study Program for Artists provided by the Agency for Cultural Affairs

会期：平成21(2009)年12月12日(土)～平成22(2010)年1月24日(日)

ルノワール—伝統と革新

Renoir: Tradition and Innovation

会期：平成22(2010)年1月20日(水)～4月5日(月)

平成21年度[第13回]文化庁メディア芸術祭

2009 [13th] Japan Media Arts Festival

会期：平成22(2010)年2月3日(水)～2月14日(日)

アーティスト・ファイル2010—現代の作家たち

Artist File 2010—The NACT Annual Show of Contemporary Art

会期：平成22(2010)年3月3日(水)～5月5日(水・祝)

ルーシー・リー展

Lucie Rie: A Retrospective

会期：平成22(2010)年4月28日(水)～6月21日(月)

オルセー美術館展2010「ポスト印象派」

Post-impressionnisme 115 chefs-d'œuvre de la collection du Musée d'Orsay

会期：平成22(2010)年5月26日(水)～8月16日(月)

マン・レイ展

Man Ray: Unconcerned But Not Indifferent

会期：平成22(2010)年7月14日(水)～9月13日(月)

陰影礼讃—国立美術館コレクションによる

SHADOWS: Works from the National Museums of Art

会期：平成22(2010)年9月8日(水)～10月18日(月)

没後120年 ゴッホ展

Van Gogh: The adventure of becoming an artist

会期：平成22(2010)年10月1日(金)～12月20日(月)

未来を担う芸術家たち DOMANI・明日展2010 文化庁芸術家在外研修の成果

“DOMANI: The Art of Tomorrow 2010” Exhibition, The Achievements of the Japanese Government Overseas Study Program for Artists provided by the Agency for Cultural Affairs

会期：平成22(2010)年12月11日(土)～平成23(2011)年1月23日(日)

平成22年度[第14回]文化庁メディア芸術祭

2010 [14th] Japan Media Arts Festival

会期：平成23(2011)年2月2日(水)～2月13日(日)

シュルレアリスム展—パリ、ポンピドゥーセンター所蔵作品による—

Le Surréalisme: Exposition organisée par le Centre Pompidou à partir de sa collection

会期：平成23(2011)年2月9日(水)～5月15日(日)

※東日本大震災の影響により、会期及び開館日を変更。当初の会期は5月9日(月)まで。3月の臨時休館(計8日)に伴い、5月6日(金)、10日(火)は開館。

アーティスト・ファイル2011—現代の作家たち

Artist File 2011—The NACT Annual Show of Contemporary Art

会期：平成23(2011)年3月19日(土)～6月6日(月)

※東日本大震災の影響により、会期及び開館日を変更。当初の会期は3月16日(水)から。3月の臨時休館(計8日)に伴い、5月6日(金)、10日(火)は開館。

ワシントン・ナショナル・ギャラリー展 印象派・ポスト印象派 奇跡のコレクション
Impressionist and Post-Impressionist Masterpieces from the National Gallery of Art

会期：平成23(2011)年6月8日(水)～9月5日(月)

モダン・アート, アメリカン ―珠玉のフィリップス・コレクション―
To See as Artists See: American Art from the Phillips Collection

会期：平成23(2011)年9月28日(水)～12月12日(月)

未来を担う美術家たち DOMANI・明日展 文化庁芸術家在外研修の成果
“DOMANI: The Art of Tomorrow” Exhibition, The Achievements of the Japanese Government Overseas Study Program for Artists
provided by the Agency for Cultural Affairs

会期：平成24(2012)年1月14日(土)～2月12日(日)

野田裕示 絵画のかたち／絵画の姿
NODA Hiroji 1981-2011

会期：平成24(2012)年1月18日(水)～4月2日(月)

平成23年度[第15回]文化庁メディア芸術祭
2011 [15th] Japan Media Arts Festival

会期：平成24(2012)年2月22日(水)～3月4日(日)

セザンヌーパリとプロヴァンス
Cézanne. Paris-Provence

会期：平成24(2012)年3月28日(水)～6月11日(月)

大エルミタージュ美術館展 世紀の顔・西欧絵画の400年
400 Years of European Masterpieces from the State Hermitage Museum

会期：平成24(2012)年4月25日(水)～7月16日(月・祝)

「具体」―ニッポンの前衛 18年の軌跡
GUTAI: The Spirit of an Era

会期：平成24(2012)年7月4日(水)～9月10日(月)

与えられた形象―辰野登恵子／柴田敏雄
Given Forms― TATSUNO Toeko / SHIBATA Toshio

会期：平成24(2012)年8月8日(水)～10月22日(月)

リヒテンシュタイン 華麗なる侯爵家の秘宝
Masterworks from the Collections of the Prince of Liechtenstein

会期：平成24(2012)年10月3日(水)～12月23日(日・祝)

未来を担う美術家たち DOMANI・明日展2013 文化庁芸術家在外研修の成果
“DOMANI: The Art of Tomorrow 2013” Exhibition, The Achievements of the Japanese Government Overseas Study Program
for Artists provided by the Agency for Cultural Affairs

会期：平成25(2013)年1月12日(土)～2月3日(日)

アーティスト・ファイル2013―現代の作家たち
Artist File 2013―The NACT Annual Show of Contemporary Art

会期：平成25(2013)年1月23日(水)～4月1日(月)

平成24年度[第16回]文化庁メディア芸術祭
2012 [16th] Japan Media Arts Festival

会期：平成25(2013)年2月13日(水)～2月24日(日)

カリフォルニア・デザイン 1930-1965 —モダン・リビングの起源—
California Design, 1930-1965: "Living in a Modern Way"

会期：平成25(2013)年3月20日(水・祝)～6月3日(月)

フランス国立クリュニー中世美術館所蔵「貴婦人と一角獣」展
The Lady and the Unicorn from the Musée de Cluny, Paris, France

会期：平成25(2013)年4月24日(水)～7月15日(月・祝)

アンドレアス・グルスキー展
ANDREAS GURSKY

会期：平成25(2013)年7月3日(水)～9月16日(月・祝)

アメリカン・ポップ・アート展
American Pop Art: From the John and Kimiko Powers Collection

会期：平成25(2013)年8月7日(水)～10月21日(月)

印象派を超えて一点描の画家たち ゴッホ、スーラからモンドリアンまで
クレラー＝ミュラー美術館所蔵作品を中心に
Divisionism from Van Gogh and Seurat to Mondrian

会期：平成25(2013)年10月4日(金)～12月23日(月・祝)

未来を担う美術家たち 16th DOMANI・明日展 文化庁芸術家在外研修の成果
"16th DOMANI: The Art of Tomorrow" Exhibition, The Achievements of the Japanese Government Overseas Study Program
for Artists provided by the Agency for Cultural Affairs

会期：平成25(2013)年12月14日(土)～平成26(2014)年1月26日(日)

平成25年度[第17回]文化庁メディア芸術祭
2013 [17th] Japan Media Arts Festival

会期：平成26(2014)年2月5日(水)～2月16日(日)

2-3 展覧会記録 Exhibition Details

イメージの力—国立民族学博物館コレクションにさぐる The Power of Images: The National Museum of Ethnology Collection

会期：平成26(2014)年2月19日(水)～6月9日(月)
日数：61日(全会期：97日)
会場：国立新美術館 企画展示室2E
入場者数：45,056人(1日平均739人)(全会期：59,767人)
入場：有料
主催：国立新美術館、国立民族学博物館
共催：日本文化人類学会
後援：NHKプロモーション
協力：国立情報学研究所、千里文化財団

講演会等：

●講演会『「イメージの力」展にイメージの力をさぐる』
日時：4月5日(土)14時～15時30分
講演：吉田憲司(国立民族学博物館文化資源研究センター教授)
会場：国立新美術館 講堂
参加者数：105人

●ギャラリー・トーク

日時：5月18日(日)14時～15時
出演：ハワード・モーフィ(文化人類学者・オーストラリア国立大学教授)
会場：国立新美術館 企画展示室2E
参加者数：60人

関連記事：

artscape／平成26(2014)年4月15日／安藤礼二
読売新聞／4月17日／榎木野衣
The Japan Times／5月1日／C.B. Liddell
東奥日報／5月5日／福住廉
SPUR／5月号／今日マチ子
他 多数

※本展の平成25年度開催記録及び出品リストは、『平成25年度 国立新美術館活動報告』に記載した。



4月5日 講演会

中村一美展
NAKAMURA Kazumi

1980年代初頭に本格的な絵画制作を開始した中村一美（1956生）は、同世代の中でも、もっとも精力的な活動を展開してきた現代美術作家・画家の一人である。中村は、「絵画は何のために存するのか、絵画とは何なのか」という疑問に答えるために、西欧のモダニズム絵画の到達点とみなされていたアメリカの抽象表現主義絵画の研究から出発し、彼らの芸術を乗り越える新たな絵画・絵画理論の探求を行ってきた。そのために中村が特に参照したのは、日本の古代・中世絵画、中国宋代の山水画、朝鮮の民画など、東アジアの伝統的な絵画における空間表現や、形象の記号的・象徴的作用であった。また中村は、絵画の意味は別の絵画との差異の中にしか存在しえないという認識に基づく「示差性の絵画」という概念を、すでに1980年代に提出している。それゆえその絵画は、同じモチーフに抛りながらも、つねに複数の作品が差異を示しながら展開する連作として制作されてきた。「存在の鳥」連作に代表される近年の絵画では、象形文字を思わせるマトリクスに基づきながら、多様な色彩や筆触や描法を駆使することで、抽象とも具象とも分類できない、新しいタイプの絵画の創造に取り組んでいる。

展覧会では、中村が独自の絵画スタイルを最初に提示した「Y型」から、「斜行グリッド」、「開かれたC型」にいたる、絵画の形式的探求を進めた1980年代、社会意味論としての絵画を実現した1990年代の「連差一破房」、「破庵」、「採桑老」、「死を悼みて」、2000年代からの「織桑鳥」、「存在の鳥」などの鳥の絵画、さらに最新作「聖」まで、30年以上にわたる作家の展開を、大作を中心に連作ごとに紹介した。学生時代の習作を合わせて、およそ150点の出品作品による展覧は、中村一美の絵画実践の全貌を、順序立てて一望できる貴重な機会となり、一般来館者とともに美術館学芸員や批評家などの専門家にも、強い印象を与えた。また、2010年に構想されながら実現を見ていなかった、斜行グリッドによるウォール・ペインティングを初めて実現し、実験的な「ペインティング・オン・ペインティング」の展示を行ったことも話題となった。

作家・中村一美氏が、本展を主要な事由として、平成26年度芸術選奨文部科学大臣賞を受賞したことは、特記すべき事柄として挙げられる。

Nakamura Kazumi (b. 1956) began his full-fledged career as a painter in the early 1980s, and has been one of the most active among his generation of contemporary artists. For what purpose does painting exist? What is painting, anyway? Nakamura set out to answer these fundamental questions by studying Abstract Expressionism, which was considered to be the culmination of modernist painting in the West, while pursuing new painting theories and practices that represented a departure from the Abstract Expressionist approach. Of particular interest to Nakamura were the spatial expressions and symbolism of traditional Eastern painting, such as Japanese ancient and medieval painting, Chinese Song Dynasty landscape painting, and Korean folk painting. By the 1980s, he had already advanced his concept of “differential painting,” involving the perception that a painting’s meaning is defined by its differences from other paintings. Based on this concept, he produced paintings in series, creating a number of works displaying variations on a single motif. In his recent work, as exemplified by the *A Bird in its Existence* series, Nakamura has been exploring a new mode of painting that cannot be categorized as either abstract or figurative, fitting a variety of color schemes, brushstrokes, and painting techniques into a matrix that recalls the structure of pictographic characters.

This exhibition was a comprehensive overview of Nakamura’s 30-plus-year career thus far, with a focus on large paintings. It included paintings with a Y-shaped motif, his first highly original works for which he gained attention in the early 1980s; other formal explorations of the 1980s such as the *Diagonal Grid* and *C Opened* series; his 1990s work with painting as social semantics, such as *Ranging Difference – Broken Shelter*, *Broken Hermitage*, *Saisoro*, and *Mourning for the Dead*; his bird-themed paintings from the 2000s onward, such as *Shokusocho (Phoenix)* and *A Bird in its Existence*, and his most recent work, *Hijiri (Hermit)*. All told the exhibition contained around 150 paintings, from studies made during his student years to his latest pieces, and provided an excellent opportunity to consider Nakamura’s work and development, making a powerful impact both on general viewers and on specialists such as museum curators and art critics. It also featured a wall painting with diagonal geometric patterns, on which other paintings were hung, a so-called “painting on painting” experiment that Nakamura conceived in 2010 and put into practice here for the first time to considerable acclaim.

It should be noted that this exhibition provided the primary impetus for Nakamura’s earning an Art Encouragement Prize for fiscal 2014 from the Japanese Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology.

会期：平成26（2014）年3月19日（水）～5月19日（月）
日数：43日（全会期；55日）
会場：国立新美術館 企画展示室1E
入場者数：16,473人（1日平均383人）（全会期；18,939人）
入場：有料
主催：国立新美術館

講演会等：

●講演会「私の絵画について」
日時：4月26日（土）14時～15時30分
講演：中村一美（出品作家）
会場：国立新美術館 講堂
参加者数：163人



関連事業：

●アーティスト・ワークショップ「鳥ならざる鳥を描く ―逆から思考する、絵画―」

日時：5月10日（土）11時～16時30分

講師：中村一美（画家）

会場：国立新美術館 別館3階多目的ルーム他

対象：一般（小学校高学年以上）

参加者数：27人

カタログ：『中村一美展』

A4変型、240ページ、図版カラー179点・白黒9点、4,000部
差し込み；A4判変型、二つ折、図版カラー12点

出品目録：仕上りA4判、蛇腹折、8ページ、34,000部

ポスター：B1判、1,000部

B3判、3,200部

B3変型（インターサイズ）、1,170部

チラシ：A4判、115,000部

関連記事：

エコノミスト／平成26（2014）年4月8日号／石川健次

朝日新聞／4月30日／大西若人

毎日新聞／4月30日／岸桂子

産経新聞／5月1日／渋谷和彦

芸術新潮／5月号

※出品リスト：pp.89-92

※本展の平成25年度開催記録は、『平成25年度 国立新美術館活動報告』に記載した。



4月26日 講演会

魅惑のコスチューム：バレエ・リュス展 Ballets Russes: The Art of Costume

本展覧会は、1909年のパリに彗星のごとく登場し、一世を風靡した伝説のバレエ団バレエ・リュスの活動を、舞台衣裳を通して紹介する展覧会であった。セルゲイ・ディアギレフ(1872-1929)が主宰した同バレエ団は、ワツラフ・ニジンスキー(1889-1950)やレオニード・マシーン(1895-1979)をはじめとするダンサー兼振付家に加え、20世紀を代表する音楽家ストラヴィンスキーら、数々の新しい才能を輩出した。ロシアのエキゾティシズムとして人気を集めたバレエ・リュスは、やがてピカソやマティス、コクトー、ブラック、ローランサン、シャネルら、当時パリで活躍していた前衛の若手アーティストを取り込み、新しいスタイルの「総合芸術」として、バレエだけでなく、美術や音楽、ファッションの世界にも革新と興奮をもたらした。

本展では、オーストラリア国立美術館が有する世界屈指のバレエ・リュスのコスチューム・コレクションから32演目、約140点の衣裳作品を年代順に4期(初期、中期、後期、後継バレエ団)に分類し、デザイン画や資料および国内借用作品と併せて、バレエ・リュスの全20年間の活動を紹介した。

This exhibition presented costumes for the stage that conveyed the achievements of the legendary avant-garde Ballets Russes, which stunned audiences from the moment it emerged in Paris in 1909. Led by Sergei Diaghilev (1872-1929), the troupe produced many remarkable new talents including dancers and choreographers Vaslav Nijinsky (1889-1950) and Leonide Massine (1895-1979), the renowned 20th century composer Igor Stravinsky, and many others.

The Ballets Russes originally gained popularity in part thanks to the exoticism of its Russian origins, and went on to bring together a galaxy of young Parisian avant-garde artists and designers including Pablo Picasso, Henri Matisse, Jean Cocteau, Georges Braque, Marie Laurencin, and Coco Chanel. In the company's hands ballet became a multidisciplinary hotbed of innovation that electrified not only the world of ballet but also those of art, music, and fashion.

The exhibition featured about 140 costumes and accessories from 32 Ballets Russes productions, from the collection of the National Gallery of Australia, one of the largest and finest in the world. It was divided chronologically into four periods (early, middle, late, and later companies that carried on the Ballets Russes legacy) and supplemented by design drawings, historical materials, and items borrowed from sources in Japan, presenting an overview of the entire 20-year history of the Ballets Russes.

会期：平成26(2014)年6月18日(水)～9月1日(月)

日数：67日

会場：国立新美術館 企画展示室1E

入場者数：74,067人(1日平均1,105人)

入場：有料

主催：国立新美術館、TBS、オーストラリア国立美術館、読売新聞社

後援：オーストラリア大使館、公益社団法人日本バレエ協会

協賛：大日本印刷、チャコット

助成：豪日交流基金

協力：K-BALLET、日本航空、ヤマトロジスティクス

講演会等：

●講演会「開幕記念講演会 Ballets Russes: The Art of Costume」、
「Behind the Scenes: The Conservation of the Costumes of
the Ballets Russes」

日時：6月18日(水) 14時～16時

講演：ロバート・ベル(オーストラリア国立美術館装飾芸術・デザイン部門シニア・キュレーター)、ミシェル・フォード(オーストラリア国立美術館シニア・テキスタイル・コンサヴェーター)

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：155人

●講演会「バレエ音楽の歴史とバレエ・リュス」

日時：6月22日(日) 14時～15時30分

講演：福田一雄(指揮者)

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：110人

●講演会「ディアギレフー美を追い続けた男」

日時：7月6日(日) 14時～15時30分

講演：鈴木晶(舞踊評論家、法政大学教授、早稲田大学大学院客員教授)

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：170人



●解説会「魅惑のコスチューム：バレエ・リュス」

日時：7月11日(金) 18時30分～19時

講演：本橋弥生(学芸課主任研究員)

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：85人

●講演会「バレエ・リュスの功績」

日時：7月13日(日) 14時～15時30分

講演：薄井憲二(公益社団法人日本バレエ協会会長)

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：200人

●解説会「魅惑のコスチューム：バレエ・リュス」

日時：8月15日(金) 18時30分～19時

講演：本橋弥生(学芸課主任研究員)

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：115人

関連事業：

●上映会「バレエ・リュス 踊る喜び、生きる喜び」

(監督：ダン・ゲラー、デイナ・ゴールドファイン、2005年、118分)

日時：6月21日(土) 10時30分～12時30分、13時～15時、15時30分～17時30分

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：310人

●上映会「バレエ・リュス 踊る喜び、生きる喜び」

(監督：ダン・ゲラー、デイナ・ゴールドファイン、2005年、118分)

日時：8月16日(土) 10時30分～12時30分、13時～15時、15時30分～17時30分

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：682人

●アーティスト・ワークショップ「2.5D 着られるイラスト バレエ・リュス ペーパーチュニックコレクション2014」

日時：7月26日(土) 13時30分～17時

企画協力：文化学園大学大学院生活環境学研究科グローバルファッション専修

ワークショップリーダー：高木陽子(文化学園大学大学院教授)、ダフネ・モハジャヴァペサラン(非常勤講師)、ブージャ・チャダ、アシナ・チン、ナイジェル・ニューフック、レベッカ・トーマス(修士1年生)

会場：国立新美術館 別館3階多目的ルーム

対象：一般(12歳以上)

参加者数：15人

カタログ：『魅惑のコスチューム：バレエ・リュス展』

A4変型、280ページ、図版カラー226点・白黒20点、6,000部

出品目録：仕上りA4判、蛇腹折、8ページ、日本語版65,000部、英語版3,000部

ポスター：B1判、950部

B2判、800部

B3判、3,300部

B3変型(インターサイズ)、680部

チラシ：A4判、260,000部(第1版)、70,000部(第2版)

先行配布；A4判、90,000部

鑑賞ガイド：『魅惑のコスチューム：バレエ・リュス展 プチガイド』

仕上りA5判、四つ折、図版カラー8点・白黒6点、30,000部

関連記事：

美術の窓／平成26(2014)年2月号／本橋弥生(学芸課主任研究員)

装苑／4月号

MODE ET MODE／4月号／山口八千代

読売新聞／7月12日／なるほど鑑賞室

朝日新聞／7月16日／山田優

SANKEI EXPRESS／7月20日

日本経済新聞／7月23日／窪田直子

いっぶく(TBS)／7月25日

The Japan Times／8月22日／Mio Yamada

GOLD／8月号／原田マハ

他 多数

※出品リスト：pp.93-99



6月22日 講演会



7月6日 講演会

オルセー美術館展 印象派の誕生—描くことの自由—

The Birth of Impressionism – Freedom in Painting: Masterpieces from the Musée d'Orsay

1874年にパリで第1回印象派展が開催されてから140年の節目に企画された本展覧会は、フランス近代絵画の幕開けを、パリのオルセー美術館のコレクションから選りすぐった名画84点によって一望したものである。マネに始まりマネに終わる構成は、伝統と革新の狭間で西洋絵画の新たな次元を切り開いたこの画家の稀有な個性を際立たせた。また、マネと若き画家たちとの交流の証として、《バジールのアトリエ、ラ・コンダミンヌ通り》が冒頭に置かれた。初来日となった縦4メートルにも及ぶモネの野心作《草上の昼食》も、マネの影響力の大きさを象徴する1点であり、印象派の誕生を告げる試みでもあった。

そして本展の大きな特徴は、「リアリズムの諸相」、「歴史画」、「裸体」、「印象派の風景」、「静物」、「肖像」、「近代生活」といった章立てにより、近代を彩った多様な作品をときに流派を超えて並べることで、サロンに象徴される19世紀半ばのパリ画壇の雰囲気をよみがえらせたことである。とりわけ、印象派とアカデミズムの大作の競演が叶った肖像画の章は、本拠オルセー美術館でも目にするのでない展示空間となった。

This exhibition, marking 140 years since the first Impressionist exhibition was held in Paris in 1874, gave a stunning panoramic overview of the birth of modern French painting through a selection of 84 masterpieces from the Musée d'Orsay in Paris. It both began and ended with the work of Édouard Manet, highlighting the unique contribution of this pivotal figure, who ushered in a new era as Western painting stood on the cusp between tradition and innovation. At the beginning of the exhibition, the scene depicted in *Bazille's Studio, Rue de la Condamine* (by Frederic Bazille) testifies to the ties between Manet and younger artists, and Monet's iconoclastic, approximately four-meter-high *The Luncheon on the Grass*, exhibited in Japan for the first time, is emblematic of his profound influence on painting's development.

A notable characteristic of this exhibition is that it was divided into several sections, namely "Manet: The New Painting," "Realisms," "History Painting," "The Nude," "The Impressionist Landscape," "Still Life," "Portraits," "Modern Life," and "Manet and the Maturity," with a wealth of early modernist masterpieces shown side by side without rigid divisions by style or school, serving to recreate the atmosphere of the mid-19th century Paris painting world as exemplified by the Salon. In particular, the "Portraits" section was a thrilling competition between Impressionist and academic masterpieces, such as has not been seen even at the Musée d'Orsay itself.

会期：平成26（2014）年7月9日（水）～10月20日（月）

日数：92日

会場：国立新美術館 企画展示室2E

入場者数：696,442人（1日平均7,570人）

入場：有料

主催：国立新美術館、オルセー美術館、読売新聞社、日本テレビ放送網

後援：外務省、在日フランス大使館／アンスティチュ・フランス日本、J-WAVE

特別協賛：キャノン、第一生命

協賛：エールフランス航空、花王、清水建設、損保ジャパン日本興亜、大日本印刷、大和ハウス工業、トヨタ自動車、みずほ銀行、三井物産

協力：サントリー食品インターナショナル、ピー・シー・エー

※本展は、政府による美術品補償制度の適用を受けた。



講演会等：

●講演会「ヌーヴェル・オルセー 一生まれ変わるオルセー美術館」

日時：7月12日（土）14時～15時30分

講演：ギィ・コジュヴァル（オルセー美術館・オランジュリー美術館 理事長）

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：247人

●展覧会担当研究員によるレクチャー

日時：9月12日（金）18時30分～19時10分

講師：宮島綾子（学芸課主任研究員）

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：139人

●シンポジウム「マネから印象派へ —1860年代のフランス絵画の変貌」

主催：国立新美術館、日仏美術学会

日時：9月13日（土）10時～17時30分

パネリスト：三浦篤（東京大学教授）、横山由季子（学芸課アソシエイトフェロー）、安藤智子（國學院大學、法政大学、一橋大学他非常勤講師）、和南城愛理（町田市立国際版画美術館学芸員）、石谷治寛（甲南大学人間科学研究所博士研究員）、岩崎余帆子（ポーラ美術館学芸課長）

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：223人

カタログ：『オルセー美術館展 印象派の誕生—描くことの自由—』

A4変型、304ページ、図版カラー 98点・白黒56点、8,000部（第1版）、12,000部（第2版）、22,000部（第3版）

出品目録（小冊子）：A5判、8ページ、445,000部（前期配布版）、150,000部（後期配布版）

ポスター：B0判、280部

B1判、600部

B2判、9,500部

B3判、23,500部

チラシ：仕上りA4判、二つ折、200,000部（第1版）、350,000部（第2版）、170,000部（第3版）、300,000部（第4版）

先行配布：A4判、220,000部

関連記事：

読売新聞／平成26（2014）年7月1日／談：横山由季子（学芸課アソシエイトフェロー）

産経新聞／7月13日／黒沢綾子

東京新聞（夕刊）／7月18日／古谷利裕

The Japan Times／7月25日／C.B. Liddell

週刊新潮／7月31日号

シューイチ（日本テレビ）／8月3日／横山由季子（学芸課アソシエイトフェロー）

読売新聞／8月8日／井上晋治

美術の窓／8月号／談：宮島綾子（学芸課主任研究員）

ぶらぶら美術・博物館（BS日テレ）／8月29日／宮島綾子（学芸課主任研究員）

朝日新聞（夕刊）／9月3日／山田優

毎日新聞（夕刊）／9月6日／岸桂子

読売新聞（夕刊）／9月12日／前田恭二

他 多数

※出品リスト：pp.100-101



9月13日 シンポジウム

チューリヒ美術館展—印象派からシュルレアリスムまで
Masterpieces from the Kunsthaus Zürich

本展は、スイスを代表する美術館であるチューリヒ美術館の近代美術のコレクションの中から74点の絵画、彫刻を厳選し、印象派からシュルレアリスムまでの西洋美術の歴史を辿りながら紹介するものとして企画された。展覧会を構成するにあたり、時代を代表する作家を取り上げると同時に、チューリヒ美術館のコレクションの特徴を明確にするべく、ホドラー、ヴァロトton、クレー、ジャコメッティといったスイスを代表する作家、そして、モネ、ムンクやココシュカなど、同美術館が特に力を入れて収集し、そのコレクションの質の高さが世界的に知られている作家の作品を集めた。展覧会は、第1章セガンティーニ、第2章モネ、第3章ポスト印象派、第4章ホドラー、第5章ナビ派、第6章ムンク、第7章表現主義、第8章ココシュカ、第9章フォーヴィスムとキュビズム、第10章クレー、第11章抽象絵画、第12章シャガール、第13章シュルレアリスム、第14章ジャコメッティの14の章によって構成し、チューリヒ美術館が重視してきた作家と各時代を彩った美術の動向との関係性を示した。

The Kunsthaus Zürich is one of the finest art museums in Switzerland, and this exhibition featured 74 masterworks of painting and sculpture selected from its modern art collection, offering an overview of Western art history from the Impressionists of the 19th century to the Surrealists of the 20th. The exhibition was structured so as to present the work of the most prominent artists of specific eras while at the same time conveying the distinctive character and world-class quality of the Kunsthaus Zürich itself, by showcasing Swiss artists such as Ferdinand Hodler, Félix Vallotton, Paul Klee, and Alberto Giacometti, as well as artists that are strongly represented in the museum's collection including Claude Monet, Edvard Munch, and Oskar Kokoschka. *Masterpieces from the Kunsthaus Zürich* was composed of 14 sections that highlighted the artists prominently featured at the Swiss museum, the key movements of different eras, and how they were interrelated (Section 1: Giovanni Segantini, Section 2: Claude Monet, Section 3: Post-Impressionism, Section 4: Ferdinand Hodler, Section 5: The Nabis, Section 6: Edvard Munch, Section 7: Expressionism, Section 8: Oskar Kokoschka, Section 9: Fauvism and Cubism, Section 10: Paul Klee, Section 11: Abstract Painting, Section 12: Marc Chagall, Section 13: Surrealism, Section 14: Alberto Giacometti.)

会期：平成26(2014)年9月25日(木)～12月15日(月)

日数：72日

会場：国立新美術館 企画展示室1E

入場者数：300,086人(1日平均4,168人)

入場：有料

主催：国立新美術館、朝日新聞社、テレビ朝日、BS朝日

後援：外務省、スイス大使館

協賛：三井物産、トヨタ自動車、大和ハウス工業、大日本印刷、チューリッヒ保険、チューリッヒ生命

協力：スイス政府観光局、チューリヒ観光局、スイスインターナショナルエアラインズ、ルフトハンザドイツ航空、ルフトハンザカーゴAG、アクティオ

巡回展：神戸市立博物館

平成27(2015)年1月31日(土)～5月10日(日)



講演会等：

●担当研究員による作品解説会「チューリヒ美術館展の見どころについて」

日時：10月3日(金)14時～15時30分

解説：山田由佳子(学芸課研究員)

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：203人

●担当研究員による作品解説会「20世紀絵画の展開」

日時：10月19日(日)14時～15時30分

解説：長屋光枝(学芸課主任研究員)

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：123人

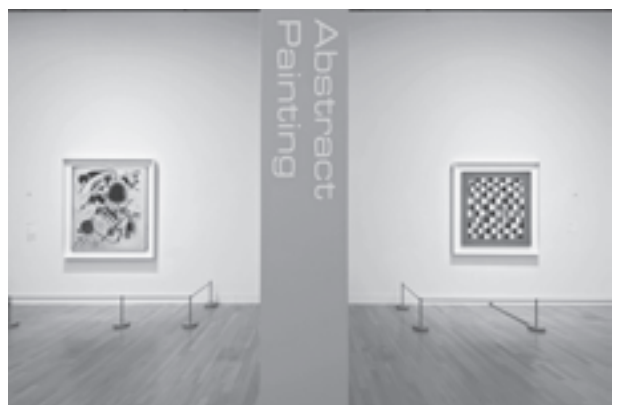
●「スイス映画の紹介を交えたレクチャー」

日時：11月2日(日)14時～15時30分

講演：大傍正規(東京国立近代美術館フィルムセンター研究員)

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：56人



関連事業：

●ワークショップ「アート de じぶんえほん」

日時：10月26日（日）13時～16時

講師：なかがわ ちひろ（絵本作家・翻訳家）

会場：国立新美術館 別館3階多目的ルーム

対象：小学校3年生から高校生まで

参加者数：18人

カタログ：『チューリヒ美術館展—印象派からシュルレアリスムまで』
A4変型、208ページ、表紙3種、図版カラー148点・白黒12点、
15,000部（第1版）、15,000部（第2版）

出品目録：仕上りA4判、二つ折、250,000部（日英併記）

ポスター：B1判、850部

B2判、3,000部

B3判、2,250部

B3変型（インターサイズ）、16,960部

チラシ：仕上りA4判、二つ折、130,000部（第1版）、230,000部（第2版）、
150,000部（第3版）

先行配布；仕上りA4判横型、蛇腹折、8ページ、150,000部

タイアップチラシ（東京ミッドタウン発行）；仕上りA4判、二
つ折、100,000部

鑑賞ガイド：『チューリヒ美術館展—印象派からシュルレアリスムまで
ミニガイド』

仕上りA5判横型、蛇腹折、8ページ、図版カラー12点、
50,000部

関連記事：

as Partenrs／平成26（2014）年10月1日

しんぶん赤旗／10月31日／森下泰輔

日本経済新聞／11月4日／宮川匡司

コトバ／2014年秋号／木村泰司

日曜美術館（NHK Eテレ）／11月30日

他 多数

※出品リスト：pp.102-103



10月3日 解説会



11月2日 レクチャー

未来を担う美術家たち 17th DOMANI・明日展 文化庁芸術家在外研修の成果

“17th DOMANI: The Art of Tomorrow” Exhibition, The Achievements of the Japanese Government Overseas Study Program for Artists provided by the Agency for Cultural Affairs

文化庁は、将来の我が国の芸術界を支える芸術家を支援するため、若手芸術家を海外に派遣し、その専門とする分野について研修の機会を提供する、「芸術家在外研修（新進芸術家海外留学制度）」を昭和42年度から実施し、美術部門での派遣者は1,000人を超える。

その研修の成果発表である本展は過去16回を数え、絵画・彫刻・写真・インスタレーション・アニメーション・工芸・建築などさまざまなジャンルから活躍中の作家を選出し、その時々々の日本の美術の在り様を提示してきた。

17回を迎える今展では、「造形の密度と純度」というテーマのもとに、造形的に非常に繊細で密度の濃い作品を制作し、それによって表現の純度を高めている新進作家12人に焦点をあてるとともに、今回初めて「保存・修復」の分野での研修者3人の発表の場も設けた。国立新美術館の大きな空間を生かした絵画、版画、写真、陶芸、鋳造、アニメーション、インスタレーションといったヴァリエーション豊かな12の展示で来場者を楽しませるとともに、「保存・修復」という美術品を支える重要な分野への理解を深める貴重な機会となった。

The Agency for Cultural Affairs has run the Overseas Study Program for Artists (Program of Overseas Study for Upcoming Artists) since 1967. The government sends young artists overseas and provides a training course on each specialty, in order to support artists who will play a supporting role in the future art world in Japan. The number of trainees in fine art has exceeded 1,000.

This Exhibition held 16 times to introduce the achievements of the program, where some artists, who have been working on diverse categories, including painting, carving, photography, installation, animation, handicraft and architecture, were selected to show Japanese art of the times.

With the theme of “Density and Purity of Japan’s Contemporary Art,” this 17th Exhibition focused on 12 emerging artists who create very delicately modeled and dense works of art and, by doing so, heighten the purity of their artistic expression. For the first time in the history of the program, the work of three trainees in the Conservation and Restoration category was also presented. Viewers enjoyed the 12 sections of the exhibition, which were richly varied, ranging from painting to printmaking, photography, ceramics, casting, animation and installation, and made effective use of the spacious galleries of The National Art Center, Tokyo. It was also a valuable opportunity for visitors to enrich their understanding of conservation and restoration that support works of art.

会期：平成26（2014）年12月13日（土）～平成27（2015）年1月25日（日）

日数：27日

会場：国立新美術館 企画展示室2E

入場者数：13,906人（1日平均515人）

入場：有料

主催：文化庁、国立新美術館、読売新聞社、アート・ベンチャー・オフィス ショウ

制作：アート・ベンチャー・オフィス ショウ

講演会等：

●ギャラリートーク

日時：12月13日（土）11時～

講演：岩崎貴宏、奥谷太一、古武家賢太郎

会場：国立新美術館 企画展示室2E

参加者数：65人

●ギャラリートーク

日時：12月14日（日）14時～

講演：紙川千亜紀、小林俊哉、北野謙

会場：国立新美術館 企画展示室2E

参加者数：45人

●ギャラリートーク

日時：12月21日（日）11時～

講演：入江明日香、関根直子

会場：国立新美術館 企画展示室2E

参加者数：70人

●ギャラリートーク

日時：平成27（2015）年 1月10日（土）11時～

講演：濱田富貴、和田淳

会場：国立新美術館 企画展示室2E

参加者数：70人



●修復家研修発表

日時：1月11日(日) 14時～

講演：北野珠子、野村悠里、邊牟木尚美

会場：国立新美術館 研修室A,B

参加者数：64人

●座談会「海外で修復を勉強するということ」

日時：1月11日(日) 15時～

講演：北野珠子、野村悠里、邊牟木尚美

ゲスト：尾形純(Tokyo Conservation 修復室長)

会場：国立新美術館 研修室A,B

参加者数：64人

●ギャラリーツアー

日時：1月12日(月・祝) 11時～

講演：本江邦夫(多摩美術大学教授)

会場：国立新美術館 企画展示室2E

参加者数：65人

●座談会「海外で修復を勉強するということ」

日時：1月18日(日) 14時～

講演：梶浦聖子、濱田富貴、奥谷太一、古武家賢太郎

会場：国立新美術館 研修室A,B

参加者数：45人

●ギャラリートーク

日時：1月24日(土) 14時～

講演：梶浦聖子

会場：国立新美術館 企画展示室2E

参加者数：50人

カタログ：『未来を担う美術家たち 17th DOMANI・明日展 文化庁
芸術家在外研修の成果』

A4変型、152ページ、図版カラー180点、2,200部

出品目録：仕上りA4判、二つ折、7,000部

ポスター：B1判、300部

B2判、1,400部

チラシ：A4判、120,000部

関連記事：

月刊美術／平成26(2014)年11月20日

産経新聞／12月21日

朝日新聞／12月24日

SANKEI EXPRESS／12月29日

FIGARO JAPON／2015年2月号

他 多数

※出品リスト：pp.104-106



1月12日 ギャラリーツアー



1月24日 ギャラリートーク

平成26年度 [第18回] 文化庁メディア芸術祭
2014 [18th] Japan Media Arts Festival

文化庁メディア芸術祭はアート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの4部門において優れた作品を顕彰するとともに、受賞作品の鑑賞機会を提供するメディア芸術の総合フェスティバルである。平成9年度(1997年)の開催以来、高い芸術性と創造性をもつ優れたメディア芸術作品を顕彰し、受賞作品の展示・上映や、シンポジウム等の関連イベントを実施する受賞作品展を開催している。

平成26年度 [第18回] 文化庁メディア芸術祭受賞作品展では、アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの4部門で国内外3,853作品の応募から選ばれた受賞作品や審査委員会推薦作品、功労賞受賞者の功績等を紹介。各部門の審査委員による厳正な審査で選ばれた作品群と、さまざまなイベントを通じて、メディア芸術の“いま”を映し出した。

The Japan Media Arts Festival is a wide-ranging celebration of the media arts that honors and exhibits the year's most notable achievements in four divisions: art, entertainment, animation, and manga. Held annually since 1997, the festival centers on the designation of works of outstanding artistic merit and creativity in the media arts and the display and screening of the prize-winning works, along with symposiums and other related events.

The 2014 [18th] Japan Media Arts Festival exhibit featured award winners selected from 3,853 Japanese and international entries in the divisions of art, entertainment, animation, and manga, together with "jury selections" (entries receiving honorable mention) and works by recipients of the Special Achievement Award. Between the rich array of award-winning works selected through rigorous jury screening in each division and the impressive lineup of events, the festival provided a vivid picture of the media arts scene today.

会期：平成27(2015)年2月4日(水)～2月15日(日)

日数：11日

会場：国立新美術館 企画展示室2E

入場者数：43,660人(1日平均3,969人)

※サテライト会場：シネマート六本木 [1階エントランス、3階シネマートホール]、スーパー・デラックス
入場者数：6,903人

入場：無料

主催：文化庁メディア芸術祭実行委員会

企画・運営：文化庁メディア芸術祭事務局(CG-ARTS協会内)

協力：シネマート六本木、スーパー・デラックス、J-WAVE

講演会等：(会場：国立新美術館 講堂)

●シンポジウム

・テーマシンポジウム「メディアアートの記述は可能か？」

日時：2月5日(木) 15時～17時

出演：上崎千、植松由佳、檜垣智也、山口祥平

モデレーター：松井茂

参加者数：45人

・功労賞シンポジウム「ネットワーク・ツールとしてのヴィデオ：通信テクノロジー・芸術・社会」

日時：2月6日(金) 17時30分～19時20分

出演：山本圭吾、クリストフ・シャルル、馬定延

モデレーター：田坂博子

参加者数：48人

・功労賞シンポジウム「僕は世界中のマンガと共に生きてきたー海外マンガ紹介の第一人者 小野耕世の業績を振り返るー」

日時：2月7日(土) 11時～12時30分

出演：小野耕世、すがやみつる

モデレーター：椎名ゆかり、原正人

参加者数：47人

・功労賞シンポジウム「ディズニー・アニメーションの魅力」

日時：2月11日(水・祝) 13時～14時30分

出演：渡辺泰、鈴木伸一

モデレーター：小出正志

参加者数：124人

・功労賞シンポジウム「コモンセンスとしてのテクノロジー」

日時：2月11日(水・祝) 15時30分～17時20分

出演：岩政隆一、内田まほろ、小西哲哉

モデレーター：東泉一郎

参加者数：106人

・テーマシンポジウム「想像の共有地(コモンズ)」

[第1部]「美術・歴史・日本—自作を語るための歴史とは」

日時：2月15日(日) 13時～14時30分

出演：中ザワヒデキ、大澤真幸

モデレーター：室井尚

参加者数：136人

[第2部]「メディウム(=メディア)からはじまる新時代の(批評)」

日時：2月15日(日) 15時30分～17時

出演：gnck、塚田優、三輪健太郎

モデレーター：石岡良治

参加者数：138人

●マンガ部門受賞者プレゼンテーション

・「マンガを喰らえ!!～『愛を喰らえ!!』の言葉とロマンス」

日時：2月8日(日) 12時～13時30分

出演：ルネッサンス吉田、すがやみつる

モデレーター：ヤマダトモコ

企画：斎藤宣彦

参加者数：79人

・「時代の舟に揺られて」

日時：2月8日(日) 14時～15時30分

出演：近藤ようこ、李昆武、犬木加奈子、すがやみつる

モデレーター：ヤマダトモコ

企画：斎藤宣彦

参加者数：59人

・「イメージネーションの遠心力」

日時：2月8日(日) 16時～17時30分

出演：いがらしみきお

モデレーター：伊藤剛

企画：斎藤宣彦

参加者数：77人

●第18回文化庁メディア芸術祭海外参加事業報告会「グローバル化の中のメディア芸術」

[第1部]「変容するメディア芸術：芸術とエンターテインメントの間」に

日時：2月14日(土)13時30分～15時

出演：楠見清、三原聡一郎、宇川直宏

モデレーター：毛利嘉孝

参加者数：94人

[第2部]「メディア芸術の諸相：マンガと日常／マンガの日常」

日時：2月14日(土)15時30分～17時

出演：伊藤遊、しりあがり寿

モデレーター：吉岡洋

参加者数：70人

関連事業：

●ワークショップ

・『「The Sense of touch」鑑賞ワークショップ～聴覚障害者を描いた作品をめぐって』

日時：2月5日(木)10時30分～15時

会場：国立新美術館 研修室A,B、企画展示室2E

出演：Jean-Charles MBOTTI MALOLO

協力：NPOインフォメーションギャップバスター

参加者数：12人

・『「Nyloid」鑑賞ワークショップ～視聴覚障害者とともに』

日時：2月7日(土)10時30分～15時30分

会場：国立新美術館 研修室A,B、企画展示室2E

出演：Cod.Act (Michel DÉCOSTERD / André DÉCOSTERD)

協力：NPOインフォメーションギャップバスター、視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ

参加者数：30人

・「ラズベリー・パイを活用したプログラミング初級講座」

日時：2月8日(日)10時30分～12時30分

講師：久保田晃弘、田所淳

会場：国立新美術館 研修室A,B

参加者数：22人

・「先生たちのためのラズベリー・パイを活用したプログラミング講座」

日時：2月8日(日)15時～17時

講師：久保田晃弘、田所淳

会場：国立新美術館 研修室A,B

協力：アールエスコンポーネンツ株式会社

参加者数：32人

・「視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ」

日時：2月14日(土)、15日(日)10時～12時

会場：国立新美術館 企画展示室2E

協力：視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ

参加者数：14日20人、15日18人

・「光る！動く！導電インクを使ったポスターを作ろう」

日時：2月14日(土)10時30分～12時、14時～15時30分

講師：水江未来

会場：国立新美術館 研修室A,B

企画：PPP

参加者数：午前16人、午後21人

・『Ingress』初級講習会

日時：2月15日(日)13時30分～16時30分

講師：飯田和敏、米光一成

会場：国立新美術館 研修室A,B

参加者数：23人

●デモンストレーション(会場：国立新美術館 企画展示室2E)

・アート部門優秀賞『これは映画ではないらしい』

日時：2月11日(水・祝)、14日(土)14時～14時30分、15時45分～16時15分

出演：五島一浩

・エンターテインメント部門新人賞『Slime Synthesizer』

日時：2月7日(土)、8日(日)13時～13時30分、14時～14時30分

出演：ドリタ／エアガレージラボ(川内尚文／佐々木有美)

・エンターテインメント部門優秀賞『handiii』

日時：2月7日(土)、8日(日)13時30分～14時、14時30分～15時、2月11日(水・祝)13時～13時30分、15時～15時30分

出演：近藤玄大／山浦博志／小西哲哉

●ガイドツアー(会場：国立新美術館 企画展示室2E)

・一般対象

日時：2月4日(水)、6日(金)、9日(月)、12日(木)、13日(金)11時～12時
参加者数：84人(全5回)

・小学生対象

日時：2月6日(金)17時～18時、8日(日)、11日(水・祝)11時～12時
参加者数：34人(全3回)

●平成26年度メディア芸術クリエイター育成支援事業成果プレゼンテーション「いま、作品をつくるということ」

日時：2月11日(水・祝)13時～16時

出演：有坂亜由夢、最後の手段(木幡蓮、おいたまい)、大脇理智、チーム「ストリッカー」(ゴッドスコピオン 宮城恵介、hnnhn、Rei Nakanishi)、ぬQ、三原聡一郎、安野太郎、吉野耕平、遠藤雅伸、タナカカツキ、田中秀幸、野村辰寿

会場：国立新美術館 研修室A,B

参加者数：61人

●プログラム上映(会場：国立新美術館 研修室A,B)

上映日：2月4日(水)、5日(木)、6日(金)、9日(月)、12日(木)、13日(金)
参加者数：949人

●アーティストトーク(会場：国立新美術館 企画展示室2E)

日時：2月4日(水)、5日(木)10時30分～11時30分、13時～14時30分

・アート部門新人賞『A Tale of Tehrangeles』

出演：Anahita RAZMI

・アート部門新人賞『Symbiotic Machine』

出演：Ivan HENRIQUES

・アート部門新人賞『Temps mort / Idle times - dinner scene』

出演：Alex VERHAEST

・エンターテインメント部門優秀賞『3RD』

出演：Niki SMIT / Simon van der LINDEN

・エンターテインメント部門新人賞『Auto-Complain』

出演：Florian BORN

カタログ：『平成26年度[第18回]文化庁メディア芸術祭受賞作品集』
A5判、368ページ、5,000部

会場ガイド：A5判、40ページ、60,000部

ポスター：B1判、450部

B2判、1,400部

チラシ：A4判、55,000部

子ども向け企画チラシ：A4判、10,000部

探検カード：A6判、6種、10,000部

関連記事：

世界ふしぎ発見！(TBS)／平成27(2015)年1月17日

ニュースJAPAN(フジテレビ)／2月2日

BEAT PLANET(J-WAVE)／2月4日

NEWS ZERO(日本テレビ)／2月12日

めざましテレビ(フジテレビ)／2月13日

他 多数

※出品リスト：pp.107-108

ルーヴル美術館展 日常を描く—風俗画にみるヨーロッパ絵画の真髄
Louvre Museum: Genre Painting – Scenes from Daily Life

本展は、ルーヴル美術館の所蔵品83点をとおして、16世紀から19世紀半ばに至るヨーロッパ風俗画の多様な展開をさまざまな角度から検証しようとした企画である。構成において特徴的であったのは、国別・年代順ではなく、風俗画に固有の特質を明らかにしようとする6つのテーマに基づいて作品を分類・展示したことである。国と時代の枠を超えた章立ての風俗画展は世界的にも前例がないため、初の試みとなった本展の学術的意義は大きい。また、展覧会の導入部として、日常的情景の描写が見いだされる古代作品を集めたセクション、次いで、絵画を主題によって分類する「ジャンル」の概念を説明するセクションを設け、鑑賞者が風俗画の歴史や理論についての予備知識を得られるように配慮したことも、本展ならではの工夫として特筆されよう。

[構成] プロローグ I. 「すでに、古代において…」風俗画の起源

プロローグ II. 絵画のジャンル

I. 「労働と日々」— 商人、働く人々、農民

II. 日常生活の寓意 — 風俗描写を超えて

III. 雅なる情景 — 日常生活における恋愛遊戯

IV. 日常生活における自然 — 田園的・牧歌的風景と風俗的情景

V. 室内の女性 — 日常生活における女性

VI. アトリエの芸術家

This exhibition, made up of 83 works from the Musée du Louvre's collection, examined from multiple perspectives the fascinatingly diverse development of genre painting from the 16th to the mid-19th century. In terms of structure, the exhibition notably featured works categorized not by chronology or country of origin, but according to six themes, selected so as to highlight the distinctive attributes of genre painting. A genre-painting exhibition arranged in sections like this, with works of different nations and eras grouped together, was an unprecedented endeavor, and as such the show was of considerable scholarly import. It was also notable in that its introductory section brought together ancient works depicting scenes from everyday life, followed by a section outlining the concept of the "genre" (i.e. classification of paintings by subject matter), providing viewers with background information on the history and theory of genre painting.

[Sections] Introduction I. *Already, in Antiquity...* Origins of Genre Painting

Introduction II. Genre in Painting

I. *Works and Days*: Merchants, Laborers, and Peasants

II. Allegories of Daily Life: Genre Scenes Transcended

III. Scenes of Gallantry: Amorous Encounters in Daily Life

IV. Nature in Daily Life: Rural and Pastoral Landscapes, Genre Scenes

V. Women in Interiors: The Daily Life of Women

VI. The Artist in His Studio

会期：平成27(2015)年2月21日(土)～6月1日(月)

日数：33日(全会期；89日)

会場：国立新美術館 企画展示室1E

入場者数：215,349人(1日平均6,526人)

入場：有料

主催：国立新美術館、ルーヴル美術館、日本テレビ放送網、読売新聞社

後援：在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本

特別協賛：野村證券

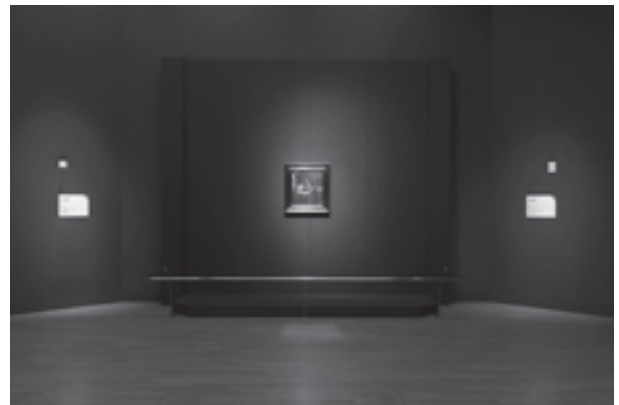
協賛：大日本印刷、損保ジャパン日本興亜

協力：エールフランス航空、日本通運、JR東日本、BS日テレ、CS日テレ、ラジオ日本、J-WAVE、InterFM、文化放送、テレビ神奈川

企画協力：NTVヨーロッパ

巡回展：京都市美術館

平成27(2015)年6月16日(火)～9月27日(日)



※本展は、政府による美術品補償制度の適用を受けた。

関連事業：

●「ルーヴル美術館展 アート・トーク」

日時：3月20日（金）18時～19時

出演：山田五郎、平野綾

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：260人

カタログ：『ルーヴル美術館展 日常を描く—風俗画にみるヨーロッパ
絵画の真髄』

A4変型、236ページ、図版カラー 102点・白黒137点、20,000
部（第1版）、15,000部（第2版）

日仏バイリンガル版；A4変型、292ページ、図版カラー 102
点・白黒137点、5,000部

出品目録：仕上りA4判、二つ折、日本語版600,000部、英語版10,000部

作品解説パネル英訳：A4判、二つ折、50,000部

ポスター：B1判、3,000部

B2判、650部

B3判、80,000部

チラシ：仕上りA4判、二つ折、300,000部（第1版）、450,000部（第2版）

A4判、150,000部（第3版）

先行チラシ；A4判、350,000部

鑑賞ガイド：『ルーヴル美術館展 ジュニアガイド』

A5判、12ページ、図版カラー6点、350,000部

関連記事：

読売新聞／平成26（2014）年7月18日／三井美奈

美術の窓／平成27（2015）年1月10日／宮島綾子（学芸課主任研究員）

ZIP!（日本テレビ）／2月9日～3月31日

新美術新聞／2月15日／宮島綾子（学芸課主任研究員）

読売新聞／2月19日／星野知子、ヴァンサン・ボマレッド

NEWS ZERO（日本テレビ）／2月19日

The Japan Times／2月20日

産経新聞／3月1日／黒沢綾子

読売新聞／3月2日／井上晋治

毎日新聞／3月11日／高階秀爾

日曜美術館（アートシーン）（NHK Eテレ）／3月15日

他 多数

※出品リスト：pp.109-111

※本展の平成27年度開催記録は、『平成27年度 国立新美術館活動報告』に記載する。



マグリット展 René Magritte

会期：平成27(2015)年3月25日(水)～6月29日(月)

日数：6日(全会期；86日)

会場：国立新美術館 企画展示室2E

入場者数：21,394人(1日平均3,566人)

入場：有料

主催：国立新美術館、ベルギー王立美術館、読売新聞社、TBS

共催：WOWOW、TOKYO FM、ぴあ

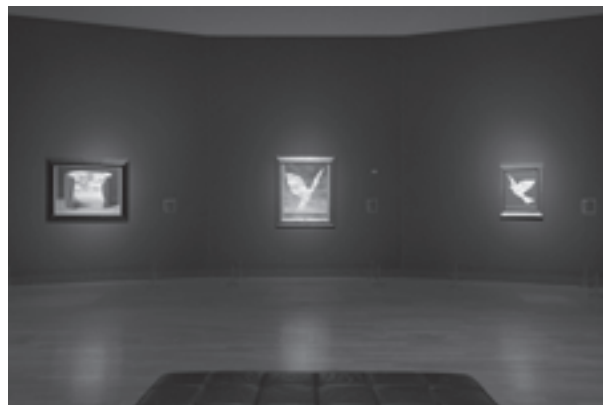
後援：ベルギー大使館、BS-TBS

協賛：花王、損保ジャパン日本興亜、大日本印刷、東レ、トヨタ自動車
特別協賛：キヤノン

協力：エールフランス航空、住友ベークライト、日本貨物航空、日本航空
監修：ミシェル・ドラゲ(ベルギー王立美術館館長)、南雄介(国立新美術館副館長)

巡回展：京都市美術館

平成27(2015)年7月11日(土)～10月12日(月・祝)



※本展は、一部作品について政府による美術品補償制度の適用を受けた。

講演会等：

●講演会「10作品で分かるマグリット」

日時：3月25日(水)14時～15時30分

講演：ミシェル・ドラゲ(ベルギー王立美術館館長)

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：250人

カタログ：『マグリット展』

A4変型、300ページ、図版カラー260点・白黒18点、12,000部
(第1版)

出品目録：仕上りA4判、蛇腹折、6ページ、日本語版100,000部、英語版
30,000部

ポスター：B0判、200部

B1判、200部

B2判、4,250部

B3判、6,500部

チラシ：仕上りA4判、二つ折、2種、200,000部・300,000部

先行配布；A4判、2種、各80,000部

鑑賞ガイド：『ようこそマグリットの不思議な絵の世界へ』

仕上りA5変型、蛇腹折、8ページ、図版カラー11点、30,000部

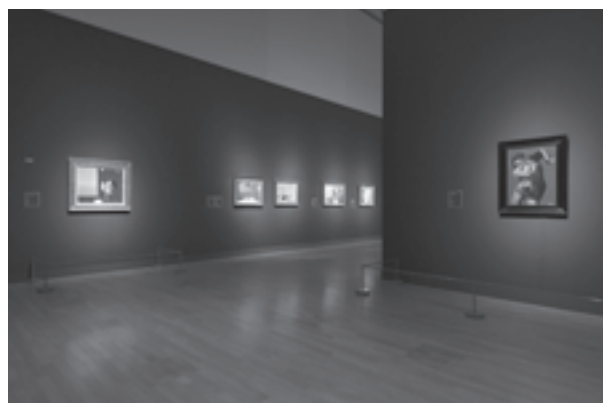
関連記事：

日経おとなのOFF／平成26(2014)年12月6日

読売新聞／平成27(2015)年3月22日

産経新聞／3月29日／渋沢和彦

他 多数



3月25日 講演会

※本展の平成27年度開催記録及び出品リストは、『平成27年度 国立新美術館活動報告』に記載する。

3

美術団体等への展覧会会場提供

Provision of Exhibition Venues to
Artist Associations

全国的な活動を行っている美術団体等が実施する公募展等への展覧会会場の提供を行った。平成26年度は、69団体に展覧会会場を提供し、第1会期から第25会期（平成26年4月1日から平成27年3月30日）までの公募展等の入場者数は合計1,193,917人であった。

また、前年度の経験を踏まえ、施設・備品の管理運営の改善に取り組んだ。

The National Art Center, Tokyo provides exhibition space to artist associations from around the country for public exhibitions and other events. In fiscal 2014, 69 such exhibition were held at NACT, attracting a total of 1,193,917 visitors from Session 1 to Session 25 (April 1, 2014 to March 30, 2015). Building on our experiences from the previous fiscal year, we worked to improve the management of the equipment and facilities provided.

平成26年度会場使用団体一覧

団体名：一般社団法人 創元会

展覧会名：第73回 創元展

会期／日数：4月2日（水）～4月14日（月）／12日

展示室：1A, 1B, 1C, 1D

入場者数：24,385人



団体名：現代日本書家協会

展覧会名：第30回 全国公募書道展

会期／日数：4月16日（水）～4月29日（火・祝）／13日

展示室：3A

入場者数：2,983人



団体名：一般社団法人 示現会

展覧会名：第67回 示現会展

会期／日数：4月2日（水）～4月14日（月）／12日

展示室：2A, 2B, 2C, 2D

入場者数：22,124人



団体名：国画会

展覧会名：第88回 国展

会期／日数：5月1日（木）～5月12日（月）／11日

展示室：1A, 1B, 1C, 1D, 2A, 2B, 2C, 2D, 3A, 3B, 野外展示場A, B, C, D

入場者数：76,020人



団体名：水彩連盟

展覧会名：第73回 水彩連盟展

会期／日数：4月2日（水）～4月14日（月）／12日

展示室：3A, 3B

入場者数：16,385人



団体名：公益社団法人 日本新工芸家連盟

展覧会名：第36回 日本新工芸展

会期／日数：5月14日（水）～5月25日（日）／11日

展示室：3A, 3B

入場者数：6,703人



団体名：一般社団法人 光風会

展覧会名：第100回記念 光風会展

会期／日数：4月16日（水）～4月29日（火・祝）／13日

展示室：1A, 1B, 1C, 1D

入場者数：27,727人



団体名：一般社団法人 太平洋美術会

展覧会名：第110回記念 太平洋展

会期／日数：5月14日（水）～5月26日（月）／12日

展示室：1A, 1B, 1C, 1D

入場者数：25,337人



団体名：一般社団法人 春陽会

展覧会名：第91回 春陽展

会期／日数：4月16日（水）～4月29日（火・祝）／13日

展示室：2A, 2B, 2C, 2D, 3B

入場者数：25,608人



団体名：三軌会

展覧会名：66回 三軌展

会期／日数：5月14日（水）～5月26日（月）／12日

展示室：2A, 2B, 2C, 2D

入場者数：15,461人



団体名：現代美術家協会
展覧会名：第70回 現展
会期/日数：5月28日(水)～6月9日(月)／12日
展示室：1A, 1B, 1C
入場者数：10,177人



団体名：書象会
展覧会名：第53回 書象展
会期/日数：6月12日(木)～6月22日(日)／10日
展示室：2C, 2D
入場者数：5,973人



団体名：第一美術協会
展覧会名：第85回 第一美術展
会期/日数：5月28日(水)～6月9日(月)／12日
展示室：1D, 2C, 2D
入場者数：18,869人



団体名：日本水墨院
展覧会名：公募第29回 日本水墨院展
会期/日数：6月25日(水)～7月6日(日)／11日
展示室：1B
入場者数：9,773人



団体名：一般社団法人 日洋会
展覧会名：第28回 日洋展
会期/日数：5月28日(水)～6月9日(月)／12日
展示室：2A, 2B, 3A, 3B
入場者数：20,032人



団体名：高校生国際美術展実行委員会
展覧会名：第15回 高校生国際美術展
会期/日数：6月25日(水)～7月6日(日)／11日
展示室：2A
入場者数：4,547人



団体名：日本自由画壇
展覧会名：第40回 日本自由画壇展
会期/日数：6月11日(水)～6月23日(月)／12日
展示室：2A, 2B
入場者数：19,421人



団体名：日本教育書道藝術院
展覧会名：第34回 日本教育書道藝術院同人書作展
会期/日数：6月25日(水)～7月6日(日)／11日
展示室：2C, 2D
入場者数：3,526人



団体名：一般社団法人 国際墨画会
展覧会名：第14回 国際公募国際墨画会展
会期/日数：6月11日(水)～6月23日(月)／12日
展示室：3A
入場者数：10,519人



団体名：公益財団法人 陶芸文化振興財団
展覧会名：全国公募2014 陶芸財団展
会期/日数：6月25日(水)～7月6日(日)／11日
展示室：3B
入場者数：4,812人



団体名：たぶろう美術協会
展覧会名：第49回 たぶろう展
会期/日数：6月11日(水)～6月23日(月)／12日
展示室：3B
入場者数：6,111人



団体名：アート未来
展覧会名：2014・19th 国際公募 アート未来展
会期/日数：6月25日(水)～7月7日(月)／12日
展示室：1A, 野外展示場A
入場者数：13,435人



団体名：公益財団法人 全国書美術振興会
展覧会名：第42回 「日本の書展」 東京展
会期/日数：6月12日(木)～6月22日(日)／10日
展示室：1A, 1B, 1C, 1D
入場者数：7,348人



団体名：蒼騎会
展覧会名：第54回 蒼騎展
会期/日数：6月25日(水)～7月7日(月)／12日
展示室：1C, 1D
入場者数：12,321人



団体名：日本表象美術協会
展覧会名：第41回 日象展
会期／日数：6月25日(水)～7月7日(月)／12日
展示室：2B
入場者数：7,203人



団体名：公益社団法人 二科会
展覧会名：第99回 二科展
会期／日数：9月3日(水)～9月15日(月・祝)／12日
展示室：1A, 1B, 1C, 1D, 2A, 2B, 2C, 2D, 3A, 3B, 野外展示場A, B, C, D
入場者数：94,887人



団体名：貞香会
展覧会名：第49回 貞香書展
会期／日数：6月25日(水)～7月7日(月)／12日
展示室：3A
入場者数：4,041人



団体名：新制作協会
展覧会名：第78回 新制作展
会期／日数：9月17日(水)～9月29日(月)／12日
展示室：1A, 1B, 2A, 2B, 3A, 3B, 野外展示場A, B
入場者数：45,908人



団体名：一般財団法人 毎日書道会
展覧会名：第66回 毎日書道展
会期／日数：7月9日(水)～8月3日(日)／23日
展示室：1A, 1B, 1C, 1D, 2A, 2B, 2C, 2D, 3A, 3B
入場者数：39,622人



団体名：行動美術協会
展覧会名：第69回 行動展
会期／日数：9月17日(水)～9月29日(月)／12日
展示室：1C, 1D, 2C, 2D, 野外展示場C, D
入場者数：23,084人



団体名：JIAS日本国際美術家協会
展覧会名：第15回 日本・フランス現代美術世界展
会期／日数：8月6日(水)～8月17日(日)／11日
展示室：3A
入場者数：8,520人



団体名：自由美術協会
展覧会名：第78回 自由美術展
会期／日数：10月1日(水)～10月13日(月・祝)／12日
展示室：1A, 1B, 2A, 2B, 野外展示場A, B
入場者数：13,119人



団体名：全国水墨画協会
展覧会名：第21回 全国水墨画展
会期／日数：8月6日(水)～8月18日(月)／12日
展示室：3B
入場者数：5,765人



団体名：一陽会
展覧会名：創立60周年記念 一陽展
会期／日数：10月1日(水)～10月13日(月・祝)／12日
展示室：1C, 1D, 2C, 2D, 野外展示場C, D
入場者数：19,260人



団体名：公益財団法人 国際文化カレッジ
展覧会名：日美展(第19回総合水墨画展・第15回日美絵画展)
会期／日数：8月7日(木)～8月16日(土)／9日
展示室：1A, 1B, 1C, 1D, 2A, 2B, 2C, 2D
入場者数：27,140人



団体名：一期会
展覧会名：第49回 一期展
会期／日数：10月1日(水)～10月13日(月・祝)／12日
展示室：3A, 3B
入場者数：11,119人



団体名：読売書法会
展覧会名：第31回 読売書法展 東京展
会期／日数：8月22日(金)～8月31日(日)／9日
展示室：1A, 1B, 1C, 1D, 2A, 2B, 2C, 2D, 3A, 3B
入場者数：27,568人



団体名：独立美術協会
展覧会名：第82回 独立展
会期／日数：10月15日(水)～10月27日(月)／12日
展示室：1A, 1B, 2A, 2B, 3A
入場者数：24,799人



団体名：一般社団法人 二紀会
展覧会名：第68回 二紀展
会期/日数：10月15日(水)～10月27日(月)／12日
展示室：1C, 1D, 2C, 2D, 3B, 野外展示場C, D
入場者数：29,009人



団体名：白峰社
展覧会名：第32回 白峰社書展
会期/日数：12月10日(水)～12月23日(火・祝)／13日
展示室：3A, 3B
入場者数：3,471人



団体名：瓦・造形会
展覧会名：第19回 瓦・造形展
会期/日数：10月16日(木)～10月27日(月)／11日
展示室：野外展示場A, B
入場者数：1,161人



団体名：株式会社 全日本書芸文化院
展覧会名：第43回 全書芸展
会期/日数：12月11日(木)～12月23日(火・祝)／12日
展示室：2B, 2C, 2D
入場者数：6,474人



団体名：公益社団法人 日展
展覧会名：改組 新 第1回 日展
会期/日数：10月31日(金)～12月7日(日)／33日
展示室：1A, 1B, 1C, 1D, 2A, 2B, 2C, 2D, 2E, 3A, 3B
入場者数：135,055人



団体名：公益財団法人 独立書人団
展覧会名：第63回 独立書展
会期/日数：1月7日(水)～1月19日(月)／12日
展示室：1A, 1B, 1C, 1D, 2A, 2B, 2C, 2D, 3A, 3B
入場者数：20,852人



団体名：一般社団法人 雪舟国際美術協会
展覧会名：第21回 雪舟国際美術協会展
会期/日数：12月10日(水)～12月22日(月)／12日
展示室：1C, 1D
入場者数：10,765人



団体名：特定非営利活動法人 平泉会
展覧会名：第27回 平泉展 ～楽しい手作り～
会期/日数：1月21日(水)～2月2日(月)／12日
展示室：1A
入場者数：11,004人



団体名：土日会
展覧会名：第39回 土日会展
会期/日数：12月10日(水)～12月23日(火・祝)／13日
展示室：1A
入場者数：6,606人



団体名：国際書画連盟
展覧会名：第37回 国際書画展
会期/日数：1月21日(水)～2月2日(月)／12日
展示室：1B, 1C, 1D
入場者数：5,896人



団体名：シェル美術賞事務局
展覧会名：シェル美術賞展2014
会期/日数：12月10日(水)～12月23日(火・祝)／13日
展示室：1B
入場者数：6,109人



団体名：亜細亜太平洋水墨画会
展覧会名：アジア創造美術展
会期/日数：1月21日(水)～2月2日(月)／12日
展示室：2A
入場者数：3,853人



団体名：特定非営利活動法人 国際架橋書会
展覧会名：第27回 国際架橋書展
会期/日数：12月10日(水)～12月23日(火・祝)／13日
展示室：2A
入場者数：10,128人



団体名：産経国際書会
展覧会名：第31回 産経国際書展 新春展
会期/日数：1月21日(水)～2月2日(月)／12日
展示室：2B, 2C, 2D
入場者数：5,786人



団体名：一般社団法人 Heart Art Communication
展覧会名：Heart Art in TOKYO 2015 第18回エ
イズチャリティー美術展
会期／日数：1月22日(木)～2月2日(月)／11日
展示室：3A, 3B
入場者数：3,980人



団体名：日本書作院
展覧会名：第55回 日本書作院展
会期／日数：2月5日(木)～2月16日(月)／11日
展示室：2B, 2C, 2D
入場者数：15,020人



団体名：New Artist Unit
展覧会名：第13回 NAU21世紀美術連立展
会期／日数：2月4日(水)～2月16日(月)／12日
展示室：1A
入場者数：6,199人



団体名：一般社団法人 新構造社
展覧会名：新構造 東京展
会期／日数：2月18日(水)～3月2日(月)／12日
展示室：3A
入場者数：6,502人



団体名：新槐樹社
展覧会名：第59回 新槐樹社展
会期／日数：2月4日(水)～2月16日(月)／12日
展示室：1C, 1D
入場者数：9,249人



団体名：現日会
展覧会名：第55回 現日春季書展
会期／日数：2月18日(水)～3月2日(月)／12日
展示室：3B
入場者数：3,209人



団体名：あきつ会
展覧会名：第40回 あきつ会書道展
会期／日数：2月4日(水)～2月16日(月)／12日
展示室：2A
入場者数：3,652人



団体名：東京五美術大学(東京造形大学・日本大
学芸術学部・武蔵野美術大学・多摩美術
大学・女子美術大学)
展覧会名：平成26年度第38回 東京五美術大学連
合卒業・修了制作展
会期／日数：2月19日(木)～3月1日(日)／10日
展示室：1A, 1B, 1C, 1D, 2A, 2B, 2C, 2D, 野外展
示場A, B, C
入場者数：54,954人



団体名：美術団体 等迦会
展覧会名：第47回 等迦展
会期／日数：2月4日(水)～2月16日(月)／12日
展示室：3A
入場者数：4,736人



団体名：全国水墨画美術協会
展覧会名：第45回記念 全日本水墨画秀作展
会期／日数：3月4日(水)～3月15日(日)／11日
展示室：3A, 3B
入場者数：5,817人



団体名：秋耕会
展覧会名：第39回 秋耕展
会期／日数：2月4日(水)～2月16日(月)／12日
展示室：3B
入場者数：8,776人



団体名：汎美術協会
展覧会名：2015 汎美展
会期／日数：3月4日(水)～3月16日(月)／12日
展示室：1A
入場者数：6,213人



団体名：全日本アートサロン絵画大賞展実行委員会
展覧会名：第24回 全日本アートサロン絵画大賞展
会期／日数：2月5日(木)～2月16日(月)／11日
展示室：1B
入場者数：2,614人



団体名：公益社団法人 創玄書道会
展覧会名：第51回 創玄展
会期／日数：3月5日(木)～3月15日(日)／10日
展示室：1B, 1C, 1D, 2A, 2B, 2C, 2D
入場者数：20,102人



団体名：日本美術会
展覧会名：第68回 日本アンデパンダン展
会期／日数：3月18日（水）～3月30日（月）／12日
展示室：1A, 1B, 1C, 1D
入場者数：15,209人



団体名：白日会
展覧会名：第91回 白日会展
会期／日数：3月18日（水）～3月30日（月）／12日
展示室：2A, 2B, 2C, 2D
入場者数：17,925人



団体名：公益社団法人 日本南画院
展覧会名：公募第55回 日本南画院展
会期／日数：3月18日（水）～3月30日（月）／12日
展示室：3A, 3B
入場者数：11,959人



入場者数合計：1,193,917人

公募展開催に関わる取り組み

- 平成26年度展示室等使用団体実績
使用団体：69団体
- 平成28年度展示室等使用団体の決定
決定時期：6月
決定団体：69団体
- 平成29年度展示室等使用団体の使用申請受付
受付期間：2月25日（水）～3月20日（金）
- 平成29年度野外展示場使用団体の募集
募集期間：2月25日（水）～3月20日（金）
- 使用団体等への支援
ホームページに、開催中の公募団体等の展覧会のポスター画像を掲載し、使用団体等の展覧会広報の支援を行った。
『国立新美術館ニュース』に使用団体等からの寄稿を掲載し、団体の活動を紹介した。
- 展覧会観覧者への情報提供
公募展開催案内チラシを作成・配布するとともに、ホームページに公募展情報を掲載した。
『公募展開催案内』vol.35～vol.39（年5回発行）、A4判、全30,000部
- 企画展との相互割引の導入
自主企画展及び共催展において、開催中の公募展の観覧券持参者に対する割引観覧を行った。また、開催中の自主企画展及び共催展の観覧券持参者に対し、公募展の割引又は無料観覧の協力を依頼し、相互割引の充実に努めるとともに、館内での周知を行った。

教育普及事業に対する公募団体等との連携

●「第88回国展」関連事業

「第88回国展トークイン—作家の目 作者の心—」

主催：国画会、国立新美術館

後援：文部科学省、東京都教育委員会

開催日：平成26(2014)年5月5日(月・祝)

会場：国立新美術館 「第88回国展」会場

参加者数：266人



5月5日 国展トークイン

●「改組 新 第1回 日展」関連事業

主催：公益社団法人日展、国立新美術館

・講演会

開催日：11月1日(土)、3日(月・祝)、8日(土)、15日(土)、22日(土)

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：646人(全5回)

・映像による作品解説

開催日：11月1日(土)、3日(月・祝)、8日(土)、15日(土)、22日(土)、
29日(土)、30日(日)

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：1,220人(全10回)

・「日展の日」特別対談「アートの未来」

開催日：11月12日(水) [日展の日]

会場：国立新美術館 講堂

ゲスト：夢枕獏(作家)、松下周(一般社団法人日本作曲家協議会会長)

ナビゲーター：宮田亮平

参加者数：260人

・親子鑑賞教室

開催日：11月9日(日)、16日(日)、23日(日・祝)

会場：国立新美術館 講堂、研修室

参加者数：82組224人(全6回)

・らくらく鑑賞会

開催日：11月5日(水)、17日(月)、26日(水)、12月1日(月)

会場：国立新美術館 「改組 新 第1回 日展」会場、研修室

参加者数：25人(全4回)

・ミニ解説会

開催日：「改組 新 第1回 日展」会期中の平日(土・日・祝日・初日
を除く)

会場：国立新美術館 「改組 新 第1回 日展」会場

参加者数：826人(17日間合計)



11月23日 親子鑑賞教室

4

教育普及

Education and Public Programs

4-1 講演会等

Lectures, etc.

4-2 ワークショップ

Workshops

4-3 インターンシップ、ボランティア

Internships and Volunteering

4-4 その他の教育普及事業

Other Education and Public Programs

来館者の鑑賞の充実とサポートを目的に、展覧会に合わせて講演会やアーティスト・トークなどを開催したほか、無料の鑑賞ガイドブックを作成、配布した。また、美術に触れ、親しむ機会を広く提供するために、子どもから大人まで幅広い層を対象としたワークショップや講演会などのイベントを実施した。さらに、インターンや学生ボランティアの受け入れを継続的に行い、美術館活動への理解の促進や人材育成を図った。

To help people get the most out of their visit, we held lectures, artist talks, other events to coincide with our exhibitions, and distributed a series of free guidebooks. We also organized events such as workshops and lectures to encourage appreciation of art among the wider public, including a number of education program for children and adults. We continued to accept interns and student volunteers as part of our efforts to increase the understanding of the NACT's activities and develop human resources.

4-1 講演会等 Lectures, etc.

国立新美術館による企画 展覧会関連

「イメージの力—国立民族学博物館コレクションにさぐる」

●講演会「『イメージの力』展にイメージの力をさぐる」

日時：平成26(2014)年4月5日(土)14時～15時30分

講演：吉田憲司(国立民族学博物館文化資源研究センター教授)

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：105人

●ギャラリー・トーク

日時：5月18日(日)14時～15時

出演：ハワード・モーフィ(文化人類学者・オーストラリア国立大学教授)

会場：国立新美術館 企画展示室2E

参加者数：60人

「中村一美展」

●講演会「私の絵画について」

日時：4月26日(土)14時～15時30分

講演：中村一美(出品作家)

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：163人

「魅惑のコスチューム：バレエ・リュス展」

●講演会「開幕記念講演会 Ballets Russes: The Art of Costume」,
「Behind the Scenes: The Conservation of the Costumes of the Ballets Russes」

日時：6月18日(水)14時～16時

講演：ロバート・ベル(オーストラリア国立美術館装飾芸術・デザイン部門シニア・キュレーター)、ミシェル・フォード(オーストラリア国立美術館シニア・テキスタイル・コンサーヴェーター)

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：155人

●上映会「バレエ・リュス 踊る喜び、生きる喜び」

(監督：ダン・ゲラー、ダイナ・ゴールドファイン、2005年、118分)

日時：6月21日(土)10時30分～12時30分、13時～15時、15時30分～17時30分

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：310人

●講演会「バレエ音楽の歴史とバレエ・リュス」

日時：6月22日(日)14時～15時30分

講演：福田一雄(指揮者)

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：110人



6月18日 講演会

●講演会「ディアギレフ—美を追い続けた男」

日時：7月6日（日）14時～15時30分

講演：鈴木晶（舞踊評論家、法政大学教授、早稲田大学大学院客員教授）

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：170人

●解説会「魅惑のコスチューム：バレエ・リュス」

日時：7月11日（金）18時30分～19時

講演：本橋弥生（学芸課主任研究員）

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：85人

●講演会「バレエ・リュスの功績」

日時：7月13日（日）14時～15時30分

講演：薄井憲二（公益社団法人日本バレエ協会会長）

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：200人

●解説会「魅惑のコスチューム：バレエ・リュス」

日時：8月15日（金）18時30分～19時

講演：本橋弥生（学芸課主任研究員）

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：115人

●上映会「バレエ・リュス 踊る喜び、生きる喜び」

（監督：ダン・ゲラー、デйна・ゴールドファイン、2005年、118分）

日時：8月16日（土）10時30分～12時30分、13時～15時、15時30分～17時30分

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：682人

「オルセー美術館展 印象派の誕生—描くことの自由—」

●講演会「ヌーヴェル・オルセー —生まれ変わるオルセー美術館」

日時：7月12日（土）14時～15時30分

講演：ギィ・コジュヴァル（オルセー美術館・オランジュリー美術館理事長）

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：247人

●展覧会担当研究員によるレクチャー

日時：9月12日（金）18時30分～19時10分

講師：宮島綾子（学芸課主任研究員）

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：139人

●シンポジウム「マネから印象派へ —1860年代のフランス絵画の変貌」

主催：国立新美術館、日仏美術学会

日時：9月13日（土）10時～17時30分

パネリスト：三浦篤（東京大学教授）、横山由季子（学芸課アソシエイトフェロー）、安藤智子（國學院大學、法政大学、一橋大学他非常勤講師）、和南城愛理（町田市立国際版画美術館学芸員）、石谷治寛（甲南大学人間科学研究所博士研究員）、岩崎余帆子（ポーラ美術館学芸課長）

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：223人

「チューリヒ美術館展—印象派からシュルレアリスムまで」

●担当研究員による作品解説会「チューリヒ美術館展の見どころについて」

日時：10月3日（金）14時～15時30分

解説：山田由佳子（学芸課研究員）

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：203人

●担当研究員による作品解説会「20世紀絵画の展開」

日時：10月19日（日）14時～15時30分

解説：長屋光枝（学芸課主任研究員）

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：123人

●「スイス映画の紹介を交えたレクチャー」

日時：11月2日（日）14時～15時30分

講演：大傍正規（東京国立近代美術館フィルムセンター研究員）

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：56人

「ニッポンのマンガ＊アニメ＊ゲーム」（平成27年度開催の展覧会）

●国際シンポジウム「日本から世界へ—マンガ、アニメ、ゲームによる文化発信と交流」

日時：平成27（2015）年2月4日（水）13時～16時30分

・プレゼンテーション

ディサポン・ネトロモン（ナショナルギャラリー・バンコク、キュレーター）、コニー・ラム（香港アーツセンター コミックス・ホームベース、エグゼクティブ・ディレクター）、ゴードン・ロー（香港アーツセンター コミックス・ホームベース、プログラム・オペレーション・マネージャー）、ファブリス・ビュオン（Japan Expo日本駐在事務所マーケティング・マネージャー）、阿部芳久（CG-ARS協会 イノベーション事業部長）

・パネル・ディスカッション

ディサポン・ネトロモン、コニー・ラム、ゴードン・ロー、ファブリス・ビュオン、阿部芳久、趙剛（中国社会科学院 助教授）、長井延裕（クールジャパン機構 エグゼクティブ・ディレクター）、下山雅也（国際交流基金 アジアセンター部長）、真住貴子（文化庁 芸術文化調査官）、さやわか（ライター/編集）

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：120人



10月19日 解説会



2月4日 シンポジウム

「ルーヴル美術館展 日常を描く—風俗画にみるヨーロッパ絵画の真髄」

●「ルーヴル美術館展 アート・トーク」

日時：3月20日（金）18時～19時

出演：山田五郎、平野綾

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：260人

「マグリット展」

●講演会「10作品で分かるマグリット」

日時：3月25日（水）14時～15時30分

出演：ミシェル・ドラゲ（ベルギー王立美術館館長）

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：250人

国立新美術館による企画 その他

●TOKYO ANIMA! 2014

日時：平成26(2014)年4月19日(土)、20日(日)

会場：国立新美術館 講堂

主催：TOKYO ANIMA!実行委員会、国立新美術館

出品作家：ひらのりょう、加藤隆、坂元友介、小野ハナ、平岡政展、斎藤俊介、川上彩穂、冠木佐和子、朱彦潼、土屋萌児、久保雄太郎、クリハラタカシ、やけのはら×最後の手段、和田淳、若井麻奈美、水江未来

参加者数：1,023人(2日間合計)

●「カフェアオキ」

・第15回「東京を考える～2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、どんなことができるのか～」

日時：9月21日(日)16時～17時30分

出演：大田弘子(政策研究大学院大学教授)、吉見俊哉(東京大学大学院情報学環教授)、青木保(館長)

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：56人

・第16回「ヨーロッパの文化と芸術～中欧ドイツ語圏を中心に～」

日時：10月26日(日)15時～16時30分

出演：松永美穂(早稲田大学教授)、後藤文子(慶応義塾大学准教授)、青木保(館長)

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：119人

●国際シンポジウム「アーティストとの関わりは私たちに何をもたらすのか―経験する”現場からの検証”」

日時：平成27(2015)年3月15日(日)14時～17時30分

パネリスト：ヘザー・マクソン(ホイットニー美術館 学校・青少年・家族向けプログラム ディレクター)、端山聡子(横浜美術館 教育普及グループ チームリーダー/主任学芸員)、並河恵美子(認定NPO法人芸術資源開発機構ARDA代表理事)、吉澤菜摘(学芸課アソシエイトフェロー)

会場：国立新美術館 講堂

主催：国立新美術館

協力：全国美術館会議 教育普及研究部会

特別助成：アメリカ大使館

参加者数：159人



9月21日 カフェアオキ



共催企画等

●「第88回国展」関連事業

「第88回国展トークイン—作家の目 作者の心—」

主催：国画会、国立新美術館

後援：文部科学省、東京都教育委員会

開催日：平成26(2014)年5月5日(月・祝)

会場：国立新美術館 「第88回国展」会場

参加者数：266人

●インターカレッジ・アニメーション・フェスティバル(ICAF)2014

日時：9月25日(木)～9月28日(日)

会場：国立新美術館 講堂、研修室

主催：インター・カレッジ・アニメーション・フェスティバル実行委員会

共催：日本アニメーション協会(JAA)、日本アニメーション学会(JSAS)

特別協賛：京楽ピクチャーズ、株式会社

協賛：株式会社ボーンデジタル、EIZO株式会社、株式会社Too

特別協力：国立新美術館、新千歳空港国際アニメーション映画祭2014、金沢シネモンド、愛知県美術館

協力：オフィスH、金沢市、日本映像学会映像表現研究会、PISAF(ブチオン国際学生アニメーション・フェスティバル)組織委員会、マイシアター株式会社、宮下印刷株式会社

幹事校：女子美術大学、東京藝術大学、東京工芸大学、東京造形大学、多摩美術大学、武蔵野美術大学

参加校：阿佐ヶ谷美術専門学校、アート・アニメーションの小さな学校、大阪芸術大学、尾道市立大学、金沢学院大学、金沢美術工芸大学、京都精華大学、神戸芸術工科大学、専門学校 札幌マンガ・アニメ学院、玉川大学、東北芸術工科大学、長岡造形大学、名古屋学芸大学、日本大学芸術学部、北海道教育大学

参加者数：2,355人(4日間合計)

●シンポジウム「色彩が奏でる芸術と科学」

共催：国立新美術館、日本色彩学会関東支部

・シンポジウム

日時：10月11日(土)13時～17時10分

講演：栗野由美(東京造形大学)、鈴木卓治(国立歴史民俗博物館)、室屋泰三(学芸課主任研究員)、前田富士男(中部大学特任教授)、富永昌治(千葉大学大学院教授)

コメンテーター：坂田勝亮(女子美術大学)、栗野由美(東京造形大学)、大住雅之(オフィス・カラーサイエンス)、岡嶋克典(横浜国立大学大学院)

司会：北島耀(文化学園大学名誉教授)

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：204人

・併催ワークショップ「ひみつのレシピ～ひりつスタンプ」

日時：10月11日(土)10時30分～12時、13時～14時30分、15時～16時30分

講師：栗野由美+ミルクラ(東京造形大学)

会場：国立新美術館 研修室A,B

●「改組 新 第1回 日展」関連事業

主催：公益社団法人日展、国立新美術館

・講演会

開催日：11月1日(土)、3日(月・祝)、8日(土)、15日(土)、22日(土)

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：646人(全5回)

・映像による作品解説

開催日：11月1日(土)、3日(月・祝)、8日(土)、15日(土)、22日(土)、29日(土)、30日(日)

会場：国立新美術館 講堂

参加者数：1,220人(全10回)

・「日展の日」特別対談「アートの未来」

開催日：11月12日(水)「日展の日」

会場：国立新美術館 講堂

ゲスト：夢枕獏(作家)、松下功(一般社団法人日本作曲家協議会会長)

ナビゲーター：宮田亮平

参加者数：260人

・親子鑑賞教室

開催日：11月9日(日)、16日(日)、23日(日・祝)

会場：国立新美術館 講堂、研修室

参加者数：82組224人(全6回)

・らくらく鑑賞会

開催日：11月5日(水)、17日(月)、26日(水)、12月1日(月)

会場：国立新美術館 「改組 新 第1回 日展」会場、研修室

参加者数：25人(全4回)

・ミニ解説会

開催日：「改組 新 第1回 日展」会期中の平日(土・日・祝日・初日を除く)

会場：国立新美術館 「改組 新 第1回 日展」会場

参加者数：826人(17日間合計)

4-2 ワークショップ Workshops

●「中村一美展」

アーティスト・ワークショップ「鳥ならざる鳥を描く 一逆から思考する、絵画一」

日時：平成26(2014)年5月10日(土)11時～16時30分

講師：中村一美(画家)

会場：国立新美術館 別館3階多目的ルーム他

対象：一般(小学校高学年以上)

参加者数：27人



5月10日

●「魅惑のコスチューム：バレエ・リュス展」

アーティスト・ワークショップ「2.5D 着られるイラスト バレエ・リュス ペーパーチュニックコレクション2014」

日時：7月26日(土)13時30分～17時

企画協力：文化学園大学大学院生活環境学研究科グローバルファッション専修

ワークショップリーダー：高木陽子(文化学園大学大学院教授)、ダフネ・モハジャヴァベサラン(非常勤講師)、プージャ・チャダ、アシナ・チン、ナイジェル・ニューフック、レベッカ・トーマス(修士1年生)

会場：国立新美術館 別館3階多目的ルーム

対象：一般(12歳以上)

参加者数：15人



7月26日

●「チューリヒ美術館展—印象派からシュルレアリスムまで」

関連ワークショップ「アート de じぶんえほん」

日時：10月26日(日)13時～16時

講師：なかがわ ちひろ(絵本作家・翻訳家)

会場：国立新美術館 別館3階多目的ルーム

対象：小学校3年生から高校生まで

参加者数：18人

●アーティスト・ワークショップ「はじめてのアート 絵描きさんといっしょに、描く、つくる！」

講師：堂本右美(画家)

会場：国立新美術館 別館3階多目的ルーム

・未就学児(3～6歳)親子対象

日時：11月22日(土)10時30分～12時30分、14時～16時

参加者数：40組89人(全2回)

・小学校1～4年生親子対象

日時：11月23日(日)14時～16時

参加者数：20組48人



10月26日

●アーティスト・ワークショップ「彫刻と絵画をめぐるワークショップ ～4人の色／9回のコップ」

日時：平成27(2015)年1月25日(日)13時～16時30分

講師：富井大裕(美術家)、近藤恵介(画家)

会場：国立新美術館 別館3階多目的ルーム

対象：一般(中学生以上)

参加者数：20人

4-3 インターンシップ、ボランティア Internships and Volunteering

●インターンシップ

美術館事業に関心のある若手研究者や大学院生に実践的な研究や活動の場を提供し、人材育成を図るためのインターンシップを引き続き行った。平成26年度は展覧会事業、教育普及事業、広報事業の3部門で7人を受け入れた。

飯岡麻那実／菅野美奈子／佐藤詩織／澤田将哉／飛永美紀／
原田佳織／山口詩織

●サポート・スタッフ

美術館の活動に関心を持つ学生にボランティアによる活動支援を呼び掛け、実務体験の機会を提供するサポート・スタッフ制度を引き続き実施した。

平成26年度サポート・スタッフ

秋山文／安敏永／池田三紗／池戸佑衣／石郷岡唯／居関恵歌／
今瀬裕可里／内山允史／太田紋乃／大滝菜摘／大竹洋平／
大谷茉莉花／大林由季／尾澤理美／鬼沢菜穂美／海東祐子／
加藤奈那子／金地つかさ／亀田亜香音／亀山あずさ／川崎藍／
川畑幸平／菊池夏乃子／木下覚人／木村悠実子／桐明紀子／
櫛谷夏帆／久保初穂／久保田啓斗／榎原朋美／小泉なつみ／
神足裕希／小林華代子／今野真理子／櫻井零也／佐々木悠希子／
笹本夕菜／塩浜妃奈子／志田康宏／篠原優／柴美春／柴田愛／
白井徹／秦裕華／杉崎未幸／杉本渚／杉山昂平／鈴木えみこ／
鈴木史子／鈴木友里恵／スタンプフェル志江／清田真衣子／
ソンヨンヒ／鷹鷲美佳／高橋和佳奈／竹内千里／竹ノ下彩香／
田中佑果／田中礼／知久眞也／寺田理紗／中村奈菜美／中村優香／
西川真理子／西田理人／野本雄基／早川慎／林玲／原田健太郎／
東森麻理奈／姫野久実／平澤咲／平野千明／福田安佑／豊丹生彩莉／
古川智崇／三木原寛美／水谷真隆／宮崎隆弘／武藤紗也加／
室田彩貴／室谷奈菜／毛利まな／森崎由衣／山下友理／山田歩／
山根堯／山内裕夏／吉田菜由／力山奈生子／黎燕珊Joanna／
若杉友美

平成27(2015)年3月末現在 92人



インターンの活動



サポート・スタッフの活動

4-4 その他の教育普及事業

Other Education and Public Programs

鑑賞ガイドブック等

来館者の鑑賞の充実を図るため、展覧会や作品について紹介する鑑賞ガイドや小冊子を作成し、展覧会会場において無料で配布した。

- 「魅惑のコスチューム：バレエ・リュス展」鑑賞ガイド
『魅惑のコスチューム：バレエ・リュス展 プチガイド』
平成26(2014)年6月18日発行、仕上りA5判、四つ折、図版カラー8点・白黒6点、30,000部
編集：国立新美術館 教育普及室
執筆：井上絵美子
デザイン：大島慶一郎、内藤彩
発行：国立新美術館



- 「オルセー美術館展 印象派の誕生—描くことの自由—」小冊子(出品目録)
平成26(2014)年7月9日発行(前期配布版)、9月1日発行(後期配布版)、A5判、8ページ、445,000部(前期配布版)、150,000部(後期配布版)
発行：読売新聞社

- 「チューリヒ美術館展—印象派からシュルレアリスムまで」鑑賞ガイド
『チューリヒ美術館展—印象派からシュルレアリスムまで ミニガイド』
平成26(2014)年9月25日発行、仕上りA5判横型、蛇腹折、8ページ、図版カラー12点、50,000部
編集：国立新美術館 教育普及室
執筆：木内祐子
デザイン：瀧野友洋
発行：国立新美術館、朝日新聞社



- 「ルーヴル美術館展 日常を描く—風俗画にみるヨーロッパ絵画の真髄」鑑賞ガイド
『ルーヴル美術館展 ジュニアガイド』
平成27(2015)年2月21日発行、A5判、12ページ、図版カラー6点、350,000部
監修：国立新美術館／小学館
発行：日本テレビ放送網

- 「マグリット展」鑑賞ガイド
『ようこそマグリットの不思議な絵の世界へ』
平成27(2015)年3月25日発行、仕上りA5変型、蛇腹折、8ページ、図版カラー11点、30,000部
編集：国立新美術館 教育普及室
執筆：井上絵美子
デザイン：森重智子(美術出版社デザインセンター)
印刷：大日本印刷
発行：国立新美術館、読売新聞社



その他の教育普及事業

●「夏休みこどもたんけんツアー 2014 ～新美術館のひみつをさがそう!～」

小学校3年生から6年生の児童を対象に、美術館のバックヤードを紹介するツアーを実施した。

日時：平成26(2014)年8月1日(金)、4日(月)11時～12時30分

対象：小学校3年生～6年生

参加者数：29人(全2回)

●鑑賞ガイダンス

児童、生徒、学生を対象に、作品鑑賞前に展示会のレクチャーを行った。

参加者数：12団体 721人

●施設ガイダンス

児童、生徒、学生を対象に、国立新美術館の建築や施設に関するガイダンスを行った。

参加者数：2団体 47人

●美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修

全国小中学校等の教員と美術館の学芸員等を対象に、美術館を活用した鑑賞教育の充実と、学校と美術館の連携を図ることを目的とした研修を行った。

主催：独立行政法人国立美術館

日時：8月4日(月)、5日(火)

会場：東京国立近代美術館(4日)、国立新美術館(5日)

参加者数：99人

●職場体験生徒の受入

地域の学校からの職業体験受入の依頼について、体験プログラムを実施し協力をを行った。

日時：9月18日(木)、19日(金)

受入：2人(港区立六本木中学校2年生)

●平成26年度独立行政法人国立美術館キュレーター研修

受入：1人

期間：10月27日(月)～12月25日(木)

●SFTギャラリーへの企画協力

より多くの人々がアートやデザインに触れる機会を設けるとともに、アーティストやデザイナーを支援し、発表の場を提供することを目的に、館内地下1階にあるSFTギャラリーへの展示企画協力をを行った。



8月1日 子ども探検ツアー

5

情報資料収集・提供

Collection and Provision of the Library and Information Services

5-1 美術関連資料の収集と公開

Collection and Provision of the Library Materials

5-2 JACプロジェクト

JAC Project

5-3 展覧会情報の収集と提供

Collection and Provision of the Information Services

美術に関する資料については、日本の美術展カタログの網羅的収集や、近現代美術・デザイン・建築・写真・メディアアートに関する刊行物の収集に努めた。特に公募展等シリーズ展のカタログ、逐次刊行物の欠号補充を積極的に行った。美術展カタログの収集にあたっては、関係機関、全国の美術館・博物館、個人からの寄贈に多くを負った。これらの資料を本館3階のアートライブラリーと、別館1階のアートライブラリー別館閲覧室にて一般の利用に供した。また、別館閲覧室では、脆弱資料等の予約閲覧サービス、非図書資料等特殊資料の特別資料閲覧サービスも行った。加えて、平成27年1月より国立国会図書館デジタル化資料送信サービスを新たに導入し、別館閲覧室にて利用開始した。

展覧会カタログの送付・交換について、平成26年度も引き続き積極的実施した。当館で刊行した美術展カタログ等の印刷物を国内約400箇所、国外約100箇所の美術館・博物館及び大学図書館等関連機関にカタログ交換のため送付した。日本の美術展カタログを国外の日本美術研究機関4箇所に寄贈する事業である「JACプロジェクト」を引き続き実施し、欧米での日本に関する美術資料の活用促進に努めた。こうした活動に対し、寄贈先機関から国外での日本美術に関する展覧会カタログの寄贈を受けた。これらを「JACⅡ」としてアートライブラリーにて閲覧に供している。

その他、昨年度に引き続き、所蔵資料の一部のデジタル化を行った（展覧会カタログ2件、雑誌9件、写真資料1,512件）。そのうちの山岸信郎氏旧蔵資料に含まれる写真資料については、ポーラ美術振興財団の助成によって画像データベース構築を進めた。また、独立行政法人国立美術館の収蔵品修理費によって、寄贈資料（文書箱約400箱）の燻蒸、クリーニングを実施した。

The National Art Center, Tokyo continued to build up a comprehensive collection of Japanese art exhibition catalogs, as well as publications on modern and contemporary art, design, architecture, photography, and media art, with particular emphasis placed on securing missing issues of series, including catalogs of public exhibitions. Acquisitions of art exhibition catalogs were generously supported by donated materials from pertinent organizations, museums throughout Japan, and individuals. These materials were made available to the public in the Art Library on the third floor of the Main Building, and in the Art Library Annex (see below) on the first floor of the Annex. Also, the Art Library Annex provided a reading-by-reservation service for fragile materials, etc., and a special materials reading service for unusual materials such as unpublished written matter, etc. In addition, the National Diet Library Digital Collections (The Digitized Contents Transmission Service for Libraries in Japan) became available in the Art Library Annex from January 2015. During fiscal 2014, NACT continued its catalog-exchange program, sending copies of its catalogs and other printed materials to around 400 facilities in Japan and 100 facilities overseas, including museums, and university libraries.

NACT also continued its efforts to improve access from overseas to materials on Japanese art through the JAC (Japan Art Catalog) project, which donates catalogs of Japanese art exhibitions to four overseas institutions devoted to the study of Japanese art. In return, the Center received catalogs of exhibitions of Japanese art held overseas, which are available in the Art Library as part of JAC II collection.

In addition, the Center continued the work begun last year on a project to digitize a portion of the documents in its possession, creating digital files of two catalogs, nine periodicals and 1,512 photographs). Of these, the photographs in the former collection of Yamagishi Nobuo continued to be placed in an image database as part of an initiative funded by the Pola Art Foundation. Also, approximately 400 boxes' donated materials were fumigated and cleaned for preservation.

5-1 美術関連資料の収集と公開 Collection and Provision of the Library Materials

美術関連資料の収集

●収集方針

日本で開催された展覧会のカタログの網羅的・遡及的収集を目指す。また、図書については都内の他の国立館の蔵書と相互補完するように調整しながら収集し、特に国立新美術館がその紹介に力を入れている近現代美術、デザイン、建築、メディアアートに関するものを重点的に収集する。

●資料の受贈と公開（順不同）

小林光夫氏旧蔵資料（小林貴子氏寄贈、図書36冊）を別館閲覧室にて公開。ヤシャ・ライハート氏旧蔵資料（ヤシャ・ライハート氏寄贈、写真57点）を別館閲覧室にて公開（特別資料閲覧）。四谷アート・ステュディオム関連資料（ファイル4冊、ファイルボックス2点、ボックス2点）を別館閲覧室にて公開。

●所蔵資料数

図書・カタログ登録冊数

		図書(冊)		カタログ(冊)		合計冊数(冊)	
和書	購入	13,710	(409)	1,885	(20)	15,595	(429)
	受贈	16,541	(745)	82,996	(2,729)	99,537	(3,474)
	小計	30,251	(1,154)	84,881	(2,749)	115,132	(3,903)
洋書	購入	5,264	(156)	3,217	(121)	8,481	(277)
	受贈	4,234	(1,018)	8,222	(684)	12,456	(1,702)
	小計	9,498	(1,174)	11,439	(805)	20,937	(1,979)
計		39,749	(2,328)	96,320	(3,554)	136,069	(5,882)

※()内は平成26年度増加冊数

逐次刊行物登録タイトル数(年報紀要類を含む)

和雑誌(タイトル)	洋雑誌(タイトル)
2,537	373

美術関連資料の公開

1. アートライブラリー(美術館3階)

●主な所蔵資料

- ・1946年以降に刊行された展覧会カタログ
- ・1946年以降に刊行された近現代美術を中心とする図書・雑誌
- ・現代美術の周辺領域の図書・雑誌(デザイン・建築・メディアアート・写真・印刷)
- ・美術館・博物館等のニューズレター(各タイトルの最新号から2年分。それ以前のバックナンバーはアートライブラリー別館閲覧室において所蔵)
- ・所蔵品目録
- ・美術参考図書

●利用統計

	開室日数 (日)	入室者数 (人)	開架書庫出納冊数 (冊)	コピー枚数 (枚)
平成26(2014)年4月	26	1,906	544	1,166
5月	27	2,198	796	1,504
6月	26	1,884	528	1,244
7月	26	3,108	657	1,821
8月	28	3,875	710	1,915
9月	25	2,697	658	1,741
10月	28	3,166	697	1,588
11月	26	2,575	550	1,575
12月	13	1,212	299	890
平成27(2015)年1月	22	1,233	481	1,083
2月	24	2,067	471	1,012
3月	26	2,867	616	1,284
合計	297	28,788	7,007	16,823

●利用時間等

開室時間：11時～18時

休室日：火曜日(祝日の場合は開室)、年末年始、左記以外の美術館休館日、特別整理期間

※平成26(2014)年12月17日(水)～平成27(2015)年1月5日(月)は、特別整理期間及び年末年始のため休室。

●アートライブラリー内所蔵資料紹介コーナー「話のたね」

- ・『3.11以後のアート』を考えるために
平成26(2014)年3月12日(水)～5月26日(月)
- ・「ブラジルのアート」
5月28日(水)～8月18日(月)
- ・「特撮」
8月20日(水)～平成27(2015)年2月2日(月)
- ・「展覧会」を再構成する～近年の展覧会と研究の事例から～
2月4日(水)～6月8日(月)

●資料展示

- ・「1950年代の“ビジュアル文庫” part2」
平成25(2013)年12月10日(火)～平成26(2014)年4月7日(月)
- ・「近藤竜男氏旧蔵資料・公開記念展示 part 1」
4月9日(水)～7月14日(月)
- ・「近藤竜男氏旧蔵資料・公開記念展示 part 2」
7月16日(水)～平成27(2015)年2月2日(月)
- ・「再構成された展覧会」
2月4日(水)～6月8日(月)

●『アートライブラリーだより』

アートライブラリーの広報のため平成26(2014)年9月から不定期に刊行。アートライブラリー、アートライブラリー別館閲覧室にて配布。平成27(2015)年3月現在、3号まで発行。



2. アートライブラリー別館閲覧室 (国立新美術館別館1階)

●主な所蔵資料

- ・1945年以前に刊行された展覧会カタログ
- ・1945年以前に刊行された美術関連図書
- ・美術及び美術の周辺領域の図書
- ・休刊・終刊した雑誌
- ・美術館・博物館等の年報・紀要・ニュースレター(バックナンバー)
- ・マイクロ資料
- ・脆弱・貴重資料(予約閲覧)
- ・各種アーカイブ資料

●利用統計

	開室日数 (日)	入室者数 (人)	開架書庫出納冊数 (冊)	コピー枚数 (枚)
平成26(2014)年4月	17	47	17	38
5月	16	53	16	62
6月	17	38	3	46
7月	17	81	25	240
8月	17	87	16	173
9月	15	66	33	17
10月	14	99	6	55
11月	14	63	24	176
12月	9	27	3	14
平成27(2015)年1月	14	30	12	75
2月	15	58	9	73
3月	17	96	46	149
合計	182	745	210	1,118

●利用時間等

開室時間：11時～18時

休室日：火曜日(祝日の場合は開室)、年末年始、左記以外の美術館休館日、特別整理期間

※平成26(2014)年12月17日(水)～平成27(2015)年1月5日(月)は、特別整理期間及び年末年始のため休室。

3. 予約閲覧

●利用統計

利用者数：16人

●利用時間等

利用時間：水・木曜日 13時～18時

利用場所：別館閲覧室等

利用方法：事前予約制(閲覧希望日の7日前までに、別館閲覧室のカウンターかメールで予約)

4. 特別資料閲覧サービス (ANZAï フォトアーカイブ等)

●利用統計

利用者数：4人

●利用時間等

利用時間：祝日を除く月～金曜日 11時～18時

利用場所：別館閲覧室、事務室等

利用方法：事前予約制



5. 資料及び画像データの貸出

資料名：田村画廊・真木画廊発行『展評』、『Anti-illusion: Procedure/ Material』、『Japan Video Art Festival: 33 Artists at CAYC』他(山岸信郎氏旧蔵資料、近藤竜男氏旧蔵資料、針生一郎氏旧蔵資料他より、計117点)

利用者：東京国立近代美術館

利用目的：「美術と印刷物—1960-70年代を中心に」展出品のため

資料名：ANZAï フォトアーカイブ 収蔵画像データ(計1点)

利用者：THE CENTRE NATIONAL DE LA RECHERCHE SCIENTIFIQUE (CNRS)

利用目的：学術書への掲載のため

資料名：『salon de l'escalier』、『EXPOSITION EBIHARA』(柳亮旧蔵資料より、計2点)

利用者：東京新聞、鹿児島市立美術館、下関市立美術館、横須賀美術館

利用目的：「生誕110年 海老原喜之助展」出品のため

資料名：『形象』第8号(計1点)

利用者：東京国立近代美術館

利用目的：「高松次郎ミステリーズ」展出品のため

資料名：『週刊アンボ』第11号、『デザイン』第85号、『季刊芸術』第13号、針生一郎編『われわれにとって万博とはなにか』、『万国博美術展 調和の発見』(計5点)

利用者：東京国立近代美術館工芸館

利用目的：「大阪万博1970デザインプロジェクト展」出品のため

5-2 JACプロジェクト JAC Project

●送付先

フリーア美術館／アーサー・M.サックラー美術館 図書室(スミソニアン研究所)
コロンビア大学 エイヴリー建築美術図書館
ライデン大学 東亜美術館
シドニー大学 フィッシャー図書館

●送付資料数：1,473冊

内訳(冊)	送付先	送付資料数
	フリーア	397
	コロンビア	47
	ライデン	617
	シドニー	412

●「JACIIプロジェクト」による受入資料数：65冊

内訳(冊)	送付元	受入資料数
	北米日本研究資料調整委員会(NCC) ※フリーア・コロンビア寄贈分を含む	65
	ライデン	0
	シドニー	0

5-3 展覧会情報の収集と提供 Collection and Provision of the Information Services

アートコモンズ(展覧会情報検索システム)

平成26年度において、3,430件の展覧会情報を1,283の美術館・美術団体・画廊のご協力により収集した。1週あたり平均70～80件程度の展覧会情報を登録・公開した。検索システムの改修を前年度に引き続き進め、平成27年度の公開を目指している。

展覧会チラシ、ポスターの収集と展覧会情報提供

全国の美術館や博物館、美術団体、画廊などから送付される広報物、展覧会チラシやポスターの一部を館内複数箇所ですべて掲示・配布することにより、来館者への情報提供を図った。また、終了した展覧会についても当該年度分のチラシをアートライブラリーで来館者の求めに応じて閲覧に供した。

6

広報・出版

Publicity and Publications

6-1 印刷物

Publications

6-2 ホームページ、各種ウェブサービス

Website, SNS

6-3 広報活動

Publicity Activities

6-1 印刷物 Publications

カタログ Catalogue

●「魅惑のコスチューム：バレエ・リュス展」展覧会カタログ
 平成26(2014)年6月17日発行、A4変型(280×235mm)、280ページ、図版カラー226点・白黒20点、6,000部
 監修：薄井憲二(公益社団法人日本バレエ協会会長)、ロバート・ベル(オーストラリア国立美術館装飾芸術・デザイン部門シニア・キュレーター)
 編集：国立新美術館、TBSテレビ
 執筆：ロバート・ベル、クリスティーン・ディクソン、ヘレナ・ハモンド、シメラン・マックスウェル、デビー・ウォード、本橋弥生
 翻訳：出羽尚、太田聡、佐野勝也、西野華子、クリストファー・スティヴンズ、飯岡麻那実
 デザイン：カースティーン・モリソン、川野直樹(美術出版社デザインセンター)
 ジャケットデザイン：若林伸重(Akane Design)
 制作：石塚肇(美術出版社デザインセンター)、上高家諭(美術出版社デザインセンター)、廣瀬歩(美術出版社デザインセンター)
 カタログ協力：オーストラリア大使館
 印刷：大日本印刷株式会社
 発行：TBSテレビ



●「オルセー美術館展 印象派の誕生—描くことの自由—」展覧会カタログ
 平成26(2014)年7月9日発行、A4変型(306×230mm)、304ページ、図版カラー98点・白黒56点、8,000部(第1版)、12,000部(第2版)、22,000部(第3版)
 編集：国立新美術館、読売新聞東京本社事業局文化事業部
 執筆：エルサ・バディ＝モディリ、ローランス・デ・カール、コーム・ファールブル、イザベル・ジュリア、フィリップ・マリオ、アナベル・マティアス、カロリーヌ・マチュー、シルヴィ・パタン、シルヴィ・パトリ、イゾルド・プリュデルマシェール、宮島綾子、横山由季子
 翻訳：井口俊、岩瀬慧、大澤啓、齋藤達也、関口涼子、宮島綾子、山上紀子
 校閲：岩田高明
 デザイン・制作：株式会社 D_CODE
 印刷：大日本印刷
 発行：読売新聞東京本社



●「チューリヒ美術館展—印象派からシュルレアリスムまで」展覧会カタログ
 平成26(2014)年9月24日発行、A4変型(285×250mm)、208ページ、表紙3種、図版カラー148点・白黒12点、15,000部(第1版)、15,000部(第2版)
 編集：国立新美術館、神戸市立博物館、朝日新聞社
 執筆：フィリップ・ビュトナー(チューリヒ美術館主任学芸員)、山田由佳子(国立新美術館)、長屋光枝(国立新美術館)、長谷川珠緒(国立新美術館)、廣田生馬(神戸市立博物館)
 翻訳：長屋光枝、スタンレーN. アンダソン
 編集協力：岩田高明、柿沼万里江
 デザイン：川野直樹、川添英昭、森重智子、中村遼一(美術出版社デザインセンター)
 制作：美術出版社デザインセンター
 印刷：大日本印刷
 発行：朝日新聞社



●「ルーヴル美術館展 日常を描く—風俗画にみるヨーロッパ絵画の真髄」展覧会カタログ

平成27(2015)年2月21日発行、A4変型(300×226mm)、236ページ、図版カラー102点・白黒137点、20,000部(第1版)、15,000部(第2版)

日仏バイリンガル版；A4変型(306×230mm)、292ページ、図版カラー102点・白黒137点、5,000部

編集：国立新美術館、日本テレビ放送網、ルーヴル美術館

執筆：ヴァンサン・ボマレド、ブリジット・ガリーニ、坂本満、宮島綾子

翻訳：安室可奈子、大澤啓、金沢文緒、小林亜起子、鈴木伸子、船岡美穂子、宮島綾子、望月典子、横山由季子

表紙デザイン：アリヤマデザインストア

デザイン：梯耕治

校閲：岩田高明

制作：印象社

印刷：大日本印刷

発行：日本テレビ放送網



日仏バイリンガル版

●「マグリット展」展覧会カタログ

平成27(2015)年3月24日発行、A4変型(296×242mm)、300ページ、図版カラー260点・白黒18点、12,000部(第1版)

編集：国立新美術館 南雄介、瀧上華、岩崎美千子 読売新聞東京本社事業局文化事業部 吉見淳一、中島康雄、笈奈雅子、亀澤大助、大澤笑由子、本多美季

執筆：ミシェル・ドラゲ、南雄介、瀧上華、岩崎美千子、尾崎真人

翻訳：シェリル・シルバーマン、スタンリー・N.アンダソン、ディーク・ドウシンベル、長谷川晶子、山口詩織

編集補助：菅野美奈子、山口詩織

デザイン：川添英昭(株式会社美術出版社デザインセンター)

制作：名塚雅絵(株式会社美術出版社デザインセンター)、廣瀬歩(株式会社美術出版社デザインセンター)

印刷：大日本印刷

発行：読売新聞東京本社



ポスター、チラシ、出品目録 Poster, Flier and List of Works

●「魅惑のコスチューム：バレエ・リュス展」

ポスター



B3判、3,300部

チラシ



A4判、260,000部(第1版)、
70,000部(第2版)



先行配布：A4判、90,000部
デザイン：明里圭修

B1判、950部

他 B2判、800部

B3変型(インターサイズ)、
680部

デザイン：若林伸重(Akane Design)

出品目録

仕上りA4判、蛇腹折、8ページ、日本語版65,000部、英語版3,000部

●「オルセー美術館展 印象派の誕生—描くことの自由—」

ポスター



B3判、4種、23,500部

チラシ



仕上りA4判、二つ折、200,000部(第1版)、
350,000部(第2版)、170,000部(第3版)、
300,000部(第4版)

他 先行配布：A4判、220,000部

B1判、600部

他 B0判、280部

B2判、9,500部

デザイン：グルーヴィジョンズ

出品目録(小冊子)

A5判、8ページ、445,000部(前期配布版)、150,000部(後期配布版)

●「チューリヒ美術館展—印象派からシュルレアリスムまで」

ポスター



B1判、850部
他 B2判、3,000部
B3判、2,250部
B3変型（インターサイズ）、
16, 960部

チラシ



仕上りA4判、二つ折、130,000部（第1版）、
230,000部（第2版）、150,000部（第3版）
他 タイアップチラシ（東京ミッドタウン発行）：仕上りA4判、二つ折、
100,000部



先行配布：仕上りA4判横型、
蛇腹折、8ページ、150,000部

デザイン：DNPアートコミュニケーションズ（白井敬尚形成事務所）

出品目録

仕上りA4判、二つ折、250,000部（日英併記）

●「ルーヴル美術館展 日常を描く—風俗画にみるヨーロッパ絵画の真髄」

ポスター



B1判、3,000部
他 B2判、650部

ポスター



B3判、80,000部

チラシ



仕上りA4判、二つ折、300,000部（第1版）、
450,000部（第2版）
他 A4判、150,000部（第3版）
先行配布：A4判、350,000部

デザイン：アリアヤマデザインストア

出品目録

仕上りA4判、二つ折、
日本語版600,000部、英語版10,000部

●「マグリット展」

ポスター



B1判、200部
他 B0判、200部



B2判、4,250部



B3判、6,500部

チラシ



仕上りA4判、二つ折、2種、
200,000部・300,000部
他 先行配布：A4判、2種、各80,000部

デザイン：グルービジョンズ

出品目録

仕上りA4判、蛇腹折、6ページ、日本語版100,000部、英語版30,000部

フロアガイド、スケジュール類 Floor Guide, Exhibition Schedule, etc

●国立新美術館スケジュール 2014.4-10

仕上り210×100mm、巻三つ折、日本語版37,000部、
英語版8,000部



●国立新美術館スケジュール 2014.10-2015.3

仕上り210×100mm、巻三つ折、日本語版37,000部、
英語版8,000部



美術館ニュース Newsletter

来館者に向けて国立新美術館の活動をよりわかりやすく伝える広報誌として、平成26(2014)年4月より『国立新美術館ニュース』をリニューアルした。

●国立新美術館ニュース 第1号

平成26(2014)年4月発行、A5判、蛇腹折、8ページ、30,000部
デザイン：3KG



●国立新美術館ニュース 第3号

平成26(2014)年10月発行、A5判、蛇腹折、8ページ、53,000部
デザイン：3KG



●国立新美術館ニュース 第2号

平成26(2014)年7月発行、A5判、蛇腹折、8ページ、50,000部
デザイン：3KG



●国立新美術館ニュース 第4号

平成27(2015)年1月発行、A5判、蛇腹折、8ページ、25,000部(第1版)、
15,000部(第2版)
デザイン：3KG



活動報告 NACT Report

●平成25年度 国立新美術館 活動報告

平成26(2014)年7月1日発行、A4判、124ページ、図版白黒185点、650部
表紙デザイン：佐藤可士和



研究紀要 Bulletin

●『NACT Review 国立新美術館研究紀要』第1号

平成26(2014)年11月28日発行、B5判、272ページ、図版カラー 22点・白黒89点、1,700部

編集委員：青木保(委員長)、建畠哲、小松弥生、南雄介、和田敏雄、長屋光枝、宮島綾子、米田尚輝

査読員：落合一泰、香川檀、加須屋明子、木村三郎、河本信治、河本真理、佐藤禎一、新畑泰秀、根木昭、速水豊、平芳幸治、水沢勉、村田宏、山梨俊夫

編集協力：坂口顯、高村幸治

執筆：青木保、馬淵明子、米田尚輝、瀧上華、長名大地、山田由佳子、宮島綾子、登久希子、小松弥生、南雄介、横山由季子、伊村靖子、谷口英理、青柳正規、加茂川幸夫、山梨俊夫、柳原正樹、高階秀爾、福原義春、ブルース・ミラー、森佳子、建畠哲、福永治、逢坂恵理子、蓑豊、松本透、島敦彦、千足伸行、三浦篤、大西若人、三田晴夫、宝玉正彦、菅原教夫、佐藤可土和、三宅一生、吉田憲司、春日直樹、蔵屋美香、保坂健二郎、長屋光枝、西野華子、室屋泰三、日比野民蓉、岩瀬慧、阿部陽子、井上絵美子、水野元洋、吉澤菜摘、国立新美術館総務課

デザイン：松村美由起

印刷：三秀舎



ガイドブック その他 Guide Book, etc

●「魅惑のコスチューム：バレエ・リュス展」鑑賞ガイド

『魅惑のコスチューム：バレエ・リュス展 プチガイド』

平成26(2014)年6月18日発行、仕上りA5判、四つ折、図版カラー 8点・白黒6点、30,000部

編集：国立新美術館 教育普及室

執筆：井上絵美子

デザイン：大島慶一郎、内藤彩

印刷：能登印刷株式会社

発行：国立新美術館



●「オルセー美術館展 印象派の誕生—描くことの自由—」小冊子(出品目録)

平成26(2014)年7月9日発行(前期配布版)、9月1日発行(後期配布版)、A5判、8ページ、445,000部(前期配布版)、150,000部(後期配布版)

発行：読売新聞社



●「チューリヒ美術館展—印象派からシュルレアリスムまで」鑑賞ガイド

『チューリヒ美術館展—印象派からシュルレアリスムまで ミニガイド』平成26(2014)年9月25日発行、仕上りA5判横型、蛇腹折、8ページ、図版カラー 12点、50,000部

編集：国立新美術館 教育普及室

執筆：木内祐子

デザイン：額縁友洋

印刷：能登印刷株式会社

発行：国立新美術館、朝日新聞社



●「ルーヴル美術館展 日常を描く—風俗画にみるヨーロッパ絵画の真髄」鑑賞ガイド

『ルーヴル美術館展 ジュニアガイド』

平成27(2015)年2月21日発行、A5判、12ページ、図版カラー6点、350,000部

監修：国立新美術館／小学館

発行：日本テレビ放送網



●「マグリット展」鑑賞ガイド

『ようこそマグリットの不思議な絵の世界へ』

平成27(2015)年3月25日発行、仕上りA5変型(210×161mm)、蛇腹折、

8ページ、図版カラー11点、30,000部

編集：国立新美術館 教育普及室

執筆：井上絵美子

デザイン：森重智子(美術出版社デザインセンター)

印刷：大日本株式会社

発行：国立新美術館、読売新聞社



6-2 ホームページ、各種ウェブサービス Website, SNS

国立新美術館ホームページ (<http://www.nact.jp/>) は、当館の多彩な活動について利用者に分かりやすく情報を伝える媒体である。美術館活動を維持するために寄付等の外部資金を積極的に募っているが、平成27(2015)年3月から当館の運営支援企業、事業支援企業のロゴをホームページに掲載している。

ホームページ、展覧会特設ウェブサイト以外にも、昨今のインターネットの利用形態の変化に対応するため「ソーシャルネットワークサービス(SNS)」等インターネット上の各種ウェブサービスの利用を行っている。平成26年度においてもソーシャルネットワークサービス「Facebook」上の「国立新美術館」のページ (<http://www.facebook.com/nact.jp>、平成23(2011)年11月開設) を運用した。アート commons の更新情報やワークショップ、シンポジウム等のイベント情報の発信のほか、ロビーコンサートの準備作業の紹介や季節により変わる美術館の風景等、国立新美術館とその活動をより身近に感じてもらえるような情報を交えて発信した。平成27(2015)年3月には発信した情報への支持を示す「いいね!」が1万5千件を超えた。また、広報室によるTwitterの運用も継続的に行われ、美術館の活動にあわせて情報を発信した。広報室によるTwitterには5万人を超える利用者が購読登録をしている。

また、当館の活動を携帯電話などでも手軽に閲覧できることを目指して、平成21(2009)年12月からメールマガジンを適時発行している。ホームページ、SNS、メールマガジンのいずれの媒体も緊急時の開館時間変更や臨時休館の告知などの即時性が求められる情報伝達の媒体としても使用している。

The official NACT website (<http://www.nact.jp/>) continues to serve as a user-friendly source of information on the Center's wide-ranging programs. In order to continue implementing these programs, the Center proactively seeks external funding such as corporate donations, etc., and since March 2015 the logos of companies that support the Center and its programs have been introduced on the NACT website.

In addition to the permanent website and special exhibition websites, NACT is keeping pace with recent trends in Internet use by making the most of social-media sites and other online services. In fiscal 2014, we used our Facebook page (<http://www.facebook.com/nact.jp>, set up in November 2011) not only to keep fans up-to-date on our activities via links to our Art Commons listings and schedule of events such as workshops and symposiums, but also to give the Center and its programs a more friendly face by posting a variety of appealing photos, such as seasonal views of the grounds and snapshots of preparations for lobby concerts. In March 2015, the NACT Facebook page passed the 15,000 mark for likes (indicating user approval). Meanwhile, the Public Relations Department has continued posting tweets about the Center activities on its Twitter account, which now has over 50,000 followers.

In addition, we continued distributing our e-newsletter, launched in December 2009 to disseminate the latest Center news in a form that subscribers can easily access on their cell phones or other devices. NACT also makes full use of its permanent website, social media accounts, and e-newsletter to issue up-to-the-minute notifications regarding emergency closings, changes in the Center hours, and other time-sensitive information.

●ホームページ

当館ホームページの総アクセス数(閲覧されたページ数)：12,086,636件

うち、英語ページ： 285,067件
ドイツ語ページ： 7,450件
フランス語ページ：8,364件
スペイン語ページ：7,146件
韓国語ページ： 10,664件
中国語ページ： 20,189件
携帯サイト： 530,159件

●メールマガジン

登録者数：4,133人(平成27(2015)年3月31日現在)

●各種ウェブサービス

- ・Facebook (<http://www.facebook.com/nact.jp>)
「いいね!」：15,202件(平成27(2015)年3月31日現在)
- ・Twitter (@NACT_PR)
ツイート数：1,131件(平成27(2015)年3月31日現在)
フォロワー：54,157人(平成27(2015)年3月31日現在)

6-3 広報活動 Publicity Activities

自主企画展において、報道各社に向けて、展覧会の情報発信やプレス内覧会を開催し、取材誘致、取材対応を行った。また、展覧会のターゲット層に合わせたDM発送や、新聞、ネットメディアでの広告出稿を行うほか、展覧会Facebookで、ホームページでは伝えきれない展示の裏話やインタビュー記事等を掲載し、様々な角度から親しみやすく、展覧会を伝えた。共催展においては、館内での撮影や研究員へのインタビュー等の対応を行うとともに、美術館自体の広報につながる情報を提供した。また、来館者向けに『国立新美術館ニュース』をリニューアルし、展覧会・教育普及・情報資料といった主な事業の活動をわかりやすく伝える広報誌として編集等を行った。

To publicize exhibitions organized by NACT itself, the Center continued to work with all major media outlets by disseminating press releases and other event information, holding press previews for media representatives, and soliciting and responding to media inquiries. In addition, NACT sent direct mailings to institutions and groups of exhibitions' target audiences and placed advertisements in newspapers and online-media, while using dedicated exhibition pages on Facebook to convey behind-the-scenes information, interviews, and other information that does not reach people through the permanent website, aiming to provide viewers with multi-faceted, approachable pictures of exhibitions. For co-organized exhibitions, NACT coordinated photo shoots and filming inside the Center and having interviews with curators, as well as providing information that served to publicize the Center itself. Also, the NACT NEWS for visitors was renewed the design and the concept as a PR magazine offering user-friendly information about NACT's undertakings, including exhibitions, education and public programs, and the collection and provision of the library and information services.

掲載記事、放映 Media Publicity April 2014- March 2015

新聞

No. 紙名	発行	発行日	内容
1 読売新聞	読売新聞社	4月17日	「イメージの力」展 榎木野衣氏展評
2 毎日新聞	毎日新聞社	4月30日	「中村一美展」岸桂子氏展評
3 朝日新聞	朝日新聞社	4月30日	「中村一美展」大西若人氏展評
4 神奈川新聞他各地方紙	共同通信社	5月	「イメージの力」展 福住廉氏展評
5 産経新聞	産経新聞社	5月1日	「中村一美展」渋沢和彦氏展評
6 朝日新聞	朝日新聞社	7月12日	美術館紹介(託児サービスについて)
7 朝日新聞	朝日新聞社	7月16日	「バレエ・リュス展」山田優氏展評
8 日本経済新聞	日本経済新聞社	7月23日	「バレエ・リュス展」窪田直子氏展評
9 朝日新聞	朝日新聞社	9月3日	「オルセー美術館展」宮島綾子(学芸課主任研究員)インタビュー
10 朝日新聞	朝日新聞社	9月20日	「チューリヒ美術館展」山田由佳子(学芸課研究員)コメント
11 新美術新聞	新美術新聞社	9月21日	青木保(館長)執筆「美術館に求められる新しい大きな役割」

全 146件(当館把握件数)

雑誌

No. 誌名	発行	発売号	内容
1 家庭画報	世界文化社	5月号	「イメージの力」展 林家たい平氏コラム
2 芸術新潮	新潮社	5月号	「中村一美」展 特集
3 美術手帖	美術出版社	6月号	「イメージの力」展 石岡良治氏展評
4 美術手帖	美術出版社	6月号	「中村一美」展 特集
5 eclat	集英社	7月号	「バレエ・リュス展」芳賀直子氏解説
6 クロワッサン	マガジンハウス	7月10日	「バレエ・リュス展」神戸里奈氏・本橋弥生(学芸課主任研究員)インタビュー
7 装苑	文化出版局	8月号	「バレエ・リュス展」ミシェル・フォード氏、本橋弥生(学芸課主任研究員)インタビュー
8 美術の窓	生活の友社	8月号	「オルセー美術館展」宮島綾子(学芸課主任研究員)インタビュー
9 美術の窓	生活の友社	11月号	「チューリヒ美術館展」山田由佳子(学芸課研究員)インタビュー
10 サライ	小学館	11月20日	「ルーヴル美術館展」宮島綾子(学芸課主任研究員)インタビュー

全 176件(当館把握件数)

WEB

No. サイト名	発信	掲載日	内容
1 JAGZY	日経BP社	4月4日	「イメージの力」展
2 madame Figaro.jp	CCCコミュニケーションズ	4月8日	「中村一美展」
3 Artscape	大日本印刷	4月15日	「イメージの力」展 安藤礼二氏展評
4 VOGUE.COM	VOGUE Japan	5月26日	「バレエ・リュス展」 住吉智恵氏コラム
5 Happy Plus Art	集英社	6月4日	「イメージの力」展 植田工氏コラム
6 ミュージアムカフェ	廣済堂	6月20日	「バレエ・リュス」展 町田麻子氏展覧会レビュー
7 大人の心得帳	B-Style	11月22日	美術館紹介

全 111件 (当館把握件数)

テレビ

No. 放映番組名	放送局	放映日	内容
1 NHK WORLD「TOKYO EYE」	NHK BS1	4月9日	「イメージの力」展
2 いっぶく	TBSテレビ	7月25日	「バレエ・リュス展」、「オルセー美術館展」 本橋弥生(学芸課主任研究員)、宮島綾子(学芸課主任研究員)出演
3 シューイチ	日本テレビ	8月3日	美術館紹介、「オルセー美術館展」 横山由季子(学芸課アソシエイトフェロー)出演
4 ぶらぶら美術・博物館	BS日テレ	9月26日	「オルセー美術館展」 宮島綾子(学芸課主任研究員)出演
5 日曜美術館(アートシーン)	NHK Eテレ	3月15日	「ルーヴル美術館展」 宮島綾子(学芸課主任研究員)出演

全 27件 (当館把握件数)

ラジオ

No. 放送番組名	放送局	放送日	内容
1 I A.M	J-WAVE	6月23日	「バレエ・リュス展」
2 THE MAJESTIC SUNDAY	FM COCOLO	7月20日	「バレエ・リュス展」 本橋弥生(学芸課主任研究員)出演
3 Symphonia Friday EBU SPECIAL LIVE	TOKYO FM	7月24日	「バレエ・リュス展」
4 林みなほプレシヤサンデー	TBSラジオ	8月16日	「バレエ・リュス展」
5 アトリエノヴァ	J-wave	9月27日	「チューリヒ美術館展」 山田由佳子(学芸課研究員)出演
6 エンタメGOGO	ラジオ日本	2月16日	「ルーヴル美術館展」 宮島綾子(学芸課主任研究員)出演

全 6件 (当館把握件数)

その他、フリーペーパー等の掲載

全 136件 (当館把握件数)

※原則として、美術館紹介及び自主企画展に関する記事、放映のみについて記載した。

※ただし、国立新美術館の職員が執筆、出演した場合は共催展に関する記事、放映についても件数に含めて記載した。

展覧会に関連したその他の広報活動

「イメージの力ー国立民族学博物館コレクションにさぐる」展

●特設サイト (Facebook)

運用期間：平成25年(2013)年12月4日(水)～平成26(2014)年6月10日(火)

「いいね!」：3,841件

運営：国立新美術館 広報担当

「中村一美展」

●PR動画

放映：平成26(2014)年3月4日(火)～5月19日(月)

国立新美術館ホームページ/YouTube/館内デジタルサイネージ

映像：「中村一美展 予告」

インタビュー「抽象とも具象とも分類できない絵画」

インタビュー「色彩について」

インタビュー「存在の鳥について」

編集・制作：国立新美術館 広報担当



中村一美展インタビュー映像 館内デジタルサイネージ

「魅惑のコスチューム：バレエ・リュス展」

●展覧会Facebook

運用期間：平成26(2014)年2月12日(水)～9月10日(水)

「いいね!」：4,845件

運営：国立新美術館 広報担当

●交通広告

東京メトロ、京王電鉄、JR東日本の駅・車両の広告媒体に、ポスター広告およびデジタルサイネージ広告を掲出した。

●新聞広告

朝日新聞、読売新聞、日本経済新聞で広告を掲出した。

●雑誌広告

美術館博物館向けフリーペーパー『ミュージアムカフェマガジン』(vol.9)に広告を掲載した。

●ネットメディア広告

- ・カルチャーニュースWEBサイト「CINRA.NET」に記事出稿
- ・スマートフォンアプリ連動型のバナー広告掲出
- ・Facebookに広告掲出

※原則として、自主企画展の広報について記載した。

共催展の広報については、共催者が行っているため、記載しない。



バレエ・リュス展 Facebook

六本木アート・トライアングル

国立新美術館、サントリー美術館、森美術館の3館は、地図上で三角形を描く「六本木アート・トライアングル」(ATRo)として、展覧会観覧料の相互割引「あとろ割」や、「六本木アート・トライアングルMap+Calendar」の配布など、新しいアートの拠点を目指し、様々な連携に取り組んでいる。5回目となる「六本木アートカレッジ2014」では、チラシ作成とプログラム提供で参加協力し、チラシには、ATRoの活動内容や各館の案内を掲載した。

●六本木アート・トライアングルMap+Calendar 2014.10-2015.3

国立新美術館、サントリー美術館、森美術館
平成26(2014)年10月発行、仕上り297×119mm、展開サイズ297×418mm、変型経本折

●六本木アート・トライアングルMap+Calendar 2015.3-9

国立新美術館、サントリー美術館、森美術館
平成27(2015)年3月発行、仕上り297×119mm、展開サイズ297×418mm、変型経本折

●六本木アートカレッジ2014

アートを中心とした20種類の講座を、1日4,000円で好きなだけ受講できるイベント。6つの時間帯、5つの会場で開講される講座から、好みのものを選択し受講する。今年の特長として、英語講座が3講座開講されたほか、大人数を収容できるメイン会場での講座が全時間帯で開講された。ATRo3館は、チラシ作成のほか、プログラム提供で協力し、国立新美術館からは、山田由佳子研究員による「チューリヒ美術館展の出品作から見るヨーロッパ20世紀美術の歴史」を開講した。

日時：平成26(2014)年11月24日(月・祝)10時～18時30分

会場：アカデミーヒルズ(六本木ヒルズ森タワー49階)

申込者数：946人

参加者数：725人



六本木アート・トライアングルMap+Calendar



六本木アートカレッジ2014 チラシ

南 雄介 MINAMI Yusuke

【執筆】

- ・「人間存在の本質突く 河原温さんを悼む」/『毎日新聞』7月22日(夕刊)/毎日新聞社
- ・[評論]「『未来への回路』展に寄せて」/『NACT Review 国立新美術館研究紀要』(第1号)/11月/国立新美術館
- ・「追悼 辰野登恵子 確かな眼差しで切り開いた絵画の可能性」/『月刊美術』(471号)/12月号/株式会社サン・アート
- ・「マグリット展」/『美術の窓』第34巻第2号(通巻397号)/2月/生活の友社
- ・『もっと知りたい マグリット 生涯と作品』(監修、福満葉子との共著)/3月/株式会社東京美術
- ・「ルネ・マグリットとマルセル・デュシャン」,[作品解説]44点/「マグリット展」展覧会カタログ/3月/読売新聞東京本社

【講演、研究発表等】

- ・「モネ『睡蓮』連作と20世紀美術」/ブリヂストン美術館土曜講座「花を愛でる、花を語る」/4月12日/ブリヂストン美術館
- ・シンポジウム「1995年に見えてきたもの」(パネリスト:佐々木敦、榎木野衣、速水健朗、南雄介、モデレーター:藪前知子)/第48回MOT美術館講座Vol. 1/6月14日/東京都現代美術館

【海外出張】

- ・韓国/6月23日~25日/企画展「アーティスト・ファイル2015」に関わる調査と打ち合わせのため
- ・ドイツ、イギリス/8月25日~9月2日/企画展「アーティスト・ファイル2015」に関わる調査と打ち合わせのため
- ・フランス、スペイン/10月20日~25日/企画展に関わる調査と打ち合わせのため
- ・韓国/11月17日~21日/企画展「アーティスト・ファイル2015」に関わる調査と打ち合わせのため
- ・韓国/12月10日~11日/企画展「アーティスト・ファイル2015」に関わる調査と打ち合わせのため
- ・フィリピン/1月8日~12日/企画展に関わる調査のため

長屋光枝 NAGAYA Mitsue

【執筆】

- ・[作品解説]23本/「チューリヒ美術館展—印象派からシュルレアリスムまで」展覧会カタログ/9月/朝日新聞社
- ・[エッセイ]「カンディンスキーと私」/『NACT Review 国立新美術館研究紀要』(第1号)/11月/国立新美術館

【翻訳】

- ・フィリップ・ビュトナー「チューリヒ芸術協会とチューリヒ美術館」/「チューリヒ美術館展—印象派からシュルレアリスムまで」展覧会カタログ/9月/朝日新聞社

【講演、研究発表等】

- ・「チューリヒ美術館展—印象派からシュルレアリスムまで」解説会「20世紀絵画の展開」/10月19日/国立新美術館
- ・「『実在するイメージ』—美術館から見た今日的意義」/みんぱくゼミナール「美術館からみたみんぱくコレクション」/11月15日/国立民族学博物館

【海外出張】

- ・アメリカ/5月10日~16日/企画展「アーティスト・ファイル2015」に関わる調査のため
- ・韓国/6月23日~27日/企画展「アーティスト・ファイル2015」に関わる調査と打ち合わせのため
- ・韓国/10月20日~24日/企画展「アーティスト・ファイル2015」に関わる調査と打ち合わせのため

- ・韓国/11月17日~20日/企画展「アーティスト・ファイル2015」に関わる調査と打ち合わせのため
- ・韓国/12月10日~11日/企画展「アーティスト・ファイル2015」に関わる調査と打ち合わせのため
- ・韓国/1月28日~30日/企画展「アーティスト・ファイル2015」に関わる調査と打ち合わせのため

宮島綾子 MIYAJIMA Ayako

【執筆】

- ・「笛を吹く少年」/『月刊展覧会ガイド』6月号/6月1日/生活ガイド社
- ・[章解説]「IV章 裸体」「VI章 静物」/「オルセー美術館展 印象派の誕生—描くことの自由—」展覧会カタログ/7月/読売新聞東京本社
- ・「ざらりいモール 国立新美術館『オルセー美術館展 印象派の誕生—描くことの自由—』から《ゆりかご》ベルト・モリゾ」/『読売新聞』8月5日(夕刊)/読売新聞社
- ・[論文]「Notes on Poussin's use of antique sources in his early works (ニコラ・プッサンの初期作品における古代美術からの図像借用について)」/『NACT Review 国立新美術館研究紀要』(第1号)/11月/国立新美術館
- ・「ルーヴル美術館の名画約80点でたどる、ヨーロッパ風俗画の展開」/『美術の窓』第34巻第2号(通巻397号)/2月/生活の友社
- ・「ルーヴル美術館展 日常を描く—風俗画にみるヨーロッパ絵画の真髄」/『新美術新聞』/2月21日(第1368号)/美術年鑑社
- ・「聖なる貧しさ—ムリーリオの子ども」/『REZONAVI』2月号/2月/りそなカード株式会社
- ・「『Peinture de genre』と『風俗画』—用語の生成をめぐる」、[主要参考文献]/「ルーヴル美術館展 日常を描く—風俗画にみるヨーロッパ絵画の真髄」展覧会カタログ/2月/日本テレビ放送網株式会社
- ・「ざらりいモール 国立新美術館『ルーヴル美術館展 日常を描く—風俗画にみるヨーロッパ絵画の真髄』から《二人の従姉妹》ジャン＝アントワーヌ・ヴァトー」/『読売新聞』3月31日(夕刊)/読売新聞社

【翻訳】

- ・[作品解説]1点、[作家解説]8点/「オルセー美術館展 印象派の誕生—描くことの自由—」展覧会カタログ/7月/読売新聞東京本社
- ・[章解説] (共訳)「プロローグ I 『すでに、古代において…』風俗画の起源」/「ルーヴル美術館展 日常を描く—風俗画にみるヨーロッパ絵画の真髄」展覧会カタログ/2月/日本テレビ放送網株式会社

【講演、研究発表等】

- ・「オルセー美術館展 印象派の誕生—描くことの自由—」展覧会担当研究員によるレクチャー/9月12日/国立新美術館

【海外出張】

- ・イタリア/11月15日~19日/企画展に関わる作品調査と打ち合わせのため

本橋弥生 MOTOHASHI Yayoi

【執筆】

- ・「日本におけるバレエ・リュスの受容—1910-20年代を中心に」/「魅惑のコスチューム：バレエ・リュス展」展覧会カタログ/6月/TBSテレビ
- ・「魅惑のコスチューム：バレエ・リュス展」/『文化庁広報誌ぶんかる』/8月/文化庁

【講演、研究発表等】

- ・「魅惑のコスチューム：バレエ・リュス展」/服飾美学会 平成26年度大会/5月31日/文化学園大学

- ・「魅惑のコスチューム：バレエ・リュス展」解説会／7月11日、8月15日／国立新美術館

【海外出張】

- ・香港、ベトナム／8月25日～9月1日／企画展「ニッポンのマンガ＊アニメ＊ゲーム」に関わる調査と打ち合わせのため
- ・アメリカ／12月5日～15日／企画展「ニッポンのマンガ＊アニメ＊ゲーム」に関わる調査と打ち合わせのため
- ・ミャンマー／1月21日～26日／企画展「ニッポンのマンガ＊アニメ＊ゲーム」に関わる調査と打ち合わせのため
- ・フランス、ドイツ／3月4日～12日／企画展「ニッポンのマンガ＊アニメ＊ゲーム」に関わる調査と打ち合わせのため

室屋泰三 MUROYA Taizo

【執筆】

- ・「1枚の絵画をめぐって～絵画の色を分析してみよう～」／『シンポジウム「色彩が奏でる芸術と科学」予稿集』／10月／国立新美術館、日本色彩学会関東支部
- ・「色彩分析ツールで作る絵画鑑賞のためのワークシート」／『日本色彩学会画像色彩研究会2014年度研究発表会予稿集』／3月／日本色彩学会画像色彩研究会

【講演、研究発表等】

- ・「1枚の絵画をめぐって～絵画の色を分析してみよう～」(栗野由美、鈴木卓治、室屋泰三)／シンポジウム「色彩が奏でる芸術と科学」／10月11日／国立新美術館

【海外出張】

- ・タイ、ミャンマー／5月1日～8日／企画展「ニッポンのマンガ＊アニメ＊ゲーム」に関わる調査と打ち合わせのため
- ・ミャンマー、香港／1月21日～28日／企画展「ニッポンのマンガ＊アニメ＊ゲーム」に関わる調査と打ち合わせのため

山田由佳子 YAMADA Yukako

【執筆】

- ・「チューリヒ美術館のコレクションに探る20世紀美術の展開」、[作品解説] 29点／「チューリヒ美術館展—印象派からシュルレアリスムまで」展覧会カタログ／9月／朝日新聞社
- ・「没後五〇年目のジャン・フォートリエ」／『国立国際美術館ニュース』(204号)／10月／国立国際美術館
- ・[論文]「傷ついた女性の身体とレジスタンス—ジャン・フォートリエの〈人質〉の連作をめぐって」／『NACT Review 国立新美術館研究紀要』(第1号)／11月／国立新美術館
- ・「ジャン・フォートリエの『人質』の連作再考—顔のイメージとヴェロニカの聖顔布」／『美学』(245号)／12月／美学会

【翻訳】

- ・エティエンヌ・ダヴィド編「略年譜」／「ジャン・フォートリエ」展覧会カタログ／5月／東京新聞

【講演、研究発表等】

- ・「『チューリヒ美術館展—印象派からシュルレアリスムまで』の見どころ」／知求アカデミー・地中海学会セミナー／10月1日／ワールド航空サービス(日比谷サロン)
- ・「チューリヒ美術館展—印象派からシュルレアリスムまで」展解説会「チューリヒ美術館展のみどころについて」／10月3日／国立新美術館
- ・「フォートリエを内側からひらく」／「ジャン・フォートリエ」展関連シンポジウム／10月26日／国立国際美術館
- ・「『イメージの力』展 国立新美術館での開催の準備と展示について」／みんぱくゼミナール「美術館からみたみんぱくコレクション」／11月15日／国立民族学博物館
- ・「チューリヒ美術館展の出品作からみるヨーロッパ20世紀美術の歴史」／六本木アートカレッジ／11月24日／アカデミーヒルズ

【海外出張】

- ・フランス／9月10日～14日／企画展に関わる調査のため
- ・フランス／11月24日～29日／企画展「ニキ・ド・サンファル展」に関わる調査と打ち合わせのため

米田尚輝 YONEDA Naoki

【執筆】

- ・[論文]「ゾフィー・トイバー—1910-20年代のデザイン理論」／『NACT Review 国立新美術館研究紀要』(第1号)／11月／国立新美術館

【海外出張】

- ・アメリカ／5月10日～20日／企画展「アーティスト・ファイル2015」に関わる調査のため
- ・フランス、スイス／6月17日～22日／「1900-30年代フランスの美術と建築における軸測投影に関する総合的研究」(科研費24720086)に関わる調査のため
- ・韓国／6月23日～27日／企画展「アーティスト・ファイル2015」に関わる調査と打ち合わせのため
- ・ドイツ、イギリス／8月25日～9月5日／企画展「アーティスト・ファイル2015」に関わる調査と打ち合わせのため
- ・韓国／10月15日～16日／企画展「アーティスト・ファイル2015」に関わる調査と打ち合わせのため
- ・韓国／10月20日～24日／企画展「アーティスト・ファイル2015」に関わる調査と打ち合わせのため
- ・台湾、韓国／11月1日～4日／企画展「アーティスト・ファイル2015」に関わる調査と打ち合わせのため
- ・韓国／11月17日～21日／企画展「アーティスト・ファイル2015」に関わる調査と打ち合わせのため
- ・韓国／12月10日～11日／企画展「アーティスト・ファイル2015」に関わる調査と打ち合わせのため
- ・フランス、イギリス／12月20日～28日／「1900-30年代フランスの美術と建築における軸測投影に関する総合的研究」(科研費24720086)に関わる調査のため
- ・フィリピン／1月8日～12日／企画展に関わる調査と打ち合わせのため
- ・韓国／1月28日～30日／企画展「アーティスト・ファイル2015」に関わる調査と打ち合わせのため
- ・ブルネイ、マレーシア／2月4日～11日／企画展に関わる調査と打ち合わせのため
- ・韓国／2月24日～25日／企画展「アーティスト・ファイル2015」に関わる調査と打ち合わせのため

瀧上 華 TAKIGAMI Hana

【執筆】

- ・[論文]「もうひとつの大ガラス論—フレデリック・キースラー『デザイン・コルリレーション』を読む」／『NACT Review 国立新美術館研究紀要』(第1号)／11月／国立新美術館
- ・「ショーウィンドウとしての絵画」、[作品解説] 26点／「マグリット展」展覧会カタログ／3月／読売新聞東京本社

【翻訳】

- ・チャーリー・エルスコヴィッチ「日出ざる地のマグリット」、ミシェル・ドラゲ「序文」／「マグリット展」展覧会カタログ／3月／読売新聞東京本社

【講演、研究発表等】

- ・「フレデリック・キースラー《ブケパロス》—洞窟の展示空間」／表象文化論学会第9回研究発表集会／11月8日／新潟大学

横山由季子 YOKOYAMA Yukiko

【執筆】

- ・「サロン審査に不満『印象派展』」／『読売新聞』7月1日／読売新聞社
- ・「落選者たち」, [章解説]「7章 肖像」, 「参考文献 フランス近代美術に関する展覧会図録1945-2014」／「オルセー美術館展 印象派の誕生―描くことの自由―」展覧会カタログ／7月／読売新聞東京本社
- ・「評論」「視覚のタイム・トラベル ガートルード・スタイン、アルフレッド・バー Jr.、ドロシー・ミラーとともに」／『NACT Review 国立新美術館研究紀要』(第1号)／11月／国立新美術館
- ・「ジャコメッティの線 『『終わりなきパリ』、そしてポエジー』展の余韻に(2014年4月26日～6月29日、東京大学駒場博物館)」／『REPRE』(22号)／10月／表象文化論学会
- ・「書評」「澤村聡／編著『アートは地域を変えたか 越後妻有大地の芸術祭の十三年 2000-2012』慶應義塾大学出版会、2014年」／『地域開発』(604号)／1月／一般財団法人 日本地域開発センター
- ・「『オルセー美術館展 印象派の誕生―描くことの自由―』(国立新美術館、2014年7月9日～10月20日) 関連シンポジウム『マネから印象派へ ―1860年代のフランス絵画の変貌』」／『REPRE』(23号)／2月／表象文化論学会
- ・「ヨーロッパ風俗画 関連年表」, 「主要参考文献」／「ルーヴル美術館展 日常を描く―風俗画にみるヨーロッパ絵画の真髄」展覧会カタログ／2月／日本テレビ放送網株式会社

【翻訳】

- ・アントワン・ダガタ写真集『Anticorps 抗体』(翻訳協力)／4月／赤々舎
- ・「章解説」「アトリエの芸術家」／「ルーヴル美術館展 日常を描く―風俗画にみるヨーロッパ絵画の真髄」展覧会カタログ／2月／日本テレビ放送網株式会社

【講演、研究発表等】

- ・「作品展示の場を求めて―19世紀半ばの画家たちの選択」／「オルセー美術館展 印象派の誕生―描くことの自由―」関連シンポジウム「マネから印象派へ ―1860年代のフランス絵画の変貌」／9月13日／国立新美術館

吉澤菜摘 YOSHIZAWA Natsumi

【執筆】

- ・「ココがポイント! オルセー美術館展 19世紀後半―印象派が誕生した時代」／「オルセー美術館展 印象派の誕生―描くことの自由―」小冊子(後期配布版)／9月／読売新聞社
- ・「ワールドカフェ」／『平成26年度美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修 Web報告』／10月／独立行政法人国立美術館
- ・「集報」「黒川紀章メモリアル INTER-DESIGN FORUM TOKYO 2013 『共生のアジアへ』Towards Symbiosis of Asia 報告」, 「黒川紀章メモリアル INTER-DESIGN FORUM TOKYO 2013 『共生のアジアへ』Towards Symbiosis of Asia シンポジウム『建築と美術館の未来』採録」／『NACT Review 国立新美術館研究紀要』(第1号)／11月／国立新美術館

【講演、研究発表等】

- ・「国立新美術館のアーティスト・ワークショップ」／国際シンポジウム「アーティストとの関わりは私たちに何をもたらすのか―“経験する”現場からの検証」／3月15日／国立新美術館

谷口英理 TANIGUCHI Eri

【執筆】

- ・「資料」「美術資料をめぐる回想 松本武氏に聞く」(聞き手: 谷口英理 伊村靖子 長名大地)／『NACT Review 国立新美術館研究紀要』(第1号)／11月／国立新美術館
- ・「資料解説」7点／『記録集「美術と印刷物―1960-70年代を中心に」』／3月／東京国立近代美術館

【講演、研究発表等】

- ・「美術館とアーカイブ―国立新美術館の事例」／京都市立芸術大学芸術資源研究センターシンポジウム「来たるべきアート・アーカイブ 大学と美術館の役割」／11月24日／国立新美術館

岩崎美千子 IWASAKI Michiko

【執筆】

- ・「主要参考文献」／「魅惑のコスチューム: バレエ・リュス展」展覧会カタログ／6月／TBSテレビ
- ・「作品解説」15点, 「主要参考文献」／「マグリット展」展覧会カタログ／3月／読売新聞東京本社

長谷川珠緒 HASEGAWA-FINCK Tamao

【執筆】

- ・「作品解説」11点, 「関連年表」／「チューリヒ美術館展―印象派からシュルレアリスムまで」展覧会カタログ／9月／朝日新聞社

日比野民蓉 HIBINO Miyon

【執筆】

- ・「エッセイ」「日韓的美術館の領分」／『NACT Review 国立新美術館研究紀要』(第1号)／11月／国立新美術館
- ・「朝鮮美術展覧会における日本人画家・安保道子について」(荒井経、日比野民蓉)／『東京藝術大学美術学部紀要』(第52号)／12月／東京藝術大学美術学部

【翻訳】

- ・崔燁「近代における仏教界と仏画の制作」／『美術研究』(413号)／10月／東京文化財研究所

【講演、研究発表等】

- ・「ポスター発表」「東京藝術大学大学美術館蔵 菱田春草『水鏡』の彩色材料分析調査報告」(田中真奈子、荒井経、内田優花、安原成美、日比野民蓉)／文化財保存修復学会第36回大会／6月8日／明治大学
- ・「逐次通訳」金仁恵「朝鮮美術展覧会開設初期の作家たち ナ・ヘソク、キム・ボクジン、イ・ウンノを中心に」／「東京・ソウル・台北・長春―官展にみる―それぞれの近代美術」展講演会／5月17日／府中市美術館
- ・「逐次通訳」黄ビンナ「『朝鮮南画院』―近代南画の二重トボス」／国際フォーラム「20世紀前半、二重空間の韓国に生きた日韓の美術家たち」／10月11日／駐日韓国大使館 韓国文化院

【海外出張】

- ・アメリカ／5月10日～16日／企画展「アーティスト・ファイル2015」に関わる調査のため
- ・韓国／6月23日～27日／企画展「アーティスト・ファイル2015」に関わる調査と打ち合わせのため
- ・ドイツ、イギリス／8月25日～9月5日／企画展「アーティスト・ファイル2015」に関わる調査と打ち合わせのため
- ・韓国／10月20日～24日／企画展「アーティスト・ファイル2015」に関わる調査と打ち合わせのため
- ・韓国／11月17日～21日／企画展「アーティスト・ファイル2015」に関わる調査と打ち合わせのため
- ・韓国／12月10日～11日／企画展「アーティスト・ファイル2015」に関わる調査と打ち合わせのため
- ・韓国／1月28日～30日／企画展「アーティスト・ファイル2015」に関わる調査と打ち合わせのため

小山祐美子 OYAMA Yumiko

【執筆】

- ・「だまし絵を、美術の入り口に―Bunkamuraザ・ミュージアム だまし絵展Ⅱ 進化するだまし絵」／『ミュージアムカフェマガジン』(Vol. 11)／8月／株式会社 廣済堂

【講演、研究発表等】

- ・「マン・レイ《天文台の時刻に——恋人たち》に関する一考察——シュルレアリスムとモードにおける唇のイメージ」／第9回表象文化論学会／7月5日／東京大学駒場キャンパス

西 美弥子 NISHI Miyako

【執筆】

- ・「主要参考文献」／「ルーヴル美術館展 日常を描く—風俗画にみるヨーロッパ絵画の真髄」展覧会カタログ／2月／日本テレビ放送網株式会社

井上絵美子 INOUE Emiko

【執筆】

- ・『魅惑のコスチューム：バレエ・リュス展 プチガイド』／6月／国立新美術館
- ・[エッセイ]「ジョン・デューイの教育哲学に学ぶ、美術館における教育普及の在り方」／『NACT Review 国立新美術館研究紀要』(第1号)／11月／国立新美術館
- ・「マグリット展」鑑賞ガイド『ようこそマグリットの不思議な絵の世界へ』／3月／国立新美術館、読売新聞社

【講演、研究発表等】

- ・「アメリカとフランスの美術館における中学生・高校生向けの美術館・教育普及プログラムについての調査報告」／第48回 日本美術教育研究発表会／10月19日／東京家政大学

木内祐子 KINOUCHI Yuko

【執筆】

- ・『チューリヒ美術館展—印象派からシュルレアリスムまで ミニガイド』／9月／国立新美術館、朝日新聞社

伊村靖子 IMURA Yasuko

【執筆】

- ・「色彩と空間展から大阪万博まで—60年代美術とデザインの接地面」／『美術フォーラム21』(第30号)／11月／醍醐書房
- ・[評論]「展覧会と美術資料—Materializing Six Years: Lucy R. Lippard and the Emergence of Conceptual Artを例に」／『NACT Review 国立新美術館研究紀要』(第1号)／11月／国立新美術館
- ・[資料]「美術資料をめぐる回想 松本武氏に聞く」(聞き手：谷口英理 伊村靖子 長名大地)／『NACT Review 国立新美術館研究紀要』(第1号)／11月／国立新美術館
- ・「1960年代における『テレビ』をめぐる言説と芸術表現—今野勉所蔵資料を手がかりに」(科研費15K02129「戦後日本におけるマス・メディア受容と現代芸術の文化学」)／『AMCジャーナル』(第1号)／1月／東京藝術大学芸術情報センター
- ・[資料解説]11点／『記録集「美術と印刷物—1960-70年代を中心に」』／3月／東京国立近代美術館

【講演、研究発表等】

- ・「60年代デザイン運動と東京オリンピック」／第56回意匠学会全国大会シンポジウム「東京オリンピックとデザイン」／7月26日／国立大学法人お茶の水女子大学
- ・「1960年代をめぐる」／「磯崎新12×5=60」展関連イベント／11月14日／ワタリウム美術館

長名大地 OSANA Taichi

【執筆】

- ・[論文]「マックス・エルンストのオシレーション—ドリッピングへの影響論を超えて」／『NACT Review 国立新美術館研究紀要』(第1号)／11月／国立新美術館
- ・[資料]「美術資料をめぐる回想 松本武氏に聞く」(聞き手：谷口英

理 伊村靖子 長名大地)／『NACT Review 国立新美術館研究紀要』(第1号)／11月／国立新美術館

- ・[資料解説]4点／『記録集「美術と印刷物—1960-70年代を中心に」』／3月／東京国立近代美術館

【講演、研究発表等】

- ・「マックス・エルンストのオシレーション—ジャクソン・ポロックのドリッピングへの影響論の再考」／「芸術と社会」研究会／6月21日／一橋大学佐野書院

阿部陽子 ABE Yoko

【執筆】

- ・[エッセイ]「国立新美術館情報資料室の活動について」／『NACT Review 国立新美術館研究紀要』(第1号)／11月／国立新美術館

8

その他の事業

Other Programs and Events

●SFTギャラリー展示一覧

- ・「VERTIGO」展
mintdesigns
平成26(2014)年4月2日(水)～6月9日(月)
- ・うつわ、ロマンティーク ちいさな鉢と片口のうつわ展
石田誠、小野哲平、亀田大介、巳亦敬一、横山拓也、吉田直嗣、吉村和美
ディレクション：祥見知生(うつわ祥見)
6月11日(水)～8月18日(月)
- ・「another mobiles」by tempo
DRILL DESIGN、MUTE、藤森泰司、寺田尚樹、村澤一晃、mother tool
8月20日(水)～10月20日(月)
- ・その親密さといったら
伊藤聡信、清野学、中園義光、一柳京子
展示協力：TABI BAGEL、Aalto coffee、RECTOHALL
10月22日(水)～平成27(2015)年1月19日(月)
- ・テラダモケイのお花見
寺田尚樹
展示：福永紙工株式会社、日の出工芸株式会社、日本セキソー株式会社
展示・企画：テラダデザイナー級建築士事務所
1月21日(水)～3月30日(月)



SFTギャラリー

●別館展示コーナー

昭和3(1928)年建設の旧陸軍兵舎は、「日」の字型の構造を持ち、アールデコ調のデザインを取り入れた外壁など、ビルディング・タイプのモダンな旧陸軍初の鉄筋コンクリート建築であった。その後、昭和37(1962)年から東京大学生産技術研究所(一部、物性研究所)として使用された。国立新美術館建設に伴い、建物は解体・撤去されることとなったが、建築上の歴史的価値に鑑み、その一部が国立新美術館別館として保存されている。

別館エントランスホールの展示コーナーでは、兵舎時代の建物の写真、図面、模型、解体前の調査報告書や当時の東京大学研究紹介などを公開している。

開室日：毎週月、水、木、金曜日(祝祭日、年末年始及び美術館の休館日は休室)

開室時間：11時～18時

開室日数：190日

利用者数：2,443人

●ロビーコンサート

- ・雅楽の響き～魅力ある日本の音世界～
日時：平成26(2014)年4月20日(日)15時～16時30分
会場：国立新美術館 1階ロビー
出演：伶楽舎
参加者数：318人

- ・サマー・ジャズコンサート
日時：6月27日(金)18時30分～19時30分
会場：国立新美術館 1階ロビー
出演：チャリット(Vo)、野力奏一(p)、中村健吾(b)、東原力哉(ds)、鈴木央紹(Sax)
参加者数：254人

- ・国立新美術館音楽の楽しみ「弦楽四重奏の魅力」
日時：11月14日(金)18時30分～19時30分
会場：国立新美術館 1階ロビー
出演：松野弘明(Vn)、水谷晃(Vn)、枝並千花(Vn)、大山平一郎(Vla)、辻本玲(Vc)、小島幸法(Vc)
参加者数：308人



4月20日 雅楽コンサート

●地域との協力・連携事業

- ・「港区ミュージアムネットワーク」参加(主催：港区)
- ・政策研究大学院大学学生向けガイダンス
近隣の政策研究大学院大学との連携の一環として、学生を対象とした展覧会や施設に関するガイダンスを実施した。
日時：平成26(2014)年5月15日(木)、11月26日(水)(全2回)
会場：国立新美術館 講堂
参加者数：第1回 13カ国45人、第2回 32カ国57人
- ・「港区文化芸術のちから集中プログラム」協力(主催：港区)
「ミナコレ2014夏」(スタンプラリー)
日時：平成26(2014)年7月19日(土)～8月31日(日)
「文化芸術のみなと・ミナコレ2015冬」(無料巡回バスの運行)
日時：平成27(2015)年2月1日(日)～28日(土)
- ・「2014みなと区民まつり」協賛(主催：みなと区民まつり実行委員会)
日時：平成26(2014)年10月11日(土)、12日(日)
- ・「地域で共に生きる障害児 障害者アート展」開催(主催：港区、共催：国立新美術館)
絵画鑑賞を通じて障害者への理解を深めることを目的に、港区が実施する重度障害児を対象とした事業や、港区内の障害者施設で制作された作品を展示した。
日時：平成27(2015)年1月21日(水)～26日(月)
会場：国立新美術館 1階ロビー(企画展示室1E前)

●六本木アートナイト2014

主催：東京都 アーツカウンシル東京・東京文化発信プロジェクト室
(公益財団法人東京都歴史文化財団)、六本木アートナイト実行委員会【国立新美術館、サントリー美術館、東京ミッドタウン、21_21 DESIGN SIGHT、森美術館、森ビル、六本木商店街振興組合】

共催：港区

助成：平成25年度 文化庁 地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業

日時：平成26(2014)年4月19日(土)10時～20日(日)18時
[コアタイム]4月19日(土)18時17分【日没】～20日(日)5時3分【日の出】

開催場所：国立新美術館、六本木ヒルズ、森美術館、東京ミッドタウン、サントリー美術館、21_21 DESIGN SIGHT、六本木商店街、その他六本木地区の協力施設や公共スペース

国立新美術館プログラム：

4月19日(土)

- ・「イメージの力ー国立民族学博物館コレクションにさぐる」展及び「中村一美展」を22時まで開会時間延長、無料観覧の実施
- ・公募展「第100回記念 光風会展」(主催：一般社団法人 光風会)を20時まで開会時間延長
- ・屋外展示《もうひとつの「イメージの力」》
- ・プロジェクト大山 presents 《仮面舞踏会ーイメージの力、うごく!》

4月20日(日)

- ・伶楽舎 コンサート《雅楽の響き～魅力ある日本の音世界～》

4月19日(土)～20日(日)

- ・TOKYO ANIMA! 2014

4月19日(土)～21日(月)

- ・小原宏貴《Egg》

六本木広域プログラム(うち、国立新美術館を会場として実施したもの)：

4月19日(土)

- ・六本木パレード《ふわりたい ながれたい つなぎたい》

4月19日(土)～20日(日)

- ・《カラダひとつプロジェクト》西尾美也《ボタン／雨》
- ・街なかウォーク 吉田一郎《おおぢちゃん》



9-1 入場者数

Number of Visitors

9-2 予算

Budget

9-3 企業協賛

Corporate Support

9-4 来館者サービス

Visitor Services

9-5 国際交流

International Exchanges

9-6 展覧会出品リスト

List of Works

9-7 名簿The NACT Advisory Board,
The NACT Council and Staff List

9 | 記録 Records

9-1 入場者数 Number of Visitors

国立新美術館展覧会入場者数

年度	企画展			公募展			年間入場者数合計	入場者数累計
	展覧会数	開催日数	入場者数	展覧会数	開催日数	入場者数		
平成18	4	162	498,694	—	—	—	498,694	498,694
平成19	11	423	1,847,413	69	832	1,317,508	3,164,921	3,663,615
平成20	11	432	1,052,472	69	840	1,309,747	2,362,219	6,025,834
平成21	10	453	1,149,767	69	833	1,246,840	2,396,607	8,422,441
平成22	11	397	1,807,150	69	811	1,266,989	3,074,139	11,496,580
平成23	8	350	690,000	69	831	1,253,764	1,943,764	13,440,344
平成24	10	436	1,092,175	69	834	1,259,966	2,352,141	15,792,485
平成25	10	417	822,815	69	837	1,205,249	2,028,064	17,820,549
平成26	9	412	1,426,433	69	846	1,193,917	2,620,350	20,440,899

※平成18年度は開館(平成19年1月21日)から年度末(3月31日)までの統計である。

※開催日数には、年度内に開催された全ての展覧会の開催日数合計を記した。

※公募展の展覧会数・開催日数・入場者数は、当該年度第1会期から第25会期まで(平成22年度までは第50会期まで)の展覧会の統計である。

※平成23(2011)年3月12日(土)、14日(月)、16日(水)～18日(金)、23日(水)～25日(金)は臨時休館。

9-2 予算 Budget

収入 Revenue

事項	金額(単位:千円)
運営交付金	782,882
自己収入	609,766
合計	1,392,648

支出 Expenditure

事項	金額(単位:千円)
一般管理費	272,684
展示事業費	597,826
(内訳)	
企画展事業費	244,131
公募展事業費	353,695
教育普及費	516,972
(内訳)	
教育普及事業費	391,236
情報提供事業費	27,711
図書閲覧事業費	63,198
広報事業費	26,627
アーカイブ事業費	8,200
調査研究費	5,166
合計	1,392,648

9-3 企業協賛 Corporate Support

運営支援企業名

株式会社ジュン アンダ

事業支援企業名

鹿島建物総合管理株式会社
 キャノン株式会社
 JXホールディングス株式会社
 住友化学株式会社
 東レ株式会社
 三井不動産株式会社
 三菱商事株式会社
 三菱電機株式会社

9-4 来館者サービス Visitor Services

●付属施設

- ・ レストラン：ブラスリー ポール・ボキューズ ミュゼ(3階)
- ・ カフェ：サロン・ド・テ ロンド(2階)
カフェ コキユ(1階)
カフェテリア カレ(地下1階)
- ・ ミュージアムショップ：スーベニア フロム トーキョー(SFT)
(地下1階、1階)
SFTギャラリー(地下1階)

●観覧環境の整備

- ・ 多目的トイレの設置
- ・ 車椅子・ベビーカーの貸出
- ・ 展示室内におけるストールの貸出
- ・ オストメイト(人工肛門・人工膀胱)対応トイレの設置
- ・ 身体障害者用駐車場の整備
- ・ 授乳室(地下1階)の整備
- ・ 補聴器等への磁気誘導無線システムを講堂に設置(専用受信機10台)
- ・ 点字ブロック、点字表示の整備
- ・ 視覚障害者用のインターホンを各入口に設置
- ・ 館内ディスプレイでの展覧会や講演会等の情報表示
- ・ 海外6カ国語版の利用案内(220×107mm、二つ折)を配布
- ・ バリアフリー情報に特化した大きな文字の利用案内を配布
- ・ 各インフォメーションに筆談ボードを設置
- ・ 平成27(2015)年3月から、来館者向けの無料無線アクセスポイント(Wifi)の試験運用を1階ロビーにて開始

●託児サービス

育児支援および来館者サービスの一環として、託児サービスを実施した。

実施日：毎月第2木曜、第3日曜、第4月曜 計38回

使用施設：国立新美術館 研修室

受入人数：253人

●独立行政法人国立美術館キャンパスメンバーズ

会員法人数：80法人(うち国立新美術館利用法人数：71法人)

国立新美術館利用者数：34,753人

●高校生等の観覧料無料化

- ・ 高校生または18歳未満の観覧無料展覧会：
「イメージのカー国立民族学博物館コレクションにさぐる」
「中村一美展」
「未来を担うアーティストたち 17th DOMANI・明日展 文化庁芸術家在外研修の成果」
- ・ 高校生特別無料招待日を設けた展覧会：
「魅惑のコスチューム：バレエ・リュス展」
「オルセー美術館展 印象派の誕生—描くことの自由—」
「チューリヒ美術館展—印象派からシュルレアリスムまで」
「ルーヴル美術館展 日常を描く—風俗画にみるヨーロッパ絵画の真髄」
「マグリット展」
- ・ 観覧料無料展覧会：
「平成26年度[第18回]文化庁メディア芸術祭」

●高齢者の観覧料低廉化

- ・ 公募展との相互割引で、65歳以上の利用者に大学生団体料金を適用した展覧会：
「イメージのカー国立民族学博物館コレクションにさぐる」
「中村一美展」

●クレジットカード及び電子マネー等による観覧券購入対応

クレジットカード：UC、MasterCard、VISA、JCB、AMEX、Diners Club、DISCOVER

電子マネー：Suica、PASMO、ICOCA、Kitaca、TOICA、SUGOCA、nimoca、はやかけん、iD

その他：J-Devit、銀聯

●ぐるっとパス

平成26(2014)年4月1日～平成27(2015)年3月31日の期間、東京の美術館・博物館等共通入館券「東京・ミュージアム ぐるっとパス2014」に参加。



託児サービス

9-5 国際交流 International Exchanges

氏名 Name

肩書

国・地域

滞在期間・来館日

来館目的

平成26年度招聘者 Guests April 2014-March 2015

ハワード・モーフィ Howard Morphy

文化人類学者・オーストラリア国立大学教授

オーストラリア

5月18日

「イメージの力」展 ギャラリー・トーク出演

ミシェル・フォード Micheline Ford

オーストラリア国立美術館 シニア・テキスタイル・コンサヴェーター

オーストラリア

5月15日～6月19日、8月31日～9月26日

「バレエ・リュス展」 作品輸送、展示・撤去指導、講演会登壇

ハナ・バレット Hannah Barrett

オーストラリア国立美術館 テキスタイル・コンサヴェーター

オーストラリア

5月16日～6月17日、8月31日～9月30日

「バレエ・リュス展」 作品輸送、展示・撤去指導

ジェーン・ワイルド Jane Wild

オーストラリア国立美術館 コンサヴェーター

オーストラリア

6月2日～17日

「バレエ・リュス展」 展示指導

ロバート・ベル Robert Bell

オーストラリア国立美術館 装飾芸術・デザイン部門シニア・キュレーター

オーストラリア

6月8日～19日

「バレエ・リュス展」 展示指導、開会式出席、講演会登壇

クラウディア・モトレーゼ Claudia Motolese

オーストラリア国立美術館 コンサヴェーター

オーストラリア

8月31日～9月21日

「バレエ・リュス展」 撤去指導

ブレイド・ラレマンド Blaide Lallemand

オーストラリア国立美術館 テキスタイル展示担当員

オーストラリア

8月31日～9月21日

「バレエ・リュス展」 撤去指導

カロリーヌ・マチュー Caroline Mathieu

オルセー美術館 統括学芸員

フランス

6月25日、6月30日～7月4日、7日、8日、10日、10月21日～23日

「オルセー美術館展」 作品輸送、展示・撤去指導

イヴ・バデッツ Yves Badetz

オルセー美術館 学芸員

フランス

6月27日、6月30日～7月2日

「オルセー美術館展」 作品輸送、展示指導

ジャン・ノーダン Jean Naudin

オルセー美術館 展覧会部国際展責任者

フランス

6月28日、6月30日～7月4日、7日、8日、10日、10月21日～23日

「オルセー美術館展」 作品輸送、展示・撤去指導

オディール・ミシェル Odile Michel

オルセー美術館 レジストラール

フランス

6月28日、6月30日～7月2日、10月21日～23日

「オルセー美術館展」 作品輸送、展示・撤去指導

ギイ・コジュヴァル Guy Cogeval

オルセー美術館・オランジュリー美術館 理事長

フランス

7月7日、8日、10日、12日

「オルセー美術館展」 展示指導、内覧会出席、講演会登壇

カリン・マルティ Karin Marti

チューリヒ美術館 レジストラール

スイス

9月16日

「チューリヒ美術館展」 作品輸送

カースティン・ミュラー Kerstin Mürer

チューリヒ美術館 コンサヴェーター

スイス

9月17日～21日、12月16日～18日

「チューリヒ美術館展」 作品輸送、展示・撤去指導

トビアス・ハウプト Tobias Haupt

チューリヒ美術館 コンサヴェーター

スイス

9月18日～21日

「チューリヒ美術館展」 作品輸送、展示指導

ハンスペーター・マーティ Hanspeter Marty

チューリヒ美術館 修復部門責任者

スイス

9月18日～24日、12月16日～18日

「チューリヒ美術館展」 作品輸送、展示・撤去指導

ヨハネス・シール Johannes Schiel

チューリヒ美術館 輸送部門責任者

スイス

9月18日～19日

「チューリヒ美術館展」 作品輸送、展示指導

フィリップ・ビュトナー Philippe Buettner

チューリヒ美術館 主任学芸員

スイス

9月22日～9月24日

「チューリヒ美術館展」 展示指導、記者内覧会作品解説、開会式出席

ハンスペーター・マイヤー Hanspeter Meier
チューリヒ美術館 副館長
スイス
9月24日
「チューリヒ美術館展」 開会式出席

アルテミス・リュスタウ Artemis Rustau
チューリヒ美術館 アシスタント・コンサヴァター
スイス
1月22日
「チューリヒ美術館展」 作品輸送

ガブリエル・カンティエニ Gabriel Cantieni
チューリヒ美術館 技術専門職
スイス
1月22日～24日
「チューリヒ美術館展」 作品輸送

ディサポン・ネトロモン Disapong Netlomwong
ナショナルギャラリー・バンコク キュレーター
タイ
2月2日～5日
シンポジウム「日本から世界へマンガ、アニメ、ゲームによる文化発信」登壇

趙剛 Zhao Gang
中国社会科学院 助教授
中国
2月2日～5日
シンポジウム「日本から世界へマンガ、アニメ、ゲームによる文化発信」登壇

ゴードン・ロー Gordon Lo
香港アーツセンター コミックス・ホームページ プログラム・オペレーション・マネージャー
香港
2月2日～5日
シンポジウム「日本から世界へマンガ、アニメ、ゲームによる文化発信」登壇

コニー・ラム Connie Lam
香港アーツセンター コミックス・ホームページ エグゼクティブ・ディレクター
香港
2月2日～5日
シンポジウム「日本から世界へマンガ、アニメ、ゲームによる文化発信」登壇

キャロリーヌ・ピロ Caroline Biro
ルーヴル美術館 古代エジプト美術部門 レジストラール
フランス
2月11日～15日
「ルーヴル美術館展」 作品輸送・展示指導

ブリジット・ロット Brigitte Lot
ルーヴル美術館 絵画部門 レジストラール
フランス
2月11日～18日
「ルーヴル美術館展」 作品輸送・展示指導

ジョルジュ・ヴァズケズ Jorge Vazquez
ルーヴル美術館 古代オリエント美術部門 レジストラール
フランス
2月12日～16日
「ルーヴル美術館展」 作品輸送・展示指導

オリヴィエ・ラヴィエウ Olivier Laville
ルーヴル美術館 絵画部門 レジストラール
フランス
2月12日～20日
「ルーヴル美術館展」 作品輸送・展示指導

クリスティーナ・アリアン Christina Arlian
ルーヴル美術館 絵画部門 レジストラール
フランス
2月14日～20日
「ルーヴル美術館展」 作品輸送・展示指導

ヴァンサン・ポマレド Vencent Pomarede
ルーヴル美術館 メディエーション局長／統括文化財管理官
フランス
2月16日～21日
「ルーヴル美術館展」 展示指導

アリーヌ・フランソワ Aline François
ルーヴル美術館 メディエーション局長補佐
フランス
2月18日～21日
「ルーヴル美術館展」 展示指導、内覧会出席

マルティヌ・デパニャ Martine Depagniat
ルーヴル美術館 絵画部門 レジストラール
フランス
2月18日～21日
「ルーヴル美術館展」 作品輸送・展示指導

ジャン＝リュック・マルティネス Jean-Luc Martinez
ルーヴル美術館 館長
フランス
2月20日～21日
「ルーヴル美術館展」 内覧会出席

ヘザー・マクソン Heather Maxson
ホイットニー美術館 学校・青少年・家族向けプログラム ディレクター
アメリカ
3月9日～17日
シンポジウム「アーティストとの関わりは私たちに何をもたらすのか」登壇

カーク・ヴィアモン Kirk Vuillemot
シカゴ美術館 副美術保存修復委員
アメリカ
3月13日、16日
「マグリット展」 作品輸送・展示指導

メリディス・グレイ Meredith Gray
シカゴ現代美術館
アメリカ
3月13日、17日
「マグリット展」 作品輸送・展示指導

エリン・ステューブソン Erin Stephenson
メニル・コレクション 絵画保存修復部門 アンドリュー W. メロン・フェロー
アメリカ
3月14日、16日
「マグリット展」 作品輸送・展示指導

パトリツィア・リブル Patrizia Ribul
テート 新規収蔵管理
イギリス
3月14日、16日
「マグリット展」 作品輸送・展示指導

ブリフィカシオン・リビオ Purificación Ripio
ティッセン＝ボルネミッサ美術館
スペイン
3月14日、16日
「マグリット展」 作品輸送・展示指導

フランチェスカ・ヴァンデピット Francisca Vandepitte
ベルギー王立美術館 近代彫刻およびコンスタンティン・ムニエ美術
館キュレーター
ベルギー
3月14日、16日～20日
「マグリット展」 作品輸送・展示指導

ラウラ・ラモン・ブロヘラス Laura Ramón Brogeras
テレフォニカ財団 コレクション管理部門、アート&テクノロジー
スペイン
3月14日、16日、24日
「マグリット展」 作品輸送・展示指導

エアリエル・プロテック Ariel Plotek
サンディエゴ美術館 近代美術アソシエイトキュレーター
アメリカ
3月14日、17日
「マグリット展」 作品輸送・展示指導

サイモン・グルーム Simon Groom
スコットランド国立近代美術館 館長
イギリス
3月14日、18日
「マグリット展」 作品輸送・展示指導

ミア・ヴァンデケルクホーヴ Mia Vandekerckhove
ルネ・マグリット財団および委員会 修復家コンサルタント
ベルギー
3月14日、18日、19日
「マグリット展」 作品輸送・展示指導

フレデリック・レーン Frederik Leen
ベルギー王立美術館 近代美術部長
ベルギー
3月15日、17日～20日
「マグリット展」 作品輸送・展示指導

カーン・トリン Kahn Trinh
ニュー・サウス・ウェールズ美術館 日本および韓国美術キュレーター
オーストラリア
3月16日、18日
「マグリット展」 作品輸送・展示指導

ジュリー・ワセージュ Julie Waseige
ベルギー王立美術館 学術協力者
ベルギー
3月16日、18日、19日
「マグリット展」 作品輸送・展示指導

クリスティーン・ディクソン Christine Dixon
オーストラリア国立美術館
オーストラリア
3月16日、19日
「マグリット展」 作品輸送・展示指導

オディリー・ショパン Odile Chopin
フランス語ワロン＝ブリュッセル共同体
ベルギー
3月17日、18日
「マグリット展」 作品輸送・展示指導

コーラ・ローズヴェア Cora Rosevear
ニューヨーク近代美術館 絵画彫刻部門アソシエイトキュレーター
アメリカ
3月17日、19日
「マグリット展」 作品輸送・展示指導

ガブリエラ・ディドナ Gabriela DiDonna
カーネギー美術館
アメリカ
3月17日、19日
「マグリット展」 作品輸送・展示指導

ケネス・ブランメル Kenneth Brummel
オンタリオ美術館 近代美術アシスタント・キュレーター
カナダ
3月18日、19日
「マグリット展」 作品輸送・展示指導

メリッサ・ステージェマン Melissa Stegeman
ワシントン・ナショナル・ギャラリー
アメリカ
3月18日、20日、24日
「マグリット展」 作品輸送・展示指導

メル・ブキャナン Mel Buchanan
ニューオーリンズ美術館 装飾美術・デザイン部門ローザ・メア
リー・キュレーター
アメリカ
3月19日、20日
「マグリット展」 作品輸送・展示指導

シモーネ・ルエイモン Simone Leamon
ヴィクトリア国立美術館 現代デザイン建築部門ヒュー・ウィリア
ム・キュレーター
オーストラリア
3月19日、20日
「マグリット展」 作品輸送・展示指導

ビリー・ワイズマン Billie Weisman
フレデリック R. ワイズマン美術財団 ディレクター
アメリカ
3月20日、24日
「マグリット展」 作品輸送・展示指導

ミシェル・ドラゲ Michael Draguet
ベルギー王立美術館 館長
ベルギー
3月23日～25日
「マグリット展」 監修、開会式出席、講演会登壇

平成26年度来館者 Visitors April 2014–March 2015

チョン・シアック・チン Chong Siak Ching
シンガポール国立美術館 CEO
シンガポール
4月7日
小松館長補佐、南副館長兼学芸課長表敬訪問、視察

張展鴻 CHEUNG Chin Hung
香港中文大学 教授
香港
5月22日
青木館長表敬訪問、視察

デビット・ウー David Y.H.Wu
ハワイ大学 教授
アメリカ
5月23日
青木館長表敬訪問、視察

ギィ・コジュヴァル Guy Cogeval
オルセー美術館・オランジュリー美術館 理事長
フランス
6月12日
青木館長表敬訪問、視察

イザベル・カーン Isabelle Cahn
オルセー美術館 絵画部門主任学芸員
フランス
6月12日
青木館長表敬訪問、視察

ローランス・デ・カール Laurence des Cars
オランジュリー美術館 館長
フランス
6月12日
青木館長表敬訪問、視察

パスカル・ブルリス Pascal Broulis
ヴォー州参事会参事 財務・渉外局 局長
スイス
6月14日
青木館長表敬訪問、視察

アンヌ＝カテリーヌ・リヨン Anne-Catherine Lyon
ヴォー州参事会参事 教育・青少年育成・文化局 局長
スイス
6月14日
青木館長表敬訪問、視察

ダニエル・ブレラ Daniel Brélaz
ローザンヌ市長
スイス
6月14日
青木館長表敬訪問、視察

マリナ・デュクレ Marina Ducrey
フェリックス・ヴァロトン財団 名誉学芸員
スイス
6月14日
青木館長表敬訪問、視察

カティア・ポレッティ Katia Poletti
フェリックス・ヴァロトン財団 学芸員
スイス
6月14日
青木館長表敬訪問、視察

ジャン＝クロード・ファルシオラ Jean-Claude Falcicola
エリゼ写真美術館財団 代表
スイス
6月14日
青木館長表敬訪問、視察

ベルナール・フィビシェール Bernard Fibicher
ヴォー州立美術館 館長
スイス
6月14日
青木館長表敬訪問、視察

シャンタル・プロホム Chantal Prod'hom
デザイン・現代応用美術館 (MUDAC) 館長
スイス
6月14日
青木館長表敬訪問、視察

ロバート・ベル Robert Bell
オーストラリア国立美術館 装飾芸術・デザイン部門シニア・キュレーター
オーストラリア
6月17日
「バレエ・リュス展」開会式出席

テオドル・C・ベスター Theodore C. Bestor
ハーバード大学 ライシャワー日本研究所 所長
アメリカ
7月9日、2月25日
青木館長表敬訪問、視察

ソフィー・マカリウー Sophie Makariou
フランス国立ギメ東洋美術館 館長
フランス
7月18日
青木館長表敬訪問、視察

トマ・シルデ Thomas Sirdey
ジャパンエキスポ 副代表
フランス
10月8日
青木館長表敬訪問、視察

クロード・マルティネズ Claude Martinez
クリスチャンディオール 社長
フランス
10月10日
青木館長表敬訪問、視察

フレデリック・ルコーズ Frédéric LE COZ
ルーヴル美術館 メセナ部長
フランス
10月29日
青木館長表敬訪問、視察

フランシス・ケアンクロス Frances Cairncross
オックスフォード大学 エクセター・カレッジ名誉総長
イギリス
11月21日
青木館長表敬訪問、視察

カール・ゴンブリッチ Carl Gombrich
ロンドン大学 教授
イギリス
11月21日
青木館長表敬訪問、視察

ジョヴァンナ・ダミアニ Giovanna Damiani
ヴェネツィア文化財団・美術館特別監督局 長官
イタリア
12月3日
青木館長表敬訪問、視察

ジェイ・シュウ Jay Xu
サンフランシスコ・アジア美術館 館長
アメリカ
1月19日
青木館長表敬訪問、視察

ライン・ヴォルフス Rein Wolfs
ドイツ連邦共和国美術展示館 総裁
ドイツ
2月12日
青木館長表敬訪問、視察

ジャン=リュック・マルティネス Jean-Luc Martinez
ルーヴル美術館 館長
フランス
2月20日
「ルーヴル美術館展」開会式出席

ヴァンサン・ポマレド Vincent Pomarède
ルーヴル美術館 メディエーション局長／統括文化財管理官
フランス
2月20日
「ルーヴル美術館展」開会式出席

マシュー・トリンカ Mathew Trinca
オーストラリア国立博物館 館長
オーストラリア
3月23日
青木館長表敬訪問、視察

ミシェル・ドラゲ Michel Drague
ベルギー王立美術館 館長
ベルギー
3月24日
「マグリット展」開会式出席

チャーリー・エルスコヴィッチ Charly Herscovici
マグリット財団 理事長
ベルギー
3月24日
「マグリット展」開会式出席

平成26年度海外出張 Overseas Visits April 2014-March 2015

出張者氏名
国・地域
滞在期間
目的

青木保(館長)、小松弥生(館長補佐)、室屋泰三(学芸課主任研究員)、
東谷憲(総務課会計係長)
タイ、ミャンマー
5月1日～8日
企画展「ニッポンのマンガ*アニメ*ゲーム」に関わる調査のため

青木保(館長)、和田敏雄(総務課長)
フランス
5月31日～6月10日
ICOM (INTERNATIONAL COUNCIL OF MUSEUMS) 年次総会出席、
及びICOM-ITC (INTERNATIONAL COUNCIL OF MUSEUMS Inter-
national Training Center for Museum Studies) 理事会出席のため

青木保(館長)、小松弥生(館長補佐)、鈴木俊祐(総務課総務係長)、本
橋弥生(学芸課主任研究員)
香港、ベトナム
8月25日～9月2日
企画展「ニッポンのマンガ*アニメ*ゲーム」に関わる調査のため

小松弥生(館長補佐)、本橋弥生(学芸課主任研究員)
アメリカ
12月6日～15日
企画展「ニッポンのマンガ*アニメ*ゲーム」に関わる調査のため

青木保(館長)、和田敏雄(総務課長)、室屋泰三(学芸課主任研究員)、
鈴木俊祐(総務課総務係長)、東谷憲(総務課会計係長)、本橋弥生(学
芸課主任研究員)
ミャンマー、香港
1月23日～31日
企画展「ニッポンのマンガ*アニメ*ゲーム」に関わる調査のため

青木保(館長)、小松弥生(館長補佐)、本橋弥生(学芸課主任研究員)
フランス、ドイツ
3月4日～12日
企画展「ニッポンのマンガ*アニメ*ゲーム」に関わる調査のため

※研究員の海外出張については、「7 調査・研究」に掲載した。

9-6 展覧会出品リスト List of Works

中村一美展 出品リスト

	I 空間としての絵画	12 [NK86] オレンジ・プレート 1986年 油彩／綿布 240×180cm 国立国際美術館蔵	24 [NK186] 分散一視座 IV 1990年 油彩／綿布 150.2×320.1cm 個人蔵
	Y型		
1 [NK1] 二本の樹木 1981年 油彩／カンヴァス 130×97cm 作家蔵		13 [NK88] 氷柱 1986年 油彩／綿布 400×140cm 南天子画廊蔵	25 [NK187] 破風 III 1990年 油彩／綿布 180.3×400.1cm 千葉市美術館蔵
2 [NK2] 葡萄園と桑畑による円環構造(1) 1982年 油彩／カンヴァス 116.7×91cm 作家蔵		14 [NK91] 赤石 1986年 油彩／綿布 270×140cm 個人蔵	開かれたC型
3 [NK5] 二本の桑(セザンヌの手法による) 1983年 油彩／カンヴァス 162.1×130.4cm 作家蔵		15 [NK100] 聖(ひじり) 1987年 油彩／綿布 260×540cm いわき市立美術館蔵	26 [NK59] 宗達より 1986年 油彩／綿布 218×272.5cm 作家蔵
4 [NK8] 西丹沢 1983年 油彩／カンヴァス 194×130cm 個人蔵		16 [NK103] モレーン 1987年 油彩／綿布 260×360cm 高松市美術館蔵	27 [NK62] 宗達より一ダイアゴナル 1986年 油彩、ボールペン／カンヴァス 65.2×53.1cm 作家蔵
5 [NK21] 孤島の照葉樹林 1984年 油彩／カンヴァス 194×130.3cm 作家蔵		17 [NK106] 仙丈 1987年 油彩／綿布 400×140cm 佐藤春喜氏蔵	28 [NK189] 90717 ㊸-C opened(紫烈風) 1990年 油彩／綿布 182.6×364.5cm 個人蔵
6 [NK22] 湿润気候の樹林 II 1984年 油彩／カンヴァス 194×160cm 豊田市美術館蔵		18 [NK112] 銅庵 1987年 アクリリック／綿布 250×138cm 個人蔵(足利市立美術館寄託)	29 [NK219] 9085 ㊸-C opened(テンバスト I) 1991年 油彩／綿布 190×400.3cm 作家蔵
7 [NK23] 道元 1984年 油彩／カンヴァス 260×165cm いわき市立美術館蔵		19 [NK117] 東破風 1988年 油彩／カンヴァス 199.5×340.2cm セゾン現代美術館蔵	30 [NK220] 91814 ㊸-C opened(テンバスト II) 1991年 油彩／綿布 195×411cm 東京都現代美術館蔵
8 [NK38] 北奥千丈 1985年 油彩／カンヴァス 400×138cm 作家蔵(いわき市立美術館寄託)		20 [NK119] 黒河内 1988年 油彩／綿布 260.5×110.2cm 個人蔵(群馬県立近代美術館寄託)	31 [NK240] 92316 ㊸-C opened(エシユホルツ) 1992年 油彩／綿布 200.3×420cm 作家蔵
9 [NK234] 方法を持つ者 IV 1991-92年 油彩／カンヴァス 259×182cm 東京国立近代美術館蔵		21 [NK137] 恵那 1989年 油彩／綿布 212×272.4cm 作家蔵	32 [NK258] リクライニング・ブッダ I 1992-93年 油彩／綿布 190×400cm 個人蔵(東京都現代美術館寄託)
10 [NK267] 甲斐駒(淡銀緑の樹林) 1993年 油彩／カンヴァス 260×188cm 個人蔵(東京都現代美術館寄託)		22 [NK156] 破風 1990年 油彩／綿布 170×340.2cm セゾン現代美術館蔵	II 社会意味論としての絵画
斜行グリッド			連差一破房
11 [NK81] 庵 I 1986年 アクリリック／綿布 229×181cm 栃木県立美術館蔵		23 [NK159] 分散一古礼 1990年 油彩／綿布 260×540cm 東京都現代美術館蔵	33 [NK306] 連差一樹破房 1993-94年 油彩／綿布 260.2×190cm 大原美術館蔵
[凡例] 出品番号 作家による作品番号([NK]) 作品名 制作年 素材 寸法 所蔵			34 [NK321] 連差一破房 V 1994-95年 油彩／綿布 360×600cm 作家蔵

35 [NK322] 連差一破房 VI 1995年 油彩／綿布 400×200cm 作家蔵	47 [NK411] 破庵 19 (光) 1996年 油彩、アクリリック／綿布 260×540cm セゾン現代美術館蔵	58 [NK262] Negative Forest (ストライプへの欲望) I 1993年 油彩／綿布 263×191cm セゾン現代美術館蔵	69 [NK737] 織桑鳥12 (フェニックス12) 2003-04年 アクリリック／綿布 116.1×92.2cm 個人蔵
36 [NK327] 范寛 1995年 油彩、油性ペイント／綿布 400×195cm 作家蔵	48 [NK421] 破庵 29 (奥聖) 1997年 油彩、アクリリック／綿布 260.2×570cm いわき市立美術館蔵	59 [NK263] Negative Forest (ストライプへの欲望) III 1992-93年 油彩／綿布 260×188cm 高知県立美術館蔵	70 [NK774] 傷つきし鳥の絵画 (幻のカワセミー織桑鳥43) 2003-04年 アクリリック／綿布 240.4×200.2cm 個人蔵
37 [NK328] 李唐一万壑松風図 1995年 油彩／綿布 360.2×200.2cm 作家蔵	採桑老	60 [NK425] 碧の岩棚に死を悼みて立つ者 1996-98年 油彩／綿布 260.7×190.5cm 作家蔵	71 [NK853] 織桑鳥 99 (存在を否定し去るまでもなき悲しみ) 2004年 アクリリック／綿布 270×190.8cm 作家蔵
38 [NK329] 連差一破房 VII 1995年 油彩／綿布 299.8×599.6cm 横浜美術館蔵	49 [NK438] 採桑老 I 1998年 油彩／綿布 274.4×194.3cm 作家蔵	61 [NK615] 死を悼みて濡れた紫の水瀬に立つ者 2001-02年 アクリリック／綿布 290.3×240.2cm セゾン現代美術館蔵	存在の鳥
39 [NK704] 連差一破房 XI (斜傾精神) 2002年 アクリリック／綿布 400×900cm 豊田市美術館蔵	50 [NK441] 採桑老 IV 1998年 油彩／綿布 276.4×202cm セゾン現代美術館蔵	62 [NK616] 死を悼みて冠状の磐座に座す者 2001-02年 アクリリック／綿布 290.2×240.2cm 作家蔵	72 [NK862] まだ見ぬ (者々の) 飛翔についての鳥の絵画 (存在の鳥 180) 2004-07年 アクリリック／綿布 335.6×300.9cm 作家蔵
破庵	51 [NK442] 採桑老 V 1998年 油彩／綿布 290.5×240.5cm セゾン現代美術館蔵	63 [NK637] ユガテ III (Social Semantics 11) 2002年 アクリリック／綿布 240.2×600.6cm 作家蔵	73 [NK884] 存在の鳥 V 2005年 油彩／綿布 230×194.3cm 堀内紀良氏蔵
40 [NK393] 破庵 I (桃夕) 1995-96年 油彩／綿布 260×182.4cm 作家蔵	52 [NK467] 採桑老 27 1998年 油彩／綿布 240×183cm 作家蔵	64 [NK714] 死を悼みて土紫の泥河を渡る者々 2003年 アクリリック／綿布 300.1×240.2cm 作家蔵	74 [NK914] 存在の鳥 29 (イヌワシ) 2005-08年 油彩／カンヴァス 259×194cm セゾン現代美術館蔵
41 [NK395] 破庵 III (緑八海) 1996年 油彩／綿布 260×182.3cm 作家蔵	53 [NK507] 採桑老 67 (黄瀬范の翁) 2001年 アクリリック、水彩、小石／綿布 290×250cm 個人蔵	Ⅲ 鳥としての絵画	75 [NK921] 存在の鳥 35 (紫のヴェール：カヤクグリ) 2005-09年 油彩／綿布 276.3×199cm 作家蔵
42 [NK396] 破庵 IV (巻機) 1996年 油彩／綿布 260×190cm 作家蔵	54 [NK539] 採桑老 99 1999年 アクリリック／綿布 346×301cm 作家蔵	織桑鳥	76 [NK999] 存在の鳥 107 (キジ) 2006年 アクリリック／綿布 260.1×190.8cm 東京国立近代美術館蔵
43 [NK398] 破庵 VI (易老) 1996-97年 油彩／綿布 260×194.2cm セゾン現代美術館蔵	55 [NK541] 採桑老 101 2000年 アクリリック／綿布 336.3×293.1cm 宇都宮美術館蔵	65 [NK625] 織桑鳥 I (フェニックス I) 2001-02年 アクリリック、土／綿布 260.2×200.2cm 作家蔵	77 [NK1000] 存在の鳥 108 (アカショウビン) 2006年 アクリリック／綿布 260.1×190.8cm 作家蔵
44 [NK399] 破庵 VII (イザルガ) 1996年 油彩／綿布 260×194.2cm 作家蔵	56 [NK542] 採桑老 102 2000年 アクリリック／綿布 352×301cm 個人蔵 (東京都現代美術館寄託)	66 [NK685] 織桑鳥 IV (フェニックス IV) 2002年 アクリリック、土、メッキ箔／綿布 300.1×240.2cm 作家蔵	78 [NK1081] 存在の鳥 178 (シャコンヌ) 2007-08年 油彩／カンヴァス 259×194.2cm 作家蔵
45 [NK400] 破庵 VIII (緑鉦間) 1996年 油彩、アクリリック／綿布 260×194cm 個人蔵 (東京都現代美術館寄託)	死を悼みて	67 [NK692] 織桑鳥11 (フェニックス11) 2003年 アクリリック／綿布 300.3×240.5cm 作家蔵	79 [NK1093] 存在の鳥 187 (オオルリ) 2007-08年 アクリリック／綿布 260.2×193.3cm 個人蔵
46 [NK402] 破庵 X (越百) 1996年 油彩／綿布 260.1×193.4cm セゾン現代美術館蔵	57 [NK256] 灌木と虐殺 III 1993年 油彩／綿布 251×190.2cm 作家蔵	68 [NK736] この小暗き世界に光を与える鳥の絵画 (織桑鳥30) 2003年 アクリリック／綿布 264.2×200cm ヒノギャラリー蔵	

80 [NK1122] 存在の鳥 216 (ライチョウ) 2008年 アクリリック／綿布 260×194.2cm 作家蔵	92 [NK1199] 存在の鳥 280 (クウイタダキ) 2010-13年 アクリリック／綿布 291.1×218.3cm 作家蔵	聖 104 [NK1214] 聖 I (シキン〔戸棄仏〕) 2012年 アクリリック／綿布 260.8×195.1cm 個人蔵	S2 桑畑 (櫛形町) 1976年 油彩／カンヴァス 38×45.5cm 作家蔵
81 [NK1190] 存在の鳥 274 (ヤイロチョウ) 2009-10年 アクリリック／綿布 260×196.5cm 作家蔵	93 [NK1201] 存在の鳥 282 (タゲリ) 2010-13年 アクリリック／綿布 291.1×218.3cm 作家蔵	105 [NK1216] 聖 II (ヴィシャヴァア=ブジュ〔毘舍浮仏〕) 2012年 アクリリック／綿布 259×194cm 作家蔵	S3 自画像 1977年 油彩／カンヴァス 60.8×49.8cm 作家蔵
82 [NK1195] 存在の鳥 276 (コマドリ) 2009年 アクリリック／綿布 259.8×192.8cm 作家蔵	94 [NK1202] 存在の鳥 283 (アカヒゲ) 2013年 アクリリック／綿布 291.1×218.3cm 作家蔵	106 [NK1218] 聖 III (ヴィバシン〔毘婆尸仏〕) 2012年 アクリリック／綿布 259×194cm 作家蔵	S4 立つ男 1977年 油彩／カンヴァス 72.8×60.5cm 作家蔵
83 [NK1008] 存在の鳥 116 (ゴイサギ) 2006-12年 アクリリック／綿布 400.2×200.3cm 個人蔵	95 [NK1203] 存在の鳥 284 (メボソムシクイ) 2013年 アクリリック／綿布 291.1×218.3cm 作家蔵	107 [NK1227] 聖 V (臨濟) 2012年 アクリリック／綿布 259×194cm 個人蔵	S5 2人の裸婦 1977年 油彩／カンヴァス 91.1×72.8cm 作家蔵
84 [NK1217] 存在の鳥 288 (ムラサキサギ) 2012年 アクリリック／綿布 379.5×191.6cm 作家蔵	96 [NK1258] 存在の鳥 294 (ハマヒバリ) 2013年 アクリリック／綿布 291.1×218.3cm 作家蔵	108 [NK1231] 聖 VII (ディーバン=カラ〔燃灯仏〕) 2012-13年 アクリリック／綿布 388×162.1cm 作家蔵	S6 立つ裸婦 1977年 油彩／カンヴァス 100×72.7cm 作家蔵
85 [NK1238] 存在の鳥 292 (アマサギ) 2013年 アクリリック／綿布 400×178.8cm 作家蔵	97 [NK1259] 存在の鳥 295 (コジュケイ) 2013年 アクリリック／綿布 291.1×218.3cm 作家蔵	109 [NK1234] 聖 VIII (カーシャバ〔迦葉仏〕) 2012年 アクリリック／綿布 260.3×194cm 作家蔵	S7 抽象絵画 1977年 油彩／カンヴァス 72.8×60.7cm 作家蔵
86 [NK1138] 存在の鳥 229 (オナガ) 2008-09年 アクリリック／綿布 292.1×218.1cm 作家蔵	98 [NK1261] 存在の鳥 297 (オオタカ) 2013年 アクリリック／綿布 291.1×218.3cm 作家蔵	110 [NK1253] 聖 17 (王老師) 2013年 アクリリック／綿布 258.8×193.9cm 作家蔵	S8 灰色のストロークの絵画 I 1978年 油彩／カンヴァス 91.2×72.7cm 作家蔵
87 [NK1140] 存在の鳥 231 (イフヒバリ) 2008-10年 アクリリック／綿布 292.2×218.3cm 作家蔵	99 [NK1262] 存在の鳥 298 (ハヤブサ) 2013年 アクリリック／綿布 291.1×218.3cm 作家蔵	111 [NK1254] 聖 18 (南泉) 2013年 アクリリック／綿布 258.8×193.9cm 作家蔵	S9 白色のストロークの絵画 1978年 アクリリック／カンヴァス 91.2×60.8cm 作家蔵
88 [NK1141] 存在の鳥 232 (キビタキ) 2009-10年 油彩／綿布 292.4×218.1cm 作家蔵	100 [NK1263] 存在の鳥 299 (オオアカゲラ) 2013年 アクリリック／綿布 291.1×218.3cm 作家蔵	112 [NK1267] 聖 24 (円空 I) 2013年 アクリリック／綿布 291.1×218.3cm 作家蔵	S10 灰色のストロークの絵画 II 1978年 油彩／カンヴァス 91.2×72.7cm 作家蔵
89 [NK1146] 存在の鳥 237 (チゴハヤブサ) 2009-10年 油彩／綿布 292.2×218.3cm 作家蔵	101 [NK1264] 存在の鳥 300 (アカゲラ) 2013年 アクリリック／綿布 291.1×218.3cm 作家蔵	113 [NK1268] 聖 25 (円空 II) 2013年 アクリリック／綿布 291.1×218.3cm 作家蔵	S11 自画像 (オレンジの背景) 1978年 油彩／カンヴァス 72.8×60.8cm 作家蔵
90 [NK1148] 存在の鳥 239 (ルリビタキ) 2008-09年 アクリリック／綿布 292.2×218cm 宇都宮美術館蔵	102 [NK1265] 存在の鳥 301 (カンムリワシ) 2013年 アクリリック／綿布 291.1×218.3cm 作家蔵	初期作品 S1 鶏 1968年 木版 54.6×39.6cm 作家蔵	S12 皮膜絵画 (再制作) 1978/2012年 モデリングベースト、ジェル・メディウム／カンヴァス 144.4×164.6cm 作家蔵
91 [NK1198] 存在の鳥 279 (ヤンバルクイナ) 2010-13年 アクリリック／綿布 291.1×218.3cm 作家蔵	103 [NK1266] 存在の鳥 302 (カワセミ) 2013年 アクリリック／綿布 291.1×197.1cm 作家蔵	S13 KAIKOMA I 1979年 杉板、アクリリック、モデリングベースト、ジェッソ、金具 234×45.5×56cm 作家蔵	

S14 薄紫色の絵画 1980年 油彩、アクリリック／カンヴァス 91×92.7cm 作家蔵	S26 甲斐駒 (S) 1981年 インク／綿布 34.3×29.1cm 作家蔵	S38 ドローイング(斜行線とY型のオーヴァー ラップ) 1983年 インク／紙 21.2×24.2cm 作家蔵
S15 無題 (A) 1980年頃 インク／綿布 14.3×27.5cm 作家蔵	S27 甲斐駒 (F) 1981年 インク／綿布 28.4×22cm 作家蔵	S39 ドローイング(商山四皓図) 1986年 アクリリック／木炭紙 65.9×49.9cm 作家蔵
S16 無題 (C) 1980年頃 インク／綿布 18×35cm 作家蔵	S28 甲斐駒 (B) 1981年 インク／綿布 21.3×15.8cm 作家蔵	S40 ドローイング(示差性の桑) 1986年 アクリリック／木炭紙 49.9×33cm 作家蔵
S17 浦上玉堂へ I 1980年 油彩／カンヴァス 36.3×16.1cm 作家蔵	S29 絵画 No.10 1981年 油彩／カンヴァス 190×117cm 作家蔵	S41 ドローイング(言語と地学) 1987年 アクリリック／木炭紙 42.7×35.1cm 作家蔵
S18 浦上玉堂へ II 1980年 油彩／カンヴァス 45.3×20.9cm 作家蔵	S30 ドローイング(二本の樹木のための) 1981年 インク／紙 34.9×25cm 作家蔵	S42 ドローイング(破風 I) 1990年 油彩／木炭紙 50×65.9cm 作家蔵
S19 甲斐駒 I (再制作) 1980/2002-13年 油彩、インク、色鉛筆／カンヴァス 189.7×102.3cm 作家蔵	S31 ドローイング(葡萄園と桑による円 環構造) 1982年 鉛筆、色鉛筆／紙 (スケッチブック) 38×46cm 作家蔵	S43 ドローイング(破風 II) 1990年 油彩／木炭紙 46×61.1cm 作家蔵
S20 甲斐駒 II (再制作) 1980/2002-13年 油彩、インク、色鉛筆／カンヴァス 189.8×102.5cm 作家蔵	S32 立ち重なる叢林 1982年 木炭／紙 199×70cm いわき市立美術館蔵	S44 藤野町破庵 模型 1995年 木材 21.1×26×32.2cm 作家蔵
S21 甲斐駒 III (再制作) 1980/2002-13年 油彩、インク、色鉛筆／カンヴァス 189.2×101.8cm 作家蔵	S33 葡萄園と桑による円環構造 1982年 木炭／紙 199×70cm いわき市立美術館蔵	
S22 葡萄園と桑 (N) 1981年 インク／綿布 40.3×28cm 作家蔵	S34 ドローイング(桑の木) 1982年 鉛筆／紙 35.7×26.8cm 作家蔵	
S23 葡萄園と桑 (L) 1981年 インク／綿布 27.4×38.5cm 作家蔵	S35 スケッチ(葡萄園) 1982年 鉛筆／紙 (スケッチブック) 35.7×26.8cm 作家蔵	
S24 葡萄園と桑 (A) 1981年 インク、アクリリック／綿布 28×47.7cm 作家蔵	S36 ドローイング(商山四皓図) 1983年 鉛筆／紙 21.2×24.2cm 作家蔵	
S25 甲斐駒 (I) 1981年 インク／綿布 35.2×20.5cm 作家蔵	S37 ドローイング (Semantics Pattern) 1983年 インク／紙 21.2×24.2cm 作家蔵	

魅惑のコスチューム:
バレエ・リュス展
出品リスト

<p>I 章</p> <p>1《アルミードの館》 1909年5月19日</p> <p>アレクサンドル・ブノワ イワン・カフィ</p> <p>1. 1. 「時の精」の衣裳 1909年頃 ジャケット:コットン、金属布、メタル・ブレード、ペイント、ゼラチン、木、リネン チュニック:コットン、シルク、ラメ、金属糸、ペイント、メタリック・フリンジ、金属製スパンゲル、ゼラチン製スパンゲル ジャケット:76.4cm チュニック:87.0cm</p> <p>1. 2. 「廷臣」の衣裳 1909年頃 チュニック:サテン、レーヨン、コットン・レース、ラメ、メタリック・フリンジ、メタル・ブレード、メタリック・リボン、ボーン ジャケット:レーヨン、コットン、メタリック・リボン、ウール ジャケット:94.0cm チュニック:88.0cm</p> <p>1. 3. 「楽師」の衣裳(ジャケット) 1909年頃 コットン、ウール、ペイント、リネン、模造石(木、ベルベット、メタル・ブレード、メタリック・スパンゲル、メタリック・フリンジ) 105.0cm</p> <p>1. 4. 「ハーブ奏者」の衣裳(マント) 1909年頃 コットン、ペイント、木、金属糸 182.0cm</p> <p>2《イーゴリ公》より《ボロヴェツ人の踊り》 1909年5月19日</p> <p>ニコラス・レーリヒ</p> <p>2. 1. 「ボロヴェツ人の戦士」の衣裳 1909年頃 ジャケット:シルク・イカット、レーヨン、真鍮製ファスナー、コットン、ペイント ズボン:コットン・イカット、ニッケルめっきした真鍮製ファスナー キャップ:コットン・イカット ベルト:シルク・イカット、コットン・イカット、金属製ファスナー ジャケット:85.4cm ズボン:85.0cm(股下)、80.0cm(ウエスト) キャップ:57.0cm(外周) ベルト:81.5cm(長さ)</p> <p>2. 2. 「ボロヴェツ人の少女」の衣裳 1909年頃-37年 ジャケット:ウール・ブレード、リネン、毛、ペイント、金属製ファスナー ブラウス:コットン、金属糸 ズボン:コットン、リネン、貝、プラスチック ボンネット:コットン、メタリック・ワイヤー、ペイント、陶製ボタン、リネン、ゴム ジャケット:99.0cm ブラウス:54.0cm(肩から裾まで) ズボン:47.0cm(ウエスト幅)、60.6cm(股下) ボンネット:56.4cm(外周)</p> <p>2. 3. 「ボロヴェツの王子」の帽子 1909年頃 ウール・ツイール 66.0cm(外周)</p>	<p>3《クレオパトラ》 1909年6月2日/再演:1918年9月5日</p> <p>レオン・バクスト</p> <p>3. 1. 「シリア人女性」の衣裳 スカート 1909年/ボディス 1930年代 コットン、シルク、金属製飾り簾、ペイント 110.0cm、43.0cm(脇丈)、33.0cm(ウエスト幅)</p> <p>3. 2. 「ギリシア人」の衣裳 1909年頃 チュニック:シルク、シルクのアップリケ、レーヨン、ラメ、メタル・ブレード、金属製ステイ タイツ:シルク・ジャージー、ペイント チュニック:91.6cm タイツ:83.0cm(股下)</p> <p>3. 3. 「ギリシア人」の衣裳 1909年 シルク、ラメ、メタル・ブレード 96.0cm、68.0cm(脇丈)</p> <p>3. 4. 「ユダヤ人」の衣裳 1909-20年代 ジャケット:コットン、ペイント、メタリック・フリンジ、メタル・ブレード 胸衣:シルク、ペイント、メタリック・フリンジ、コットン裏地 ジャケット:81.0cm、9.0cm(フリンジ)、60.0cm(脇丈) 胸衣:77.0cm、10.0cm(フリンジ)、57.0cm(脇丈)</p> <p>3. 5. 「奴隷」あるいは「踊り子」の衣裳 1918-36年頃 ドレス:シルク・ファイユ、シルク・シフォン、レーヨン、メタル・ブレード、ステンシル・ペイント、金属製ファスナー 襟:メタル・ブレード、コットン・ブレード、ペイント、金属製ファスナー ドレス:115.0cm、40.0cm(脇丈) 襟:37.0cm(首周り)</p> <p>ソニア・ドロネー</p> <p>3. 6. 「アムーン」の衣裳 1918-30年代 胸あての紐:ベルベティーン、アセテート、リネン、メタル・ブレード スカート:コットン、アセテート、革、ベルベット、シルク、メタル・ブレード 胸あての紐:43.0cm(チェスト) スカート:33.0cm(ウエスト幅)、30.0cm(長さ)</p> <p>3. 7. 「奴隷」あるいは「踊り子」の衣裳 1918-36年 ドレス:ウール、レーヨン、コットン、ラメ、金属糸、メタリック・リボン、メタル・ブレード 襟:レーヨン、コットン、金属糸、金属製ファスナー ドレス:94.6cm 襟:64.0cm(長さ)、34.0cm(首周り)</p> <p>レオン・バクスト レオン・バクストのアトリエ</p> <p>3. 8. 「奴隷」または「踊り子」の衣裳のためのデザイン画 1910年頃 水彩、ペイント、鉛筆/カード 30.6×20.6cm</p>	<p>3. 9. 「アムーン」の衣裳のためのデザイン画 1910年頃 水彩、グアッシュ、ペイント、鉛筆/カード 30.4×21.0cm</p> <p>4《カルナヴァル》 1910年2月20日</p> <p>レオン・バクスト モリス・エンジェル&サン社</p> <p>4. 1. 「貴婦人」の衣裳 1920年頃 ドレス:アセテート、レーヨン、コットン、金属製ボーン、ペイント ショール:化繊 ドレス:107.0cm(センター・フロント)、34.0cm(脇丈)、30.0cm(内袖)、38.0cm(外袖) ショール:38.0cm</p> <p>4. 2. 「キアリーナ」の衣裳 1910年頃 ボディス:アセテート、シルク・クレープ、シルク・レース、レーヨン・レース、造花 スカート:タフタ、コットンの房飾り ボディス:23.0cm スカート:97.0cm(ウエスト)</p> <p>4. 3. 「ピエロ」の衣裳 1910年頃 ジャケットとズボン:ウール・ツイール、アセテートのボタン、プラスチック製ボタン、金属製留め金、コットン裏地 フリル(レプリカ):コットン・オーガンジー ジャケット:72.0cm ズボン:74.0cm</p> <p>4. 4. 「コロンビーヌ」の衣裳(ドレス) 1942年頃 アセテート、コットン裏地、金属製ボーン、金属製ファスナー、ペイント 100.0cm(センター・フロント)、34.0cm(脇丈)</p>	<p>5《シェエラザード》 1910年6月4日</p> <p>レオン・バクスト マリー・ミュール</p> <p>5. 1. 「宦官長」の衣裳 1910年頃 ジャケット:シルク、メタル・ブレード、レーヨン、コットン ズボン:シルク、シルクのアップリケ、コットン 腰帯:レーヨン、シルク、コットン、メタリック・ペイント オーバースカート:シルクのアップリケ、アセテート、メタル・ブレード、ペイント、コットン 帽子:レーヨン、シルク、メタル・ブレードと飾り、羽飾り、模造石、詰め綿、コルク、簾、新聞 鍵:木、メタリック・ペイント、ペイント ジャケット:46.0cm ズボン:74.0cm(股下)、39.0cm(股上) 腰帯:124.0×32.0cm オーバースカート:62.0cm 帽子:35.0cm(高さ)、64.0cm(外周) 鍵:56.0×20.0cm</p>
---	--	---	--

[凡例]
演目名
初演日

デザイナー名
製作者名

作品番号
作品名
制作年
素材/技法
寸法
所蔵

*所蔵先について表記のないものは、すべてオーストラリア国立美術館の所蔵作品である。
*衣裳製作者については、判明している場合に限り、デザイナー名の下にその名前を細字で記した。
*衣裳の製作年については、使用時と修正時がある場合、その両方を示した。
*バレエ・リュスの関連写真、ポスター、プログラム、雑誌等は各章の最後にまとめた。
*衣裳の寸法は、記載のない場合、主要部分の「センター・バック・レングス」(背面中央の長さ)を示している。それ以外の部分については、()で詳細を示した。

<p>5. 2. 「使用人」の衣装 1910-35年 ジャケット：コットン、金属糸、メタリック・ペイント、ペイント ズボン：コットン、メタリック・ペイント、ゴム ベルト：コットン、金属糸 チュニック：コットン、メタリック・ペイント、メタル・ブレード ジャケット：38.0cm ズボン：77.0cm（股下） ベルト：198.0×19.0cm チュニック：125.0cm、55.0cm（肩幅）、49.0cm（内袖）</p>	<p>6. 2. 「狩猟隊」の衣装（第一幕） 1910年頃 ダブルット：ウール、ベルベティーン、コットン裏地、シルク・リボン 短ズボン：ウール、コットン裏地 ダブルット：36.0cm（脇丈）、65.0cm（外袖）、44.0cm（内袖） 短ズボン：42.0cm（ウエスト幅）、45.0cm（丈）、15.0cm（股下）</p>	<p>8《ナルシス》 1911年4月26日</p> <p>レオン・バクスト</p> <p>8. 1. 「若いボーイオティア人」の衣装 1911年頃 ウール、木、メタル・ブレード 74.0cm</p> <p>8. 2. 「ボーイオティア人少女」の衣装（ドレス） 1911年頃 ウール、コットン、金属製ボタン、ゴム 140.0cm、90.0cm（ウエストから裾まで）</p> <p>8. 3. 「エコー」の衣装（マント） 1911年頃 ウール、銅色の粉によるペイント 213.0×317.0cm</p>	<p>10《青神》 1912年5月13日</p> <p>レオン・バクスト M・ランドフ マリー・ミュール</p> <p>10. 1. 「青神」の衣装 1912年頃 チュニック：シルク、モワレ・ファイユ、サテン、ベルベット・リボン、ベルベット・ブレード、ベルベットの刺繍糸、レーヨン、金属の入った刺繍糸、メタリック・リボン、金属製飾り鉾、金属製ファスナー、ゼラチン製スパンゲル 冠：金属布、メタル・ブレード、メタル・スパンゲル、シルクの刺繍糸、ゼラチン製スパンゲル、金属製飾り鉾、メタリック・ペイント、ペイント チュニック：76.6cm 冠：50.0cm（センター・バック）、48.0cm（ヘッドサイズ）</p> <p>10. 2. 「生贄を運ぶ人」の衣装のためのデザイン画 1911年 グアッシュ、鉛筆、ペイント／紙 28.4×23.0cm</p> <p>10. 3. 「青神」の衣装のイラスト 制作年不詳 オフセット・リトグラフ、ライン・ブロック、凸版印刷 31.8×24.4cm 『バレエ・リュス 公式プログラム』シャトレ座 1912年5月-6月 p.29</p>
<p>5. 3. 「踊り子」あるいは「オダリスク」の衣装 1910年頃 ズボン型のワンピース：レーヨン、シルク、メタリック・ペイント、ペイント、メタル・ブレード、レーヨン・ブレード、ゼラチン製スパンゲル、ガラス・ビーズ、金属製ファスナー 頭飾り：シルク、メタル・ブレード、ワイヤーズボン型のワンピース：71.0cm（首から股上まで）、65.0cm（股下） 頭飾り：65.0cm（外周）、100.0cm（長さ）</p>	<p>7《火の鳥》 1910年6月25日／再演：1926年11月25日</p> <p>アレクサンドル・ゴロヴィン レオン・バクスト</p> <p>7. 1. 「不死身のカスチエイの従者」の衣装 1910年 ローブ：ステンシルで模様を刷ったコットン、金属糸紋織りリボン、メタリック・フリンジ、ラメ、レーヨン、ペイント、金属製ファスナー、スカートの張り骨 ベルト：ステンシルで模様を刷ったコットン、レーヨン、ペイント、金属製ファスナー ローブ：130.0cm ベルト：89.0cm（ウエスト）</p>	<p>9《ペトルーシュカ》 1911年6月13日</p> <p>アレクサンドル・ブノワ イワン・カフィ ヴォロビエ</p> <p>9. 1. 「ペトルーシュカ」の衣装 1911年頃 チュニック：サテン、コットン、コットン・レース、金属製ファスナー ズボン：サテン、レーヨン・パッチ、プラスチック製ボタン ブーツ：シルク、鳩目金、コットン、革 チュニック：77.0cm ズボン：37.0cm（ウエスト幅）、59.4cm（股下） ブーツ：19.0cm（高さ）、26.0cm（サイズ）、0.4cm（ヒール）</p>	<p>11《タマール》 1912年5月20日</p> <p>レオン・バクスト マリー・ミュール</p> <p>11. 1. 「女王タマール」の衣装 1912年頃 ドレス：アセテート、シルク、レーヨン、コットン、メタル・ブレード、ラメ、金属製メダル、ゴム オーバースカート：シルク、レーヨン、コットン、ラメ、メタル・ブレード、金属製バックル、模造石 短胴衣：シルク、ラメ、メタル・ブレード、金属製メダル 冠：アセテート、コットン、ラメ、メタル・ブレード、金属製メダル、模造石、ワイヤール ヴェール：シルク、ペイント スカーフ：シルク ドレス：102.0cm オーバースカート：60.0cm 短胴衣：15.4cm 冠：23.0cm（センター・フロント） ヴェール：216.0×98.0cm スカーフ：210.0×106.0cm</p>
<p>5. 4. 「踊り子」あるいは「オダリスク」の衣装 1915年頃-30年代 コットン、メタル・ブレード、レーヨン、ラメ、金属製ファスナー 46.0cm（後身頃）、67.0cm（股下）</p>	<p>7. 2. 「女性ダンサー」の衣装 1910年頃 コットン、シルク、ウール、メタリック・ペイント、ペイント 136.0cm</p>	<p>9. 2. 「商人」の衣装のためのデザイン画 1920年頃 水彩、ペン、インク、鉛筆／紙 32.0×21.2cm</p>	<p>11. 2. 「女王タマールの友人」の衣装 1912年頃 ドレス：シルク、シルクとコットンの裏地、セルロース・ジアセテート、ペイント、ヴィスコース・レーヨン、シルク・リボン、メタル・ブレード、金属の押型模様 帽子：コットン、シルク／コットン・サテン、メタル・ブレード ドレス：105.0cm 帽子：9.0cm（高さ）</p>
<p>5. 5. 「シャリアル王」の衣装 1910-30年代 コート：ベルベット、シルクのアップリケ、ラメ、メタル・ブレード、着色された木製ビーズ、レーヨン・サテン ズボン：レーヨン・サテン 帽子：ベルベット、レーヨン、模造石 コート：107.0cm ズボン：72.0cm（股下） 帽子：64.0cm（外周）</p>	<p>7. 3. 「カスチエイの側近」のドレス ボディス 1910年頃／スカート 1926年頃 レーヨン、化繊、メタリック・レース、コットン、ゼラチン製スパンゲル、ガラス・ビーズ、模造石、ペイント 99.0cm、34.0cm（脇丈）、58.0cm（外袖）、47.0cm（内袖）</p>	<p>9. 3. 「農婦」の衣装のためのデザイン画 1920年頃 水彩、ペン、インク、鉛筆／紙 31.6×23.0cm</p>	
<p>5. 6. 「シャー・ゼーマン」の衣装 1910-30年代 コート：絹織物、サテン、刺繍、ラメ、メタル・ブレード、コットン裏地 ズボン：サテン、メタル・ブレード、コットン裏地 コート：118.0cm ズボン：72.0cm（股下）</p>	<p>7. 4. 「女性ダンサー」の衣装 1910年頃／1934年頃（修正） ステンシルで模様を刷ったコットン、コットン・コーデュロイのアップリケ、メタル・ブレード、コットン・ブレード、ラメ、メタリック・ペイント、ペイント、ウール、シルク 129.0cm</p>	<p>9. 4. 「豚のマスクをかぶった騒ぐ人」の衣装のためのデザイン画 1920年頃 水彩、ペン、インク、鉛筆／紙 31.0×23.6cm</p>	
<p>5. 7. 「シャー・ゼーマン」の衣装のためのデザイン画 1910年 グアッシュ、鉛筆、水彩、ペイント／ワニス紙 37.0×22.2cm</p>	<p>7. 5. 「王女」の衣装 1910年頃／1934年頃（修正） ウール・ツイール、シルク、レーヨン、メタル・ブレード、メタリック・ペイント、ペイント、コットンとウールの裏地 104.0cm、51.0cm（脇丈）、53.0cm（内袖）、71.0cm（外袖）</p>	<p>9. 5. 「悪魔」の衣装のためのデザイン画 1920年頃 水彩、筆、インク、ペン、鉛筆／紙 31.8×21.4cm</p>	
<p>5. 8. 「オダリスク」の衣装のためのデザイン画 1910年 グアッシュ、鉛筆、ペイント／厚紙 29.0×19.4cm</p>	<p>ナタリヤ・ゴンチャロワ ヴェラ・ステイキナ</p>	<p>9. 6. ムーア人の部屋のためのセット・デザイン（第三場） 1920年代頃 水彩、ペン、インク、グアッシュ／紙 14.2×21.8cm</p>	
<p>6《ジゼル》 1910年6月17日</p> <p>アレクサンドル・ブノワ</p>	<p>7. 6. 「フィナーレ」の衣装 1926年頃 チュニック：ウール・ツイール、コットンのアップリケ、コットン裏地、メタル・ブレード、メタリック・ペイント、ペイント、着色された木製ビーズ ズボン：コットン、ゴム、金属製ファスナー チュニック：120.0cm、122.0cm（センター・フロント）、58.0cm（内袖）、72.0cm（外袖） ズボン：28.0cm（ウエスト幅）、68.0cm（股下）、96.0cm（丈）</p>	<p>9. 7. プロセニアム・アーチのデザイン（第一場） 1911年以降 水彩、鉛筆、ペン、インク、グアッシュ／紙 30.8×47.6cm</p>	
<p>6. 1. 「アルブレヒト」の衣装（短ズボン） 1910年頃 タフタ、ベルベット 44.0cm（ウエスト幅）、18.0cm（股下）、48.0cm（丈）</p>			

11. 3. 「レスギン人」の衣裳 1912年頃 コート：シルク、アセテート、レーヨン、 メタル・ブレード、コットン ズボン：シルク、メタル・ブレード、コッ トン、ペイント ベルト：シルク、メタル・ブレード、コッ トン、革、ガラス、金属 帽子：シルク、ウール、メタル・ブレード、 コットン、ゴム コート：97.0cm ズボン：42.0cm（ウエスト幅）、127.0cm ベルト：97.0cm 帽子：57.0cm（ヘッドサイズ）	13. 5. 「海賊」の衣裳（マント） 1912年頃 コットン、ウール、ペイント 88.4cm 関連写真、ポスター、プログラム、雑誌 オーギュスト・ベール（写真家） ザ・ファイン・アーツ・ソサエティー・ロ ンドン（出版社） I. ①. 《シェラザード》—ニジンスキー 1910年 ロートグラビア印刷 20.4×14.0cm 『ロシア・バレエ写真集』より図版15 I. ②. 《薔薇の精》—ニジンスキー 1913年 ロートグラビア印刷 20.4×13.6cm 『ロシア・バレエ写真集』より図版8 ジャン・コクトー I. ③. ワツラフ・ニジンスキー《薔薇の精》上演 ポスター 1911年 平版 197.2×123.0cm I. ④. 《薔薇の精》上演ポスター 1911年 リトグラフ 197.0×115.4cm サントリーポスターコレクション（大阪 新美術館建設準備室寄託） エイドリアン・フェイント I. ⑤. 無題【《カルナヴァル》の「エストレッラ」】 制作年不詳 インク、ペン、筆、鉛筆／カード 26.8×12.9cm I. ⑥. 無題【赤いつば広帽子をかぶり、ロング・ トレーンをまとったバレリーナ】 制作年不詳 インク、ペン、淡彩、鉛筆／カード 26.0×12.8cm I. ⑦. 無題【《蝶々》のヴァネッサ・インベリアル】 制作年不詳 インク、ペン、淡彩、鉛筆／カード 28.4×13.6cm I. ⑧. 無題【《ジゼル》の「アルプレヒト」】 制作年不詳 インク、ペン、淡彩、鉛筆／カード 26.7×12.7cm I. ⑨. 無題【《金鶏》の「シマハンの女王」】 制作年不詳 インク、ペン、淡彩、グアッシュ、鉛筆／ カード 26.6×11.1cm I. ⑩. 無題【《火の鳥》の「火の鳥」】 制作年不詳 インク、ペン、淡彩、鉛筆／カード 24.1×10.0cm	E・O・ホッペ（写真家） ザ・ファイン・アーツ・ソサエティー・ロ ンドン（出版社） I. ⑪. 《クレオパトラ》—フョードロフ 1913年 ロートグラビア印刷 20.4×14.4cm 『ロシア・バレエ写真集』より図版14 I. ⑫. 《カルナヴァル》—アドルフ・ボルム 1913年 ロートグラビア印刷 20.4×14.6cm 『ロシア・バレエ写真集』より図版11 I. ⑬. 《アルミードの館》—タマラ・カルサヴィナ 1909年 ロートグラビア印刷 20.4×15.2cm 『ロシア・バレエ写真集』より図版10 I. ⑭. 《アルミードの館》—タマラ・カルサヴィ ナとアドルフ・ボルム 1909年 ロートグラビア印刷 20.4×15.0cm 『ロシア・バレエ写真集』より図版9 I. ⑮. 《薔薇の精》—タマラ・カルサヴィナ 1913年 ロートグラビア印刷 20.4×14.6cm 『ロシア・バレエ写真集』より図版7 I. ⑯. 《火の鳥》—タマラ・カルサヴィナとアド ルフ・ボルム 1913年 ロートグラビア印刷 20.4×15.4cm 『ロシア・バレエ写真集』より図版3 I. ⑰. 《火の鳥》—タマラ・カルサヴィナ 1913年 ロートグラビア印刷 20.6×11.4cm 『ロシア・バレエ写真集』より図版2 I. ⑱. 《火の鳥》—タマラ・カルサヴィナ 1913年 ロートグラビア印刷 18.4×15.4cm 『ロシア・バレエ写真集』より図版1 I. ⑲. 《火の鳥》—アドルフ・ボルム 1913年 ロートグラビア印刷 20.4×15.4cm 『ロシア・バレエ写真集』より図版4 I. ⑳. 《イーゴリ公》—フョードロフ 1913年 ロートグラビア印刷 20.4×15.4cm 『ロシア・バレエ写真集』より図版12 I. ㉑. 《イーゴリ公》—アドルフ・ボルム 1913年 ロートグラビア印刷 20.4×15.2cm 『ロシア・バレエ写真集』より図版13	I. ㉒. 《タマール》—タマラ・カルサヴィナとア ドルフ・ボルム 1913年 ロートグラビア印刷 20.4×15.4cm 『ロシア・バレエ写真集』より図版6 I. ㉓. 《タマール》—アドルフ・ボルム 1913年 ロートグラビア印刷 20.4×15.4cm 『ロシア・バレエ写真集』より図版5 ジョルジュ・ルバブ I. ㉔. ベルシャ人の衣裳 1912年 リトグラフの支持体に孔版、グアッシュ ／紙 20.5×13.5cm 『モード・エ・マニエール・ドージュードウ イ』Vol.1、1912年より図版11 I. ㉕. クッション 1912年 リトグラフの支持体に孔版、グアッシュ ／紙 20.5×13.5cm 『モード・エ・マニエール・ドージュードウ イ』Vol.1、1912年より図版5 ダリル・リンゼイ I. ㉖. イーゴリ公 1937年 鉛筆／紙 36.8×23.2cm ヘルマン・ライザー（出版社） I. ㉗. 《クレオパトラ》の衣裳を着たニジンス キーとカルサヴィナのポストカード 1910年頃 コロタイプ 13.7×8.7cm エリオット & フライ ドゥヴァー・ストリート・スタジオ I. ㉘. 「ペトルーシュカ」のニジンスキー 1913年頃 ゼラチン・シルバー・プリント 14.8×11.2cm I. ㉙. ワツラフ・ニジンスキーの肖像 1913年頃 ゼラチン・シルバー・プリント 14.4×10.7cm レオン・バクスト（表紙デザイン） コメディ・アイリュストレ（編集） I. ㉚. 『バレエ・リュス 公式プログラム』（『コ メディ・アイリュストレ』別冊 1910年 6月15日） オフセット・リトグラフ 31.8×24.5cm I. ㉛. 『バレエ・リュス 公式プログラム』パリ・ オペラ座 1910年6月 オフセット・リトグラフ、凸版印刷 32.1×24.9cm
---	--	--	--

レオン・バクスト(表紙デザイン)

I. ㉔.
『バレエ・リュス 公式プログラム』シャ
トレ座 1911年6月
オフセット・リトグラフ、ライン・ブロック
34.4×26.2cm

レオン・バクスト(表紙デザイン)
コメディア・イリュストレ(編集)

I. ㉕.
『バレエ・リュス 公式プログラム』シャ
トレ座 1912年5月-6月
オフセット・リトグラフ、ライン・ブロッ
ク、凸版印刷
31.8×24.4cm

レオン・バクスト(表紙デザイン)
コメディア・イリュストレ(出版)

I. ㉖.
『コメディア・イリュストレ』特別号
(No.16、1912年5月15日)
オフセット・リトグラフ
31.6×24.6cm

ヴァランティヌ・グロス(表紙デザイン)

I. ㉗.
『バレエ・リュス 公式プログラム』(第8
ロシア・シーズン) シャンゼリゼ劇場、パ
リ、1913年
オフセット・リトグラフ
31.5×24.0cm
オーストラリア国立美術館研究図書館

レオン・バクスト(表紙デザイン)
コメディア・イリュストレ(編集)

I. ㉘.
『バレエ・リュス 公式プログラム』(第9
シーズン) 1914年5月-6月
オフセット・リトグラフ、ライン・ブロック
31.6×24.6cm

レオン・バクスト

I. ㉙.
『ディオーヌ』のためのデザイン画
1913年
孔版/紙
17.0×9.0cm
『ジュルナル・デ・ダム・エ・デ・モード』
No.34、1913年より図版73

II 章

14《蝶々》
1914年4月16日

レオン・バクスト

14. 1.
『貴婦人』の衣裳(マント)
1914年頃
シルク、コットン・トリム、金属製ファス
ナー
97.0cm

15《金鶏》
1914年5月24日/再演:1937年9月23日

ナタリヤ・ゴンチャロフ
バルバラ・カリンスカ

15. 1.
『ドドン王』の衣裳
1937年
ローブ:ベルベティーン、シルク・グロ
グラン、ウール、ラメ、メタル・ブレード
マント:ベルベティーン、シルク、ラメ、
レーヨン、アセテート、メタル・ブレード、
コットン裏地、白貂の尻尾
ローブ:143.0cm
マント:145.0cm

15. 2.
『ドドン王の女性従者』の衣裳
1937年頃
ブラウス:リネン
エプロン、ボディ:コットン、ウール、
コットン・レース、ウールのブレード
ブラウス:48.0cm
エプロン:114.0cm
ボディ:37.0×48.0cm

15. 3.
『ドドン王の子守女』の衣裳
1937年頃
ブラウス:コットン
スカート:コットン、ウール、金属、リネン
ブラウス:53.0cm
スカート:80.0cm

15. 4.
『農婦』の衣裳
1937年頃
ドレス、ブラウス:コットン、ウール、金
属製ファスナー、リネン、ペイント
ドレス:124.0cm
ブラウス:48.0cm

15. 5.
『シマハンの女王に仕えるオリエンタ
ル・ダンサー』の衣裳
1937年頃
アセテート・タフタ、コットン、フェルト、
ペイント、ブレード、金属製ファスナー
160.0cm

15. 6.
『農婦』の衣裳のためのデザイン画
1914年
グアッシュ、鉛筆/厚紙
37.8×26.8cm

15. 7.
『農婦』の衣裳のためのデザイン画(後)
1914年頃
グアッシュ、鉛筆/紙
25.2×8.2cm

15. 8.
『農婦』の衣裳のためのデザイン画(前)
1914年頃
グアッシュ、鉛筆/紙
25.4×8.2cm

16《サドコ》
1916年10月9日

ナタリヤ・ゴンチャロフ

16. 1.
『タツノオトシゴ』の衣裳
1916年頃
頭飾り、ブラウス、ケープ:シルク=コッ
トンのサテン、ラメ、ペイント、ワイヤー、
詰め物
ズボン:シルク=コットンのサテン、ペ
イント
頭飾り:83.0×25.0cm、60.0cm(ヘッドサ
イズ)
ブラウス:59.8cm
ケープ:166.0cm(長さ)
ズボン:78.0cm(股下)

16. 2.
『魚』の衣裳(かぶり物)
1916年頃
シルク、コットン、ラメ、ワイヤー、ペイ
ント、ゼラチン製スバングル
60.0cm(高さ)

16. 3.
『イカ』の衣裳
1916年頃
シルク、ラメ、ワイヤー、ペイント
117.0cm

17《奇妙な店》
1919年6月5日

アンドレ・ドラン

17. 1.
『白いブードル』の衣裳
1919年頃
ボディ・スーツ、鼻、手袋:ウールの
ファー、ワイヤーの支持体、コットン・
ジャージー、ゴム、ペイント、麻、モヘア、
リノリウム(鼻)
ボディ・スーツ:170.0cm
鼻:17.0cm(長さ)
手袋:21.0cm

17. 2.
『茶色いブードル』の衣裳
1919年頃
ボディ・スーツ:コットン・ジャージー、
モヘア、アンゴラ、ワイヤーの支持体(尻
尾)、真鍮製ファスナー、ゴム、染料、ペイ
ント
手袋:コットン、モヘア
ボディ・スーツ:65.0cm(首から股上まで)
手袋:21.0cm

17. 3.
『カンカン・ダンサー』の衣裳のためのデ
ザイン画
1919年頃
水彩、ペン、インク、鉛筆/紙
31.6×24.8cm

18《ナイチンゲールの歌》
1920年2月2日

アンリ・マティス
マリー・ミュール

18. 1.
『官吏』の衣裳
1920年頃
シルク、コットン、ラメ、インク、ベーク
ライト
114.0cm

18. 2.
『宮女』の衣裳
1920年頃
サテン、ベルベット、コットンの詰め物、
コットン裏地、ラメ、金属製ファスナー
88.0cm

18. 3.
『嘆く人』の衣裳
1920年頃
ローブ、頭飾り:コットン=ウールのフェ
ルト、コットン=シルクのベルベット、
同じサイズに切ったコットン、スチール・
ワイヤー、コットン裏地
166.5cm(頭飾りから裾まで)

18. 4.
『高官』の衣裳(ローブ)
1920年頃
サテン、シルク・リボン、ラメのアップリ
ケ、コットン、ペイント
138.0cm

18. 5.
『廷臣』の衣裳(帽子)
1920年
ウール・フェルト、ワイヤー、ペイント
28.0cm(幅)

19《女の手管(チマロジアーナ)》
1924年1月8日(1924年4月24日)

ジョゼ=マリア・セール
マリー・ミュール

19. 1.
『ロムアルド博士』の衣裳
1920-24年
ジャケット:シルク、コットン、メタル・
ブレード、金属製ファスナー、ペイント
短ズボン:コットン、ペイント
ジャケット:112.0cm
短ズボン:49.0cm(ウエスト幅)、50.0cm
(股下)

19. 2.
ローネット
1920-24年
木、ペイント、金属、シルク、セラック
22.0(高さ)×17.0(幅)cm

19. 3.
帽子
1920-24年
ベルベット、コットン・ベルベット、レー
ヨン、金属糸、コットン、毛のフェルト、
紙、しつけ繊維
65.0cm(外周)

19. 4.
帽子
1920-24年
シルク、コットン、金属、木、ワックス、
ペイント、羽飾り、スターチ
52.0cm(ヘッドサイズ)

19. 5.
『ジャンバオロ』の衣裳(シルクハット)
1920-24年
シルク、コットン、ワイヤー
28.0cm(高さ)、60.0cm(外周)

19. 6.
『軍隊』の衣裳(帽子)
1920-24年
ウール、コットン、ゴム、厚紙、羽飾り、
ワイヤー
59.0cm(外周)

19. 7.
ドレス
1920-24年
コットン、ウール、シルク、アセテート
120.0cm(センター・フロント)、84.0cm
(脇丈)

関連写真、ポスター、プログラム、雑誌

ヴェネ・ベック

II. ①.
《金鶏》の「金鶏」役のリャブチンスカ
1938年
ゼラチン・シルバー・プリント
19.1×11.4cm

II. ②.
《金鶏》にて翼を付け出番を待つリャブ
チンスカ
1938年
ゼラチン・シルバー・プリント
19.1×11.4cm

ヴァランティエヌ・グロス	パブロ・ピカソ (表紙デザイン)	21 《眠り姫》 1921年11月2日	22. 3. [王子]の衣裳 1922年頃 チュニック:アセテート、レーヨン、コットン、コットン・レース、シルク、金属糸、プラスチック製ボタン、プラスチックの飾り、ゼラチン製スバンクル 短ズボン:アセテート、コットン裏地、メタル・ブレード、金属製ファスナー チュニック:74.0cm 短ズボン:40.5cm(ウエスト幅)、63.0cm(ウエスト)、22.0cm(股下)
II. ③. 《金鶏》のタマラ・カルサヴィナ 1914年 孔版、彩色/紙 16.5×13.0cm 『ガゼット・ドュ・ボン・トン』No.7、1914年より	II. ⑬. 『バレエ・リュス 公式プログラム』モンテカルロ歌劇場 1923年11月25日-12月31日 オフセット・リトグラフ、ライン・ブロック、凸版印刷 32.0×25.5cm オーストラリア国立美術館研究図書館	レオン・バクスト ミュール・ロシニョール ビエール・ピトエフ クロード&グレース・ロヴァット・フレイザー ノーマン	ナタリヤ・ゴンチャロワ イワン・カフィ
ダリル・リンゼイ	II. ⑭. 『セルゲイ・ディアギレフのバレエ・リュス グランド・シーズン公式プログラム』シャンゼリゼ劇場 1924年5月-6月 オフセット・リトグラフ、シーヌコレ、ライン・ブロック 27.2×21.4cm	21. 1. [侍女]の衣裳 1921年頃 ボディス、スカート:サテン、シフォン、ベルベット、メタル・ブレード、メタリック・フリンジ、スワズ・ダウン羽毛、毛、木、ペイント、金属、ガラス、ゼラチン製ディスク、模造宝石 ボディス:21.0cm(センター・フロント)、40.0cm(内袖) スカート:125.0×100.0 cm	22. 4. [狼]の衣裳 1922年頃 ジャケット:レーヨン、アセテート、シルク、コットン、ゴム、金属糸、金属製ファスナー ズボン:アセテート、コットン フード:アセテート、レーヨン、コットン、金属製ファスナー、ゴム ジャケット:78.0cm ズボン:55.0cm(股下) フード:95.0cm
II. ④. 《金鶏》リハーサル中のパロノワ(コヴェント・ガーデン) 1937年 鉛筆/紙 33.6×22.2cm	III章 20 《道化師》 1921年5月17日 ミハイル・ラリオーノフ ジェルメーヌ・ボンガール(メゾン・ジョヴ)	21. 2. [女官]の衣裳 1921年頃 ドレス:ベルベティーン、コットン=シルクのサテン、コットン裏地、メタル・ブレード、金属製ディスク、ペイント、金属製ファスナー、木、塗料 ベチコート:シルク、コットン、金属、ペイント ドレス:234.0cm ベチコート:107.0cm	22. 5. [騎士]の衣裳 1920年代頃 ダブルット:レーヨン、アセテート、金属製ファスナー、ゴム、メタリック・ペイント 短ズボン:シルク、コットン ダブルット:64.0cm(センター・フロント) 短ズボン:42.0cm(センター・フロント)
II. ⑤. 《金鶏》のパロノワ(7つの習作) 1937年 鉛筆/紙 28.6×18.2cm	20. 1. [道化師の娘]の衣裳(パニエ、襟) 1921年頃 パニエ:コットン、バックラム、籐、ペイント 襟:バックラム、籐、ペイント パニエ:80.0cm 襟:73.0×84.0cm(おおよそ)	21. 3. [ハチドリ]の妖精の従者]の衣裳 1921年頃 シルク、コットン、金属製ファスナー 72.0cm(センター・フロント)	22. 6. [イワン]の衣裳 1920年代頃 チュニック:シルク、コットン、金属糸 ズボン:アセテート、コットン、ゴム ブーツ:革 チュニック:79.0cm ズボン:33.0cm(ウエスト幅)、58.0cm(股下) ブーツ:42.0cm(高さ) 28.0cm(サイズ)
II. ⑥. [古い師]のアルゲラノフ [[金鶏]より] 1938-40年頃 水彩/紙 19.0×28.0cm	20. 2. [道化師の妻]の衣裳 1921年頃 ボディス:コットン、金属製ファスナー ズボン:コットン、シルク、籐 ウィング:コットン、籐、ペイント 襟:シルク、コットン、樹脂加工繊維、ゴム、バックラム ボディス:37.6cm ズボン:39.0cm(ウエスト幅)、47.4cm(股下) ウィング:130.0(高さ)×120.0(幅) cm 襟:55.0cm(幅)	21. 4. [青い鳥]の衣裳 1921年頃 ダブルット:シルク、コットン、メタル・ブレード、模造石、ゼラチン製パール、ゴム 帽子:シルク、メタル・ブレード、ゼラチン製パール、模造石、コットン、ワイヤー ダブルット:74.0cm 帽子:60.0cm(外周)	23 《牝鹿たち》 1924年1月6日 マリー・ローランサン
ロバート・モンゴメリー	II. ⑦. [金鶏]のリュバチンスカ 1938-40年頃 水彩/紙 21.2×23.8cm	21. 5. [女王]と「ページボーイ」の衣裳のためのデザイン画(第一幕) 1921年 水彩、鉛筆、メタリック・ペイント/カードに着彩された紙 29.2×44.6cm	23. 1. 《牝鹿と二人の女》 1923年 油彩/カンヴァス 73.0×54.0cm 公益財団法人ひろしま美術館
II. ⑧. 《ディアギレフのバレエ・リュス 1909-1929》(ポスター) 1939年 平版 59.8×39.9cm	20. 3. [兵士]の衣裳 1921年頃 ジャケット:コットンのバックラム、コットン、ペイント、合成皮革 短ズボン:コットン、合成皮革 ヘルメット:バックラム・コットンのサティーン、ペイント ジャケット:60.0cm 短ズボン:36.0cm(ウエスト幅)、65.0cm(股下) ヘルメット:38.0cm(高さ)	22 《オーロラの結婚》 1922年5月18日 アレクサンドル・ブノワ レオン・バクスト イワン・カフィ	23. 2. [牝鹿] (1巻-1) 1924年 コロタイプ印刷、彩色 11.5×17.0cm BBプラザ美術館
パブロ・ピカソ (デザイナー) ムルロー・ポスターズ	20. 4. [花嫁の付き添い]の衣裳(ブラウス、ケープ) 1921年頃 ブラウス:コットン・サティーン、ペイント、コットン・サティーンのボタン ケープ:コットン、籐、ペイント ブラウス:48.0cm ケープ:120.0cm	21. 4. [青い鳥]の衣裳 1922年頃 ダブルット:シルク、アセテート、ウール、金属糸、コットン、模造石、ゼラチン製パール 帽子:コットン・ベルベット、ゼラチン製パール、ガラスのルビー、金属糸 ダブルット:60.0cm 帽子:46.0cm(外周)	23. 3. [牝鹿] (1巻-2) 1924年 コロタイプ印刷、彩色 14.3×18.3cm BBプラザ美術館
II. ⑨. 『セルゲイ・ディアギレフのバレエ・リュス 公式プログラム』ニューヨーク・メトロポリタン・オペラ 1916年 オフセット・リトグラフ、ライン・ブロック 31.5×23.7cm	20. 5. 《道化師》より「第一場面エスキース」 1913年 水彩画 46.5×59.0cm 国立国会図書館(蘆原英了コレクション)	22. 2. [オーロラ]の衣裳(オーバードレス) 1922年頃 シルク、レーヨン、コットン、ラメ 64.0cm(センター・フロント)	23. 4. [牝鹿] (1巻-4) 1924年 コロタイプ印刷、彩色 14.9×18.1cm BBプラザ美術館
II. ⑩. 『セルゲイ・ディアギレフのバレエ・リュス 公式プログラム』(アメリカ・ツアー) 1916-17年 オフセット・リトグラフ、ライン・ブロック 31.2×23.2cm	ジョゼ＝マリア・セール (表紙デザイン)		
II. ⑪. 『バレエ・リュス 公式プログラム』パリ・オペラ座 1919年12月-1920年1月 オフセット・リトグラフ 32.0×24.6cm	II. ⑫. 『バレエ・リュス 公式プログラム』パリ・オペラ座 1920年5月-6月 オフセット・リトグラフ 31.2×24.4cm		

<p>23. 5. 『牝鹿』(1巻-7) 1924年 コロタイプ印刷、彩色 16.5×11.4cm BBプラザ美術館</p>	<p>25. 4. 「ミューズ」の衣裳(頭飾り) 1925年頃 ラメ、メタル・ブレード、メタリック・ペ イント、シルク、コットン、ガラス、ゴム 28.0(高さ)×18.0(幅) cm</p>	<p>27 《頌歌》 1928年6月6日 パーヴェル・チェリチェフ A・ユーキーン</p>	<p>ジョルジョ・デ・キリコ(表紙デザイン) Ⅲ. ⑤. 『セルゲイ・ディアギレフのバレエ・リュ ス プログラム』(第22シーズン) サラ・ベルナル劇場 1929年 オフセット・リトグラフ、ライン・ブロック 31.4×24.5cm</p>
<p>23. 6. 『牝鹿』(1巻-9) 1924年 コロタイプ印刷、彩色 16.4×12.0cm BBプラザ美術館</p>	<p>オリヴァー・メッセル 25. 5. 「ミューズ」の衣裳(マスク) 1925年頃 厚紙、紙、ブラスター、ペイント、ゴム 26.0(高さ)×23.0(幅) cm</p>	<p>27. 1. 『星座』の衣裳 1928年頃 レオタード、タイツ：コットン、亜鉛と バリウム製のペイント、金属製ファスナー マスク：ワイヤー・メッシュ、ゴム レオタード：70.0cm タイツ：128.0cm マスク：25.0cm(高さ)</p>	<p>パーヴェル・チェリチェフ(表紙デザイン) Ⅲ. ⑥. 『セルゲイ・ディアギレフのバレエ・リュ ス プログラム』(第21シーズン) サラ・ベルナル劇場 1928年 オフセット・リトグラフ、ライン・ブロック 31.7×24.5cm オーストラリア国立美術館研究図書館</p>
<p>23. 7. 『牝鹿』(1巻-10) 1924年 コロタイプ印刷、彩色 15.6×11.2cm BBプラザ美術館</p>	<p>26 《鋼鉄の踊り》 1927年6月7日 ゲオルギー・ヤクローフ A・ユーキーン</p>	<p>27. 2. 『星』の衣裳 1928年頃 ドレス：コットン、鏡のついたベークラ イト、金属製ファスナー、麻 マスク：ワイヤー・メッシュ、ゴム ドレス：19.0cm(袖)、150.0cm(肩から裾 まで)、107.0cm(スカートの長さ) マスク：25.0cm(高さ)</p>	<p>Ⅳ章 29 《プルチネラ》 1932年4月30日 ジョルジョ・デ・キリコ</p>
<p>24 《女羊飼いの誘惑》 1924年1月3日 ファン・グリス マリー・ミュールに帰属</p>	<p>26. 1. 「女性労働者」の衣裳 1927年頃 ドレス：シルク、コットン、金属製ファスナー エプロン：金属製ファスナー、ゴム、コッ トン、ビニール ドレス：34.0cm(ウエスト幅)、114.0cm (長さ)、38.0cm(チェスト) エプロン：85.0×43.5cm</p>	<p>28 《舞踏会》 1929年5月7日 ジョルジョ・デ・キリコ A・ユーキーン</p>	<p>29. 1. チュニック 1932年 ウール、コットン、ペイント 51.0cm、47.0cm(チェスト)</p>
<p>24. 1. 「伯爵夫人」の衣裳 1924年頃 ボディ、スカート、ケープ：シルク、コッ トン、メタル・ブレード、ラメ ボディ：60.4cm スカート：162.0cm ケープ：75.0cm</p>	<p>26. 2. 「女性労働者」の衣裳 1927年頃 ドレス：シルク、コットン、金属製ファスナー 帽子：ゴム、ビニール、コットン、バックラム ドレス：32.5cm(ウエスト幅)、37.0cm(チェ スト)、98.0cm(長さ) 帽子：52.0cm(外周)</p>	<p>28. 1. 「男性招待客」の衣裳 1929年 胸当て、ジャケット、ズボン：ウール、コッ トンのグログラン、レーヨンのリボン、 リネン、ベークライト、ペイント 胸当て：45.5cm ジャケット：80.2cm ズボン：110.0cm</p>	<p>29. 2. 衣裳 1932年 コットン、ペイント、ラフィア 141.0cm(肩から裾まで)</p>
<p>24. 2. 「少女」の衣裳のためのデザイン画 1923年頃 カラーチョーク、グアッシュ、鉛筆／紙 24.0×16.0cm</p>	<p>26. 3. 「男性労働者」の衣裳 1927年頃 ズボン：ウール、コットン、プラスチック 製ボタン ビブ、エプロン：ビニール、コットン、ゴ ム、金属製ファスナー ズボン：105.0cm(長さ) 胸当て、つり紐：84.5cm(胴囲)、10.0cm (つり紐の長さ) エプロン、ベルト：105.0cm(外周)</p>	<p>28. 2. 「若者」の衣裳(ジャケット) 1929年頃 ウール、コットン、メタリック・トリム、 ヘシアン(のり)、金属製ファスナー 63.0cm</p>	<p>29. 3. ドレス 1932年 ウール、コットン、ペイント 71.0cm</p>
<p>24. 3. 「男爵」の衣裳のためのデザイン画 1923年 水彩、鉛筆／紙 31.2×25.4cm</p>	<p>26. 4. 「船乗り」の衣裳(帽子) 1927年頃 ウール、レーヨン／コットン・リボン、 革のつば、コットン裏地 10.0(高さ)×23.0(幅)×25.0(直径) cm</p>	<p>関連作品、プログラム ナタリヤ・ゴンチャロフ</p>	<p>29. 4. 「死」のコート 1932年 ウール、コットン、ペイント 116.0cm</p>
<p>24. 4. 「侯爵」の衣裳のためのデザイン画 1923年 水彩、鉛筆／紙 31.2×25.6cm</p>	<p>26. 5. 「男性労働者」の衣裳(帽子) 1927年頃 人工毛皮(コットンに動物の毛を混合した もの)、のり、コットン裏地、コットン・パッド 52.0 cm(外周)、24.0 cm(直径)</p>	<p>Ⅲ. ①. ディアギレフの肖像 制作年不詳 素描 18.0×24.6cm 国立国会図書館(蘆原英了コレクション)</p>	<p>30 《予兆》 1933年4月13日 アンドレ・マッソン バルバラ・カリンスカ</p>
<p>25 《ゼフィールとフロール》 1925年4月28日 ジョルジュ・ブラック</p>	<p>26. 6. 「労働者」の衣裳(帽子) 1927年頃 ウール、コットン裏地 11.0(高さ)×22.0(幅)×24.0(直径) cm</p>	<p>Ⅲ. ②. 『バレエ・リュス《眠り姫》公式プロ グラム』アルハンブラ劇場 1921年 オフセット・リトグラフ 31.0×24.5cm</p>	<p>30. 1. 「男性」の衣裳(第一場) 1933年 ジャケット：ウール、コットン、金属製 ファスナー タイツ：コットン、ゴム ヘルメット：ウール、ワイヤー 靴下：ウール ジャケット：53.0cm タイツ：128.0cm ヘルメット：61.0cm(外周) 靴下：33.0cm</p>
<p>25. 1. 「ボレアス」の衣裳 1925年頃 短ズボン：ラメ、コットン、ゴム、金属 ヘルメット：バビエマシェ、籐、羽飾り、 コットン、ペイント 短ズボン：38.0cm ヘルメット：69.0cm(外周)</p>	<p>26. 7. 「女性労働者」の衣裳(帽子) 1927年頃 コットン 54.0cm(ヘッドサイズ)</p>	<p>Ⅲ. ③. 『バレエ・リュス《眠り姫》公式プロ グラム』アルハンブラ劇場 1921年 オフセット・リトグラフ 31.0×24.5cm</p>	<p>30. 2. 「男性」の衣裳(第一場) 1933年 ジャケット：ウール、コットン、金属製 ファスナー ヘルメット：ウール、ワイヤー ジャケット：55.4cm ヘルメット：61.4cm(外周)</p>
<p>25. 2. 「ゼフィール」の衣裳(帽子) 1925年頃 ラメ、コットン、ワイヤー 59.0cm(外周)</p>	<p>26. 8. 「労働者」の衣裳(帽子) 1927年頃 ウール、コットン裏地 11.0(高さ)×22.0(幅)×24.0(直径) cm</p>	<p>Ⅲ. ④. 『セルゲイ・ディアギレフのロシア・バレエ・ シーズン プログラム』プリンセス劇場 1927年6月-7月 オフセット・リトグラフ 31.6×24.2cm</p>	<p>30. 3. 「女性」の衣裳(第一場)(ドレス) 1933年 レーヨン、コットン、金属製ファスナー 102.0cm</p>
<p>25. 3. 「ゼフィール」の衣裳(オーバースカート) 1925年頃 ラメ、コットン、紙、ペイント、金属 27.6cm、54.0cm(ウエスト)</p>	<p>26. 9. 「労働者」の衣裳(帽子) 1927年頃 ウール、コットン裏地 11.0(高さ)×22.0(幅)×24.0(直径) cm</p>	<p>アーティスト不明(表紙デザイン)</p>	<p>30. 4. 「女性」の衣裳(第一場)(ドレス) 1933年 レーヨン、コットン、金属製ファスナー 102.0cm</p>

30. 4. 「女性」の衣裳 (第二場) (ドレス) 1933年 シルク、レーヨン、金属製ファスナー、ゴム 94.0cm	34《永遠の葛藤》 1940年7月29日 キャスリーン・マーティン フローレンス・マーティン	ナタリヤ・ゴンチャロワ (表紙デザイン) IV. ⑦. 『コヴェント・ガーデン・バレエ・リュス・カンパニーのプログラム』(オーストラリア・シーズン) 1939年6月-8月 オフセット・リトグラフ 31.5×24.5cm オーストラリア国立美術館研究図書館
30. 5. 「行動」の衣裳 (ドレス) 1933年頃 レーヨン、コットン裏地 116.0cm	34. 1. 「オブセッション」の衣裳のためのデザイン画 1939年頃 グアッシュ、鉛筆／カード 37.9×27.8cm	アーティスト不明 (表紙デザイン) IV. ⑧. 『バジル大佐のバレエ・リュス・ド・モンテカルロ 公式プログラム』(オーストラリア、ニュージーランド) 1939-40年 オフセット・リトグラフ、ライン・ブロック 28.5×22.3cm オーストラリア国立美術館研究図書館
31《美しきドナウ》 1933年4月15日 エティエンヌ・ド・ポーモン	関連作品、プログラム エイドリアン・フェイント	ナタリヤ・ゴンチャロワ (表紙デザイン) IV. ⑨. 『オリジナル・バレエ・リュス プログラム』(第6回アメリカ・ツアー) 1940-41年 オフセット・リトグラフ 31.0×24.0cm オーストラリア国立美術館研究図書館
31. 1. 「軽騎兵」の衣裳 1935年頃 ジャケット、ズボン：ウール、真鍮製ファスナー、コットン、ゴム、ペイント、プラスチック製ボタン ジャケット：41.0cm ズボン：71.0cm (股下)	IV. ①. 無題【『予兆』の「行動」】 制作年不詳 インク、ペン、淡彩、鉛筆／カード 28.6×13.7cm	モーリス・セイモア (写真家) IV. ⑩. 『オリジナル・バレエ・リュス プログラム』(カナダ・ツアー) 1941年9月19日-10月18日 オフセット・リトグラフ 31.0×23.4cm オーストラリア国立美術館研究図書館
32《公園》 1935年3月8日 ジャン・リュルサ エレース・ボン・スタジオ	ベドロ・ブルーナ (表紙デザイン) IV. ②. 『バレエ・リュス・ド・モンテカルロ プログラム』ロンドン 1933年 オフセット・リトグラフ 32.0×24.5cm オーストラリア国立美術館研究図書館	
32. 1. 「道路清掃員」の衣裳 1935年頃 シャツ、フード：コットン、コットン・ジャージー オーバーオール：コットン・ツイール 胸衣：ビニール、コットン シャツ、フード：91.0cm (フルレングス) オーバーオール：86.0cm (ウエスト)、139.5cm (長さ) タバード：52.0cm	ジョルジュ・A・ド・ボゲダレフ (表紙デザイン) IV. ③. 『バジル大佐のバレエ・リュス・ド・モンテカルロ プログラム』ロイヤル・オペラハウス、コヴェント・ガーデン 1934年 オフセット・リトグラフ、凸版印刷 30.5 × 24.5cm オーストラリア国立美術館研究図書館	
32. 2. 「老人」の衣裳 1935年頃 コート：コットン、コットン・フランネル、プラスチック、化繊 ズボン：コットン、プラスチック、金属製ファスナー、ゴム、化繊 ネクタイ：プラスチック、金属製ファスナー、化繊、のり 胸衣：コットン、コットン・フランネル、金属 シャツ：コットン、プラスチック コート：104.0cm ズボン：34.0cm (ウエスト幅)、107.0cm (丈) ネクタイ：50.0cm (長さ) 胸衣：60.5cm (肩から裾まで) シャツ：75.0cm、56.5cm (外袖)	イワン・ビリーピン (表紙デザイン) IV. ④. 『バジル大佐のバレエ・リュス・ド・モンテカルロ プログラム』(第3シーズン) ロイヤル・オペラハウス、コヴェント・ガーデン 1936年6月-9月 オフセット・リトグラフ 36.5×25.5cm オーストラリア国立美術館研究図書館	
33《フランチェスカ・ダ・リミニ》 1937年7月15日 オリヴァー・メッセル バルバラ・カリンスカ	ナタリヤ・ゴンチャロワ (表紙デザイン) IV. ⑤. 『バジル大佐のバレエ・リュス・ド・モンテカルロ プログラム』(第4シーズン) ロイヤル・オペラハウス、コヴェント・ガーデン 1937年6月-10月 オフセット・リトグラフ 32.0×24.5cm オーストラリア国立美術館研究図書館	
33. 1. 「廷臣」の衣裳 (ジャケット) 1937年頃 ウール、シルク、金属製飾り、ペイント、革、木製ビーズ、アセテート裏地 73.0cm、88.0cm (チェスト)	アンドレ・ドラン (表紙デザイン) IV. ⑥. 『バレエ・リュス・ド・モンテカルロ プログラム』ロイヤル・オペラ・ハウス、コヴェント・ガーデン 1938年6月-9月 オフセット・リトグラフ 31.0×24.0cm オーストラリア国立美術館研究図書館	
33. 2. 「女官」の衣裳 (ドレス) 1937年頃 アセテート・モワレ、メタル・ブレード、ラメ、ベルベティーン、金属製ボタン、ペイント、革、ウール・フェルト、コットン＝レーヨン・ネット、のり、金属で包んだ紐 (ウール芯)、アセテート裏地 68.0cm (ウエスト)、92.5cm (センター・フロント)		

オルセー美術館展
印象派の誕生
一描くことの自由—
出品リスト

1章——マネ、新しい絵画

1
エドゥアール・マネ
笛を吹く少年
1866年
油彩、カンヴァス
160.5×97

2
エドゥアール・マネ
読書
1865年(1873-75年に加筆)
油彩、カンヴァス
61×73.2

3
エドゥアール・マネ
ピアノを弾くマネ夫人
1868年
油彩、カンヴァス
38.5×46.5

4
エドゥアール・マネ
ウナギとヒメジ
1864年
油彩、カンヴァス
38×46

5
エドゥアール・マネ
シャクヤクと剪定ばさみ
1864年
油彩、カンヴァス
57×46

6
フレデリック・バジール
バジールのアトリエ、ラ・コンダミンヌ通り
1870年
油彩、カンヴァス
98×128

2章——レアリスムの諸相

7
ギュスターヴ・クールベ
市から帰るフラジェの農民たち
1850-55年
油彩、カンヴァス
206×275

8
ジャン＝フランソワ・ミレー
晩鐘
1857-59年
油彩、カンヴァス
55.5×66

9
カミーユ・コロー
パリ近郊の農家の中庭
1865-70年頃
油彩、カンヴァス
46×56

10
シャルル・ドービニー
収穫
1851年
油彩、カンヴァス
135×196

11
ジュール・ブルトン
落穂拾いの女たちの招集
1859年
油彩、カンヴァス
90.5×176

12
コンスタン・トロワイヨン
セーヌ河畔のブドウの収穫
1860-62年頃
油彩、カンヴァス
98.5×104.5

13
シャルル・ジャック
羊の群れのいる風景
1860-61年頃
油彩、カンヴァス
176×280

14
ジュール・バスティアン＝ルパージュ
干し草
1877年
油彩、カンヴァス
180×195

15
ジャン＝フランソワ・ラファエリ
ジャン＝ル＝ボワトゥーの家族、ブルガヌーの農民たち
1876年
油彩、カンヴァス
190.5×154.3

16
ギュスターヴ・カイユボット
床に鎧をかける人々
1875年
油彩、カンヴァス
102×147

17
アレクサンドル・ファルギーエル
闘技者たち
1875年
油彩、カンヴァス
231.4×178.7

3章——歴史画

18
エドガー・ドガ
バビロンを建設するセミラミス
1861年頃
油彩、カンヴァスで裏打ちした紙
26.2×40.5

19
エリー・ドロネー
ローマのベスト
1869年
油彩、カンヴァス
131.5×177

20
オクターヴ・バンギイ・ラリドン
星に導かれてベツレヘムに赴く羊飼いたち
1863年
油彩、カンヴァス
70×120

21
ジャン＝レオン・ジェローム
エルサレム
1867年
油彩、カンヴァス
82×144.5

22
エルネスト・メッソニエ
フランス遠征、1814年
1864年
油彩、板
51.5×76.5

23
アンリ・ポール・モット
ペリュスの婚約者
1885年
油彩、カンヴァス
178×122

4章——裸体

24
ウィリアム・ブグロー
ダンテとウェルギリウス
1850年
油彩、カンヴァス
280.5×225.3

25
アレクサンドル・カバネル
ヴィーナスの誕生
1863年
油彩、カンヴァス
130×225

26
ジュール・ルフェーヴル
真理
1870年
油彩、カンヴァス
264×112

27
ギュスターヴ・モロー
イアソン
1865年
油彩、カンヴァス
204×115.5

28
ギュスターヴ・クールベ
裸婦と犬
1861-62年
油彩、カンヴァス
65.5×81

29
ジャン＝フランソワ・ミレー
横たわる裸婦
1844-45年
油彩、カンヴァス
33×41

30
オーギュスト・ルノワール
横たわる半裸の女(ラ・ローズ)
1872年頃
油彩、カンヴァス
29.5×25

31
ポール・セザンヌ
牧歌
1870年
油彩、カンヴァス
65×81.5

5章——印象派の風景 田園にて／水辺にて

32
クロード・モネ
かささぎ
1868-69年
油彩、カンヴァス
89×130

33
カミーユ・ピサロ
白い霜
1873年
油彩、カンヴァス
65.5×93.2

34
アルフレッド・シスレー
ルーヴシエンヌの雪
1878年
油彩、カンヴァス
61×50

35
アルフレッド・シスレー
雪、マルリー＝ル＝ロワの農家の庭
1876年
油彩、カンヴァス
38.5×55.7

36
カミーユ・ピサロ
エルミタージュの丘、ポントワーズ
1873年
油彩、カンヴァス
60×73

[凡例]
作品番号
作家名
作品名
制作年
技法、素材
寸法 (cm)

37 ポール・セザンヌ 首吊りの家、オーヴェール＝シュール＝オ ワーズ 1873年 油彩、カンヴァス 55.5×66.3	49 ポール・セザンヌ レスタックから望むマルセイユ湾 1878-79年 油彩、カンヴァス 59.5×73	61 アレクサンドル・カバネル ケラー伯爵夫人 1873年 油彩、カンヴァス 99×77	73 エドガー・ドガ バレエの舞台稽古 1874年 油彩、カンヴァス 65×81.5
38 カミーユ・ピサロ 赤い屋根、村のはずれの冬の印象 1877年 油彩、カンヴァス 54×65	50 ポール・セザンヌ マンシーの橋 1879年頃 油彩、カンヴァス 58.4×72.4	62 エリー・ドロローネー ジョルジュ・ビゼー夫人 1878年 油彩、カンヴァス 105×75.3	74 ベルト・モリゾ ゆりかご 1872年 油彩、カンヴァス 56×46.5
39 カミーユ・ピサロ 春、花咲くプラムの木 1877年 油彩、カンヴァス 65.5×81	6章——静物	63 レオン・ボナ バスカ夫人 1874年 油彩、カンヴァス 222.5×132	75 クロード・モネ アバルトマンの一隅 1875年 油彩、カンヴァス 81.5×60
40 オーギュスト・ルノワール イギリス種のナシの木 1873年頃 油彩、カンヴァス 66.5×81.5	51 フィリップ・ルソー シャルダンとそのモデル 1867年 油彩、カンヴァス 177.5×226.5	64 オーギュスト・ルノワール アルトマン夫人の肖像 1874年 油彩、カンヴァス 183×123.7	76 アンリ・ファンタン＝ラトゥール テーブルの片隅 1872年 油彩、カンヴァス 161×223.5
41 アルフレッド・シスレー ルーヴシエンヌの道 1876年頃 油彩、カンヴァス 55.5×46	52 ジャン＝フランソワ・ラファエリ 狩りの食事の準備 1875年頃 油彩、カンヴァス 150.5×201	65 オーギュスト・ルノワール シャルル・ル・クール(1830-1906) 1872-73年頃 油彩、カンヴァス 42.8×29.2	77 エドガー・ドガ 証券取引所の人々の肖像 1878-79年 油彩、カンヴァス 100.5×81.5
42 ポール・セザンヌ 草上の昼食 1876-77年 油彩、カンヴァス 21×27 パリ、オランジュリー美術館(ヴァルテ ル＝ギヨーム・コレクション)	53 アンリ・ファンタン＝ラトゥール 花瓶のキク 1873年 油彩、カンヴァス 62.7×54	66 オーギュスト・ルノワール ダラス夫人 1872年頃? 油彩、カンヴァス 48×40	78 クロード・モネ サン＝ラザール駅 1877年 油彩、カンヴァス 75×105
43 ポール・セザンヌ ポップラ 1879-80年 油彩、カンヴァス 65×81.5	54 アドルフ・モンティセリ 白い水差しのある静物 1878年頃 油彩、板 49×63	67 ジェームズ・アボット・マクニール・ホ イッスラー 灰色と黒のアレンジメント第1番 1871年 油彩、カンヴァス 144.3×163	9章——円熟期のマネ
44 ウジェーヌ・ブーダン トルヴェールの海岸 1865年 油彩、厚紙 26.5×40.3	55 ポール・セザンヌ スープ入れのある静物 1873-74年頃 油彩、カンヴァス 65×81.5	68 アンリ・ファンタン＝ラトゥール デュブル家の人々 1878年 油彩、カンヴァス 146.5×170.5	79 エドゥアール・マネ マルグリート・ド・コンフラン 1876年頃 油彩、カンヴァス 53×64
45 クロード・モネ アルジャントウイユの船着場 1872年頃 油彩、カンヴァス 60×81	7章——肖像	69 ポール・セザンヌ バラ色の背景の自画像 1875年頃 油彩、カンヴァス 66×55.2	80 エドゥアール・マネ 婦人と団扇 1873-74年 油彩、カンヴァス 113×166.5
46 クロード・モネ アルジャントウイユのレガッタ 1872年頃 油彩、カンヴァス 48×75.3	56 ジェームズ・ティソ ミラモン侯爵夫妻と子どもたちの肖像 1865年 油彩、カンヴァス 177×217	70 クロード・モネ 死の床のカミーユ 1879年 油彩、カンヴァス 90×68	81 エドゥアール・マネ ジョルジュ・クレマンソー 1879-80年 油彩、カンヴァス 94×73.8
47 アルフレッド・シスレー 洪水のなかの小舟、ポール＝マルリー 1876年 油彩、カンヴァス 50.4×61	57 フレデリック・バジール 家族の集い 1867年(1869年に加筆) 油彩、カンヴァス 152×230	82 エドゥアール・マネ アスバラガス 1880年 油彩、カンヴァス 16.9×21.9	83 エドゥアール・マネ ガラスの花瓶の花 1882年 油彩、カンヴァス 54.5×35
48 オーギュスト・ルノワール シャンロゼーのセーヌ川 1876年 油彩、カンヴァス 54.6×66	58 クロード・モネ ゴーディバール夫人の肖像 1868年 油彩、カンヴァス 216.5×138.5	84 エドゥアール・マネ ロシュフォールの逃亡 1881年頃 油彩、カンヴァス 79×72	
	59 カロリュス＝デュラン 手袋の婦人 1869年 油彩、カンヴァス 228×164	8章——近代生活	
	60 ポール・ボードリー シャルル・ガルニエ 1868年 油彩、カンヴァス 102.8×81.5	71 クロード・モネ 草上の昼食 1865-66年 油彩、カンヴァス 左：418×150 右：248.7×218	
		72 エドガー・ドガ 競馬場、1台の馬車とアマチュア騎手たち 1876-87年 油彩、カンヴァス 65.2×81.2	

チューリヒ美術館展
—印象派からシュルレアリスム
まで
出品リスト

1 セガンティーニ | Giovanni Segantini

01
ジョヴァンニ・セガンティーニ
淫蕩な女たちへの懲罰
1896/97年
油彩・厚紙
40×74cm

02
ジョヴァンニ・セガンティーニ
虚栄(ヴァニタス)
1897年
油彩・カンヴァス
77×124cm

2 モネ | Claude Monet

03
クロード・モネ
ノルマンディーの葦葦きの家
1885年
油彩・カンヴァス
65×81cm

04
クロード・モネ
陽のあたる積み藁
1891年
油彩・カンヴァス
60×100cm

05
クロード・モネ
国会議事堂、日没
1904年
油彩・カンヴァス
81×92cm

06
クロード・モネ
睡蓮の池、夕暮れ
1916/22年
油彩・カンヴァス
200×600cm

07
オーギュスト・ロダン
殉教の女
1885年
ブロンズ
41×158×102cm

08
エドガー・ドガ
競馬
1885/87年頃
パステル・厚紙
42.5×49.5cm

3 ポスト印象派 | Post-Impressionism

09
フィンセント・ファン・ゴッホ
タチアオイ
1886年
油彩・カンヴァス
91×50.5cm

10
フィンセント・ファン・ゴッホ
サント＝マリーの白い小屋
1888年
油彩・カンヴァス
33.5×41.5cm

11
ポール・ゴーギャン
花と偶像のある静物画
1892年
油彩・カンヴァス
40.5×32cm

12
ポール・セザンヌ
サント＝ヴィクトワール山
1902/06年
油彩・カンヴァス
63×83cm

13
アンリ・ルソー
X氏の肖像(ピエール・ロティ)
1906年
油彩・カンヴァス
61×50cm

4 ホドラー | Ferdinand Hodler

14
フェルディナント・ホドラー
真実、第二ヴァージョン
1903年
油彩・カンヴァス
208×294.5cm

15
フェルディナント・ホドラー
遠方からの歌
1917年頃
油彩・カンヴァス
180×129cm

16
フェルディナント・ホドラー
日没のマジリア川とモンテ・ヴェリタ
1893年
油彩・カンヴァス
40×64cm

17
フェルディナント・ホドラー
ケ・デュ・モンブランから見たサレーヴ山
1914/15年
油彩・カンヴァス
66×81cm

18
フェルディナント・ホドラー
日没のレマン湖
1915年
油彩・カンヴァス
61×90cm

19
フェルディナント・ホドラー
朝方の峰
1915年
油彩・カンヴァス
51×81cm

5 ナビ派 | The Nabis

20
ピエール・ボナール
庭に憩う家族
1901年頃
油彩・カンヴァス
109.5×127.5cm

21
ピエール・ボナール
〈ブラック〉あるいは〈犬と一緒にいる女性〉
1907年
油彩・厚紙
62×70cm

22
フェリックス・ヴァロトton
訪問
1899年
グワッシュ・厚紙
55.5×87cm

23
フェリックス・ヴァロトton
トランプで一人遊びをする裸婦
1912年
油彩・カンヴァス
90×117cm

24
フェリックス・ヴァロトton
日没、ヴィレルヴィル
1917年
油彩・カンヴァス
55.5×97cm

25
フェリックス・ヴァロトton
アルプス高地、氷河、冠雪の峰々
1919年
油彩・カンヴァス
73×100cm

6 ムンク | Edvard Munch

26
エドヴァルド・ムンク
冬の夜
1900年
油彩・カンヴァス
81×121cm

27
エドヴァルド・ムンク
エレン・ヴァールブルクの肖像
1905年
油彩・カンヴァス
180×100cm

28
エドヴァルド・ムンク
造船所
1911年
油彩・カンヴァス
99×110cm

29
エドヴァルド・ムンク
ヴィルヘルム・ヴァルトマン博士の肖像
1923年
油彩・カンヴァス
200×111cm

7 表現主義 | Expressionism

30
エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー
小川の流れる森の風景
1925/26年
油彩・カンヴァス
120×100cm

31
エルンスト・バルラハ
難民
1920年
木
54×57×20.5cm

32
マックス・ベックマン
マックス・レーガーの肖像
1917年
油彩・カンヴァス
100×70.5cm

33
マックス・ベックマン
スヘフェニンゲンの海岸の散歩
1928年
油彩・カンヴァス
85×70.5cm

[凡例]
作品番号
作家名
作品名
制作年
技法・材質
寸法

34 マックス・ベックマン 女優たち 1946年 油彩・カンヴァス 160×120cm	45 パブロ・ピカソ ギター、グラス、果物鉢 1924年 油彩・カンヴァス 97.5×130.5cm	12 シャガール Marc Chagall 56 マルク・シャガール 聖家族 1910年 油彩・カンヴァス 76×63cm	68 ルネ・マグリット 9月16日 1956年 油彩・カンヴァス 60×50.5cm
8 ココシュカ Oskar Kokoschka 35 オスカー・ココシュカ 騎士、死、天使 I 1910/11年頃 油彩・カンヴァス 86×75.5cm	46 パブロ・ピカソ 大きな裸婦 1964年 油彩・カンヴァス 140×195cm	57 マルク・シャガール ヴィテブスクの上で 1922年 油彩・カンヴァス 73×91cm	14 ジャコモッティ Alberto Giacometti 69 アルベルト・ジャコモッティ スプーン型の女 1926/27年 ブロンズ 144×51×23cm
36 オスカー・ココシュカ ブッターとウサギのいる静物画 1914年 油彩・カンヴァス 90×120cm	10 クレー Paul Klee 47 パウル・クレー 深淵の道化師 1927年 油彩・厚紙 37×41.5cm	58 マルク・シャガール 窓から見えるブレア島 1924年 油彩・カンヴァス 100.5×73.5cm	70 アルベルト・ジャコモッティ 立つ女 1948年 ブロンズ 167.5×16.5×34cm
37 オスカー・ココシュカ 恋人と猫 1917年 油彩・カンヴァス 93.5×130.5cm	48 パウル・クレー 操り人形 1930年 油彩・厚紙 32×30cm	59 マルク・シャガール 婚礼の光 1945年 油彩・カンヴァス 123×120cm	71 アルベルト・ジャコモッティ 広場を横切る男 1949年 ブロンズ 68×80×52cm
38 オスカー・ココシュカ アデル・アステアの肖像 1926年 油彩・カンヴァス 97×130.5cm	49 パウル・クレー スーパーチェス 1937年 油彩・カンヴァス 121×110cm	60 マルク・シャガール 戦争 1964-66年 油彩・カンヴァス 163×231cm	72 アルベルト・ジャコモッティ 森 1950年 ブロンズ 57×61×49.5cm
39 オスカー・ココシュカ モンタナの風景 1947年 油彩・カンヴァス 90×120cm	50 パウル・クレー 狩人の木のもとで 1939年 油彩・カンヴァス 100×80cm	61 マルク・シャガール パリの上で 1968年 油彩・カンヴァス 148×140cm	73 アルベルト・ジャコモッティ ディエゴの大きな頭部 1954年 ブロンズ 65×39.5×24.5cm
9 フォーヴィズムとキュビズム Fauvism + Cubism 40 アンリ・マティス マルゴ 1906年 油彩・カンヴァス 81×65cm	11 抽象絵画 Abstract Painting 51 ワシリー・カンディンスキー 黒い色斑 1921年 油彩・カンヴァス 138×120cm	13 シュルレアリスム Surrealism 62 ジョルジョ・デ・キリコ 塔 1913年 油彩・カンヴァス 115.5×45cm	74 アルベルト・ジャコモッティ 矢内原伊作の肖像 1957年 油彩・カンヴァス 81×65.5cm
41 アンリ・マティス バルビゾン 1908年 油彩・カンヴァス 73×60cm	52 ヨハネス・イッテン 出会い 1916年 油彩・カンヴァス 105×80cm	63 マックス・エルンスト 都市の全景 1935/36年 油彩・カンヴァス 60×81cm	64 ジョアン・ミロ 絵画 1925年 油彩・カンヴァス 99×81cm
42 モーリス・ド・ヴラマンク シャトゥーの船遊び 1907年 油彩・カンヴァス 50×61cm	53 アウグスト・ジャコモッティ 色彩のファンタジー 1914年 油彩・カンヴァス 99.5×99.5cm	65 ジョアン・ミロ 体操する少女 1932年 油彩・板 41×33cm	66 サルバドール・ダリ バラの頭の女 1935年 油彩・板 35×27cm
43 ジョルジュ・ブラック レモン、バナナ、ブラム、グラス 1925年 油彩・カンヴァス 29.5×73cm	54 ピート・モンドリアン 赤、青、黄のあるコンポジション 1930年 油彩・カンヴァス 45×45cm	67 イヴ・タンギー 明日 1938年 油彩・カンヴァス 54.5×46cm	
44 ジョルジュ・ブラック 暖炉 1928年 油彩・カンヴァス 130×74cm	55 フェルナン・レジェ 機械的要素 1924年 油彩・カンヴァス 97×130cm		

未来を担う美術家たち
17th DOMANI・明日展
文化庁芸術家在外研修の成果
出品リスト

青木克世 Katsuyo AOKI	2-8 Portrait of the long-dead landlord 2007 紙、鉛筆	2-24 Hard work encouraged by presence of art and history 2013 紙、鉛筆
1-1 Tell the Story 2005 陶磁	2-9 Wreath of sadness 2007 紙、鉛筆	2-25 Volunteers from Egypt 2013 紙、鉛筆
1-2 鏡よ鏡 2006 陶磁	2-10 Wreath of happiness 2007 紙、鉛筆	2-26 Gathering for the admired twin-guru 2007, 2014 インスタレーション
1-3 Labyrinth 2012 陶磁	2-11 Fisherman's audition 2008 紙、鉛筆	2-27 9 funeral portraits 2007, 2014 紙、鉛筆
1-4 Trolldom 2012 陶磁	2-12 After this soldiers on horseback 2008 紙、鉛筆	2-28 Some activities about the Island 2010-2014 全て紙、インク
1-5 Trolldom 2012 陶磁	2-13 Sweet as comet, crazy like comet 2010 紙、鉛筆	小林俊哉 Toshiya KOBAYASHI
1-6 Predictive Dream 2014 陶磁	2-14 Test 2, Day 2, Reaction from wrong targets 2010 紙、鉛筆	3-1 永遠と一日 -木蓮- 2011 油彩、キャンバス
1-7 Predictive Dream 2014 陶磁	2-15 Rieno altart as a reminder No.1 (Animal circle) 2010 紙、鉛筆	3-2 取り返しのつかないことを取り戻すために -木蓮- 2014 アクリル、油彩、キャンバス
1-8 Loom II 2014 陶磁	2-16 Rieno altart as a reminder No.2 (Carbon statues) 2010 紙、鉛筆	3-3 取り返しのつかないことを取り戻すために 2014 アクリル、油彩、キャンバス
1-9 Loom III 2014 陶磁	2-17 Rieno altart as a reminder No.4 (Twin tower) 2011 紙、鉛筆	3-4 取り返しのつかないことを取り戻すために -モンシロチョウ- 2014 アクリル、油彩、キャンバス
紙川千亜妃 Chiaki KAMIKAWA	2-18 Rieno altart as a reminder No.5 (Sacred mountain) 2011年 紙、鉛筆	3-5 取り返しのつかないことを取り戻すために -木蓮- 2014 アクリル、油彩、キャンバス
2-1 ジュエリー作品 2004-2005 ミクストメディア	2-19 Head of people who doubt 2011 紙、鉛筆	岩崎貴宏 Takahiro IWASAKI
2-2 Discuss thrower 2006 紙、鉛筆	2-20 Collector's Room 2012 紙、鉛筆	4-1 アウト・オブ・ディスオーダー (日本ゼオン) 2014 雑巾、墨汁 川崎市市民ミュージアム
2-3 Siberian Night 2007 紙、鉛筆	2-21 Rienoland second consultation 2012 紙、鉛筆	4-2 アウト・オブ・ディスオーダー (川崎天然ガス発電+JR) 2014 雑巾、墨汁 川崎市市民ミュージアム
2-4 Funeral room (negotiation) 2007 紙、鉛筆	2-22 Rieno altart as a reminder No. 7 (Farmers and birdmen) 2012 紙、鉛筆	4-3 アウト・オブ・ディスオーダー (三井埠頭ガントリークレーン) 2014 雑巾、墨汁 川崎市市民ミュージアム
2-5 Funeral room (neighbours) 2007 紙、鉛筆	2-23 The entrance of Nothingness (no.1 &no.2) 2013 紙、鉛筆	
2-6 Funeral room (discussion) 2007 紙、鉛筆		
2-7 Funeral room (confession) 2007 紙、鉛筆		

[凡例]
作品番号
作品名
制作年
材質、技法
所蔵

4-4 アウト・オブ・ディスオーダー（根本造船所） 2014 雑巾、墨汁 川崎市市民ミュージアム	5-8 あれもだめ、これもだめ。 2011 ブロンズ、真鍮、鋳造	6-8 世界の片側 2013 墨、鉛筆、蜜蝋、雁皮紙、木製パネル 株式会社 ギャラリーエム	8-5 Un chat contemplant le Mont Fuji 2014 銅版画、コラージュ、ミクストメディア、軸装
4-5 アウト・オブ・ディスオーダー（昭和シェル石油基地） 2014 雑巾、墨汁 川崎市市民ミュージアム	5-9 ぼくは犠牲祭のために生きているよ 2011 ブロンズ、鋳造	6-9 かたち-66 “天ノ川設計図” 2013 エッチング、アクアチント、雁皮刷り、ペランアルシュ紙	8-6 Un chat intrigué par une Gargouille 2014 銅版画、コラージュ、ミクストメディア、軸装
4-6 アウト・オブ・ディスオーダー（日清製粉ニューマチックアンローダ） 2014 雑巾、墨汁 川崎市市民ミュージアム	5-10 犠牲祭 2011 ブロンズ、鋳造 nuriro	6-10 かたち-68 “ひとがた” 2014 エッチング、アクアチント、雁皮刷り、ペランアルシュ紙	8-7 Un bel hiver 2014 銅版画、コラージュ、ミクストメディア 個人蔵
4-7 アウト・オブ・ディスオーダー（東亜石油1） 2014 雑巾、墨汁 川崎市市民ミュージアム	5-11 時空 2013 ブロンズ、真鍮、鋳造	6-11 かたち-69 “胎管一撃” 2014 エッチング、アクアチント、雁皮刷り、ペランアルシュ紙	奥谷太一 Taichi OKUTANI
4-8 アウト・オブ・ディスオーダー（東亜石油2） 2014 雑巾、墨汁 川崎市市民ミュージアム	5-12 monasuky 2013 ブロンズ、真鍮、鋳造	6-12 宙図 ーそらざー 2014 エッチング、アクアチント、雁皮刷り、木製パネル	9-1 アトリエの風景 2003 油彩、キャンバス
4-9 アウト・オブ・ディスオーダー（東扇島 LNG基地+扇島火力発電所） 2014 雑巾、墨汁 川崎市市民ミュージアム	5-13 あれは舞台だったんだ 2014 ブロンズ、真鍮、鋳造、インスタレーション	和田淳 Atsushi WADA	9-2 竜舌蘭と私 2005 油彩、キャンバス
4-10 リフレクション・モデル（瑠璃） 2014 檜、ワイヤー	5-14 Kucing Hitam 2014 ブロンズ、真鍮、鋳造、ガラス板	7-1 グレートラビット 2012 映像作品 7分 ©Sacrebleu Productions - CaRTE bLaNChe - Atsushi Wada - 2012	9-3 Landscape 2006 鉛筆、黄ボール紙
梶浦聖子 Seiko KAJIURA	5-15 台形上の言葉 2003-2014 ブロンズ、真鍮、鋳造	7-2 『グレートラビット』原画 2012 シャープペンシル、紙	9-4 青い室内 2007 油彩、キャンバス
5-1 ひとつぶことりしんだ 2007 ブロンズ、鋳造、ミクストメディア	濱田富貴 Fuki HAMADA	7-3 Anomalies 2013 映像作品 3分 ©Atsushi Wada MMXIII	9-5 帰路 2007 油彩、キャンバス
5-2 イスに住むムシ 2007 ブロンズ、鋳造	6-1 かたち-47 “うてな” 2007 エッチング、アクアチント、雁皮刷り、ペランアルシュ紙	7-4 『Anomalies』絵コンテ、サウンドプラン 2013	9-6 CELLULAR PHONE 2010 油彩、キャンバス
5-3 悲しき犬 2007 ブロンズ、鋳造	6-2 かたち-61 “花舟” 2009 エッチング、アクアチント、雁皮刷り、ペランアルシュ紙	入江明日香 Asuka IRIE	9-7 マスク 2009 油彩、キャンバス
5-4 しま猫の思ひ出 2007 ブロンズ、鋳造	6-3 Mandala 2010 墨、鉛筆、雁皮紙	8-1 祇園守木槿 2010 銅版画、コラージュ、ミクストメディア 東京オペラシティアートギャラリー	9-8 それぞれ 2010 油彩、キャンバス
5-5 レリーフ tea time 2008 ブロンズ、鋳造	6-4 amaryllis 1~6 2010 エッチング、アクアチント、雁皮刷り、ハーネミュレ紙	8-2 遊蝶花 2011 銅版画、コラージュ、ミクストメディア 若林哲哉	9-9 シャッターの刻 2011 油彩、キャンバス
5-6 しまどりの思ひ出 2009 ブロンズ、鋳造	6-5 かたち-63 “世界樹” 2012 エッチング、アクアチント、雁皮刷り、ペランアルシュ紙	8-3 醍醐枝垂桜 2012 銅版画、コラージュ、ミクストメディア、六曲一隻屏風 京都市美術館	9-10 それぞれの刻 2012 油彩、キャンバス 松村謙三コレクション
5-7 レリーフ 雨の羊 2009 ブロンズ、鋳造 nuriro	6-6 滔滔 ーとうとうー 2012 墨、鉛筆、蜜蝋、雁皮紙、木製パネル	8-4 Le Petiti Cardinal 2014 銅版画、コラージュ、ミクストメディア、六曲一隻屏風 丸沼芸術の森	9-11 パオロ・ウッチェロ《サン・ロマーノの戦い》模写 2013 油彩、キャンバス
	6-7 かたち-64 “囊-世界地図” 2012 エッチング、アクアチント、雁皮刷り、ペランアルシュ紙		9-12 存 2013 油彩、キャンバス
			9-13 何処へ 2014 油彩、キャンバス

北野謙 Ken KITANO	10-12 シリーズ〈watching the moon〉より Blythe #1 / January, 2013 2014 タイプCプリント	11-3 ウィンターマン 2014 色鉛筆、木ボード	12-4 Untitled (13-176) 2013 水彩、水彩紙
10-1 シリーズ〈our face〉より ラマダン明けの礼拝に来たイスラム教徒 38人を重ねた肖像(女)、2009年9月20日、 インドネシア マルク州 アンボン市 2010 ゼラチンシルバープリント 国立国際美術館	10-13 シリーズ〈day light〉より A signboard of Mobil / 2013 2014 タイプCプリント	11-4 レッドツールズ 2014 色鉛筆、木ボード	12-5 Untitled (13-181) 2013 鉛筆、色鉛筆、水彩紙
10-2 シリーズ〈our face〉より 日本のアニメのコスプレをする少女たち 34人を重ねた肖像、2009年4月18日、台湾 台北市 コミックマーケットの路上 2010 ゼラチンシルバープリント 東京都写真美術館	10-14 シリーズ〈watching the moon〉より A signboard of McDonald's #1 / Buttonwillow / 2013 2014 タイプCプリント	11-5 ターンド メニー 2014 色鉛筆、木ボード	12-6 Untitled (14-183) 2014 ジェッソ、胡粉、鉛筆、水彩紙
10-3 シリーズ〈our face〉より 平和記念日に元安川で原爆慰霊の灯籠を 流す39人を重ねた肖像、2004年8月6日、広 島市 元安川岸 2010 ゼラチンシルバープリント	10-15 シリーズ〈day light〉より Santa Monica Beach / April 7, 2013 2014 タイプCプリント	11-6 ホワイト ツールズ 2014 色鉛筆、木ボード	12-7 Untitled (14-184) 2014 墨(白、黒)、シルバーポイント、水彩紙
10-4 シリーズ〈our face〉より インド最南端の聖地コモリン岬で日の出 を見るヒンズー教徒の巡礼者23人を重 ねた肖像、2008年7月12日、13日、インド タミル・ナドゥ州 カニヤークマリ 2010 ゼラチンシルバープリント	10-16 シリーズ〈day light〉より San Onofre Nuclear Generating Station / December 9, 2013 2014 タイプCプリント	11-7 トゥーズ 2014 色鉛筆、木ボード	12-8 Untitled (14-188) 2014 水彩、グワッシュ、色鉛筆、シャープペン シル、墨、水彩紙
10-5 シリーズ〈our face〉より 米英軍のイラク攻撃反対5万人デモ 「World Peace Now」に参加して歩く 30人を重ねた肖像、2003年3月8日、東京 都 日比谷公園〜銀座の路上 2011 ゼラチンシルバープリント 国立国際美術館	10-17 シリーズ〈day light〉より Westlake Theatre / Los Angeles / July 9, 2013 2014 タイプCプリント	11-8 パーブル ツリー 2014 色鉛筆、木ボード	12-9 Untitled (14-192) 2014 水彩、色鉛筆、水彩紙
10-6 シリーズ〈our face〉より 天安門広場を警備する陸軍兵士24人を重 ねた肖像、2009年5月2日、中国 北京市 天安門広場 2012 ゼラチンシルバープリント 国立国際美術館	10-18 シリーズ〈day light〉より Downtown LA / February, 2013 2014 タイプCプリント	11-9 エクスペリメンテーション 2014 色鉛筆、木ボード	12-10 Untitled (14-193) 2014 シャープペンシル、色鉛筆、ジェッソ、胡 粉、水彩紙
10-7 シリーズ〈day light〉より Mojave desert / March 22, 2013 2014 タイプCプリント	10-19 シリーズ〈day light〉より National flag / Santa Monica / September 19, 2013 2014 タイプCプリント	11-10 トゥー ムーンズ 2014 色鉛筆、木ボード	12-11 Untitled (14-194) 2014 鉛筆、水彩、水彩紙
10-8 シリーズ〈watching the moon〉より A signboard of McDonald's #2 / Buttonwillow / May 25, 2013 2014 タイプCプリント	10-20 シリーズ〈day light〉より Joshua Tree National Park #2 / Blythe / March 22, 2013 2014 タイプCプリント	11-11 レコーディングス 2014 色鉛筆、木ボード	
10-9 シリーズ〈watching the moon〉より National flag / Santa Monica / March 27, 2013 2014 タイプCプリント	10-21 シリーズ〈day light〉より Mojave Barstow Highway / March 20, 2013 2014 タイプCプリント	11-12 グリーン カーペット 2014 色鉛筆、木ボード	
10-10 シリーズ〈watching the moon〉より Newport Beach / August, 2013 2014 タイプCプリント	10-22 シリーズ〈watching the moon〉より Buttonwillow / 2013 2014 タイプCプリント	11-13 ホワイト フォレスト 2014 色鉛筆、木ボード	
10-11 シリーズ〈watching the moon〉より Downtown LA / December, 2013 2014 タイプCプリント	古武家賢太郎 Kentaro KOBUKE	11-14 ザ ラスト ナイト 2014 色鉛筆、木ボード	
	11-1 ナミ ト キツネ 2011 色鉛筆、木ボード SCAI THE BATHHOUSE	11-15 レターズ 2014 封筒、紙に鉛筆	
	11-2 ユニコーン 2 2011 色鉛筆、木ボード	関根直子 Naoko SEKINE	
		12-1 埋める事と湧き立つこと 2010 シャープペンシル、水彩紙	
		12-2 言葉の前の音-人形遣いの声-1つの場所 2012 鉛筆、水彩紙 個人蔵	
		12-3 Untitled (13-163) 2013 シャープペンシル、水彩紙 ギャラリエ アンドウ	

平成26年度[第18回]
文化庁メディア芸術祭
出品リスト

アート部門

優秀賞
Nyloid
Cod.Act (Michel DÉCOSTERD / André DÉCOSTERD)
メディアパフォーマンス
スイス

優秀賞
これは映画ではないらしい
五島 一浩
メディアインスタレーション
日本

優秀賞
センシング・ストリームズー不可視、不可聴
坂本 龍一／真鍋 大度
メディアインスタレーション
日本

優秀賞
Drone Survival Guide
Ruben PATER
グラフィックアート、ウェブ
オランダ

優秀賞
《patrinia yellow》for Clarinet and Computer
福島 諭
メディアパフォーマンス
日本

新人賞
Symbiotic Machine
Ivan HENRIQUES
ハイブリットアート
ブラジル

新人賞
A Tale of Tehrangeles
Anahita RAZMI
映像インスタレーション
ドイツ

新人賞
Temps mort / Idle times - dinner scene
Alex VERHAEST
インタラクティブ映像インスタレーション
ベルギー

審査委員会推薦作品
I was looking for Park Hyatt Tokyo
Jörgen AXELVALL
グラフィックアート
スウェーデン

審査委員会推薦作品
Second Livestock
Austin STEWART
メディアパフォーマンス
米国

審査委員会推薦作品
Street Views Patchwork
Julien LEVESQUE
ネットアート
フランス

審査委員会推薦作品
THE CAPTCHA PROJECT
Emilio VAVARELLA
グラフィックアート、インスタレーション
イタリア

エンターテインメント部門

大賞
Ingress
Google's Niantic Labs (創業者: John HANKE)
ゲーム、アプリケーション
米国

優秀賞
のらもじ発見プロジェクト
下浜 臨太郎／西村 斉輝／若岡 伸也
ウェブ、オープンソースプロジェクト
日本

優秀賞
Kintsugi
APOTROPIA (Antonella MIGNONE / Cristiano PANEPUCCHIA)
映像作品
イタリア

優秀賞
3RD
Hedwig HEINSMAN / Niki SMIT / Simon van der LINDEN
インタラクティブインスタレーション
オランダ

優秀賞
handiii
近藤 玄大／山浦 博志／小西 哲哉
ガジェット
日本

新人賞
5D ARCHIVE DEPT.
香月 浩一
映像作品
日本

新人賞
Slime Synthesizer
ドリタ／エアガレージラボ (川内 尚文／佐々木 有美)
サウンドデバイス
日本

新人賞
Auto-Complain
Florian BORN
アプリケーション、ウェブ、ガジェット
ドイツ

審査委員会推薦作品
家族のはなし
上島 史朗／浅井 勇樹／加納 彰／菅野 悟子／相原 幸絵／audioforce／泉田 岳／鉄拳
映像作品
日本

審査委員会推薦作品
口先番長
『口先番長』制作チーム (代表: 池尻 大作／西沢 学)
ゲーム
日本

審査委員会推薦作品
妖怪ウォッチ2 元祖／本家
『妖怪ウォッチ』開発チーム (代表: 日野 晃博)
ゲーム
日本

審査委員会推薦作品
littleBits Synth Kit
坂巻 匡彦／高橋 達也／Paul ROTHMAN／Geof LIPMAN／Ayah BDEIR
ガジェット
日本／米国／カナダ

審査委員会推薦作品
Metrico
Metrico production team
ゲーム
オランダ

審査委員会推薦作品
Patatap
Jono BRANDEL / Shawn James SEYMOUR / Yoshimi SEYMOUR
アプリケーション
米国／日本

アニメーション部門

大賞
The Wound
Anna BUDANOVA
短編アニメーション
ロシア

優秀賞
映画クレヨンしんちゃん「ガチンコ! 逆襲のロボとーちゃん」
高橋 涉
劇場アニメーション
日本

優秀賞
PADRE
Santiago 'Bou' GRASSO
短編アニメーション
アルゼンチン

優秀賞
The Sense of touch
Jean-Charles MBOTTI MALOLO
短編アニメーション
フランス

優秀賞
ジョバンニの島
西久保 瑞穂
劇場アニメーション
日本

新人賞
コップの中の子牛
朱 彦潼
短編アニメーション
中国

新人賞
たまごラブストーリー
山田 尚子
劇場アニメーション
日本

新人賞
Man on the chair
JEONG Dahee
短編アニメーション
韓国

マンガ部門

大賞
五色の舟
近藤 ようこ／原作: 津原 泰水
マンガ
日本

優秀賞
春風のスネグラチカ
沙村 広明
マンガ
日本

優秀賞
アオイホノオ
島本 和彦
マンガ
日本

優秀賞
羊の木
いがらし みきお／原作: 山上 たつひこ
マンガ
日本

優秀賞
チャイニーズ・ライフ (上・下)
李 昆武／フィリップ・オティエ／訳: 野 嶋 剛
マンガ
中国／フランス／日本

[凡例]
賞名
作品名
作家名
作品形態
国・地域

[功労賞 凡例]
受賞者名
肩書き
国・地域
展示形態

新人賞
どぶがわ
池辺 葵
マンガ
日本

新人賞
ちーちゃんはちょっと足りない
阿部 共美
マンガ
日本

新人賞
愛を喰らえ！！
ルネッサンス吉田
マンガ
日本

功労賞

岩政 隆一
エンジニアリング・デザイナー
日本
自律分散システム『Symphonic Object』
(1989年)：トラス、空気圧アクチュエータ、エアコンプレッサー、光、音／業績年表、インタビュー映像

小野 耕世
映画評論家／マンガ評論家／海外コミック翻訳家／海外コミック・アニメーション研究家
日本
書籍、アニメーション作品資料、業績年表、インタビュー映像

山本 圭吾
アーティスト／教育者
日本
ビデオアート作品『ネットワークゲーム「Five Pines」』(1971-75年)：テレビ、ビデオテープレコーダー、ビデオカメラ、画紙、コピー台／業績年表、インタビュー映像

渡辺 泰
アニメーション研究者
日本
書籍、上映パンフレット、手紙、手書き原稿、写真、サイン、業績年表、インタビュー映像

ルーヴル美術館展
日常を描く—風俗画にみる
ヨーロッパ絵画の真髄
出品リスト

[凡例]
作品番号
作家名
作品名
制作年
技法／素材
寸法
所蔵情報
所蔵番号

<p>プロローグ I 「すでに、古代において…」風俗画の起源</p> <p>1 《シドンの彩色墓碑》 前2-前1世紀 石灰岩、化粧漆喰、彩色 高さ82cm 幅51cm 奥行22cm パリ、ルーヴル美術館 古代オリエント美術部門 AO 21066</p> <p>2-a 《雄牛と牛飼いを表したオストラコン》 新王国時代、ラメセス王朝時代、第19-20王朝（前1295-前1069年） デイル・エル・メディーナで出土 石灰岩の破片、彩色 高さ8.3cm 幅10.7cm パリ、ルーヴル美術館 古代エジプト美術部門 E 27668</p> <p>2-b 《雄牛と牛飼いを表したオストラコン》 新王国時代、ラメセス王朝時代、第19-20王朝（前1295-前1069年） デイル・エル・メディーナで出土 石灰岩の破片、彩色 高さ13.4cm 幅11.3cm パリ、ルーヴル美術館 古代エジプト美術部門 E 14301</p> <p>2-c 《雄牛と牛飼いを表したオストラコン》 新王国時代、ラメセス王朝時代、第19-20王朝（前1295-前1069年） デイル・エル・メディーナで出土 石灰岩の破片、彩色 高さ9.1cm 幅13.4cm パリ、ルーヴル美術館 古代エジプト美術部門 E 14367</p> <p>2-d 《雄牛と牛飼いを表したオストラコン》 新王国時代、ラメセス王朝時代、第19-20王朝（前1295-前1069年） デイル・エル・メディーナで出土 石灰岩の破片、彩色 高さ7.4cm 幅10.7cm パリ、ルーヴル美術館 古代エジプト美術部門 E 14344</p> <p>2-e 《雄牛と牛飼いを表したオストラコン》 新王国時代、ラメセス王朝時代、第19-20王朝（前1295-前1069年） デイル・エル・メディーナで出土 石灰岩の破片、彩色 高さ10cm 幅13cm パリ、ルーヴル美術館 古代エジプト美術部門 E 25305</p> <p>3 ルーヴルのケンタウロマキアの画家 《ビュクシスと蓋 婦人部屋の情景》 前430年頃 陶土、釉薬、線画 高さ16cm 直径14cm パリ、ルーヴル美術館 古代ギリシャ・エトルリア・ローマ美術部門 CA 587</p> <p>4 ぶらんこの画家 《黒像式頸部アンフォラ》 前525-前520年頃 陶土、釉薬、線刻、白色と赤色の賦彩 高さ42.4cm 直径30.4cm パリ、ルーヴル美術館 古代ギリシャ・エトルリア・ローマ美術部門 F 60</p>	<p>5-a 《アンテステリア祭の赤像式オィノコエ》 前425-前420年頃 陶土、釉薬、泥漿（でいしょう）、金彩の跡 高さ10.5cm 直径8cm パリ、ルーヴル美術館 古代ギリシャ・エトルリア・ローマ美術部門 CA 1354</p> <p>5-b 《アンテステリア祭の赤像式オィノコエ》 前400-前380年頃 陶土、釉薬、白色と黄色の賦彩、泥漿（でいしょう）、金彩 高さ10.8cm 直径7.8cm パリ、ルーヴル美術館 古代ギリシャ・エトルリア・ローマ美術部門 CA 2527</p> <p>6 レアグロス・グループ 《黒像式ヒュドリア》 肩の部分：《戦士たちの出発》 腹部：《水を汲む女性たち》 前510-前500年頃 陶土、釉薬、線刻、白色と赤色の賦彩 高さ52.3cm 直径31.8cm パリ、ルーヴル美術館 古代ギリシャ・エトルリア・ローマ美術部門 F 302</p> <p>7 ジョゼフ＝マリー・ヴィアン 《アモルを売る女》 1763年 油彩／カンヴァス 98×122cm 左下に署名と年記：j.m. vien 1763 パリ、ルーヴル美術館 絵画部門（フォンテーヌブロー宮殿に寄託） Inv. 8424 / MR 2663</p> <p>プロローグ II 絵画のジャンル</p> <p>8 シャルル・ル・ブラン 《キリストのエルサレム入城》 17世紀 油彩／カンヴァス 152×214cm パリ、ルーヴル美術館 絵画部門（サン＝ティエンヌ近現代美術館に寄託） Inv. 2883 / Inv. D 62.1.1</p> <p>9 フランソワ・デポルト 《狩人としての画家の肖像（自画像）》 1699年 油彩／カンヴァス 197×163cm パリ、ルーヴル美術館 絵画部門 Inv. 3899</p> <p>10 クロード・ロラン（本名クロード・ジュレ） 《夕暮れの風景》 おそらく1639年 油彩／カンヴァス 52×69cm パリ、ルーヴル美術館 絵画部門 Inv. 4723</p> <p>11 リュバン・ボージャン 《チェス盤のある静物》 17世紀前半 油彩／板 55×73cm パリ、ルーヴル美術館 絵画部門 R.F. 3968</p>	<p>12 ル・ナン兄弟 《農民の食事》 1642年 油彩／カンヴァス 106.5×120.8cm パリ、ルーヴル美術館 絵画部門（ランス美術館に寄託） R.F. 2516 / Inv. D 930.1</p> <p>第 I 章 「労働と日々」—商人、働く人々、農民</p> <p>13 クエンティン・マセイス 《両替商とその妻》 1514年 油彩／板 70.5×67cm パリ、ルーヴル美術館 絵画部門 Inv. 1444</p> <p>14 マリヌス・ファン・レイメルスワーレ に基づく 《徴税吏たち》 16世紀 油彩／板 86.5×70cm パリ、ルーヴル美術館 絵画部門 R.F. 1973-34</p> <p>15 アドリアーン・ファン・オスターデ 《書齋で仕事をする商人》 17世紀 油彩／板 33.5×28cm パリ、ルーヴル美術館 絵画部門 Inv. 1683</p> <p>16 アブラハム・ホンディウス 《鳩売り》 1673年頃 油彩／板 36×26cm パリ、ルーヴル美術館 絵画部門 R.F. 656</p> <p>17 アドリアーン・ファン・オスターデ 《魚売りの屋台》 1659年 油彩／カンヴァス 41.5×36.5cm パリ、ルーヴル美術館 絵画部門 Inv. 1681</p> <p>18 ハブリエル・メッソー 《リンゴの皮をむく女》 1655-1657年頃 油彩／板 28×26cm パリ、ルーヴル美術館 絵画部門 Inv. 1465</p> <p>19 ヘラルト・ダウ 《田舎の料理人の女》、または《水を注ぐ女》 1640年頃 油彩／板 36×27.4cm パリ、ルーヴル美術館 絵画部門 Inv. 1217</p> <p>20 ジャン・シメオン・シャルダン 《買い物婦りの召使い》 1739年 油彩／カンヴァス 47×38cm パリ、ルーヴル美術館 絵画部門 M.I. 720</p>
--	---	--

21 マルタン・ドロリング 《台所の情景》 1815年 油彩／カンヴァス 65×80cm パリ、ルーヴル美術館 絵画部門 Inv. 4097	第Ⅱ章 日常生活の寓意—風俗描写を超えて	39 アブラハム・ブルーマールト 《冬の寓意》 1625-1630年頃 油彩／カンヴァス 70.5×57.5cm パリ、ルーヴル美術館 絵画部門 Inv. 1053	48 ジャン＝アントワーヌ・ヴァトー 《二人の従姉妹》 1716年頃 油彩／カンヴァス 30.5×36cm パリ、ルーヴル美術館 絵画部門 R.F. 1990-8
22 ウジェーヌ・ドラクロワ 《鍛冶屋》 1822年頃 油彩／カンヴァス 32.3×23.5cm パリ、国立ウジェーヌ・ドラクロワ美術館 MD 2008-5	30 ダーフィット・テニールス2世 《トランプ遊びに興じる人々のいる衛兵 詰所での聖ペテロの否認》 1646年 油彩／銅板 37×52cm パリ、ルーヴル美術館 絵画部門 Inv. 1877	40 セバ스티アーノ・リッチ 《サテュロスと農夫》 1720-1730年頃 油彩／カンヴァス 37×50.5cm パリ、ルーヴル美術館 絵画部門 Inv. 65	49 ジャン＝バティスト・パテル 《庭園に集うイタリア喜劇の役者たち》 18世紀 油彩／カンヴァス 24×32cm パリ、ルーヴル美術館 絵画部門 M.I. 1095
23 ジャン＝フランソワ・ミレー 《箕をふるう男》 1855年頃 油彩／板 38×29cm パリ、ルーヴル美術館 絵画部門 R.F. 1440	31 ジョヴァンニ・パオロ・パニーニ 《神殿から追い出される商人たち》 1717-1718年頃 油彩／カンヴァス 36×48cm パリ、ルーヴル美術館 絵画部門 Inv. 403	41 ウィリアム・ホガース 《オックスフォードの放蕩者》、《放蕩者 一代記》より 1733年頃 油彩／カンヴァス 63×76cm パリ、ルーヴル美術館 絵画部門 R.F. 2008-5	50 トーマス・ゲインズバラ 《庭園での会話》 1746-1748年頃 油彩／カンヴァス 73×68cm パリ、ルーヴル美術館 絵画部門 R.F. 1952-16
24 ヘリット・ファン・ホントホルスト 《抜歯屋》 1627年 油彩／カンヴァス 137×200cm パリ、ルーヴル美術館 絵画部門 R.F. 2852	32 レンブラント・ハルメンスゾーン・ファン・レイン 《聖家族》、または《指物師の家族》 1640年 油彩／板 41×34cm パリ、ルーヴル美術館 絵画部門 Inv. 1742	42 ジャン＝バティスト・グルーズ 《割れた水瓶》 1771年 油彩／カンヴァス 109×87cm パリ、ルーヴル美術館 絵画部門 Inv. 5036	51 ヘンリー・シングルトン 《ヴァルシュタイン伯爵、姉マティルデ とリンドルフ男爵》 旧タイトル《二人のライバル》 1786-1791年頃 油彩／カンヴァス 35.5×30.5cm パリ、ルーヴル美術館 絵画部門 R.F. 2543
25 ジャンドメニコ・ティエポロ 《大道商人》、または《抜歯屋》 1754-1755年頃 油彩／カンヴァス 81×110cm パリ、ルーヴル美術館 絵画部門 R.F. 1938-99	33 ルーカス・ファン・レイデン 《トランプ占いの女》 1508-1510年頃 油彩／板 24×30.5cm パリ、ルーヴル美術館 絵画部門 R.F. 1962-17	第Ⅲ章 雅な情景—日常生活における恋愛遊戯	52 ルイ＝レオポール・ボワイエ 《籠の鳥》、または《恋人たちと飛び立つ 小鳥》 1800年頃 油彩／カンヴァス 40.5×32cm パリ、ルーヴル美術館 絵画部門 R.F. 1935
26 ピーテル・ブリュゲル1世 《物乞いたち》 1568年 油彩／板 18.5×21.5cm パリ、ルーヴル美術館 絵画部門 R.F. 730	34 ニコラ・レニエ 《女占い師》 1626年頃 油彩／カンヴァス 127×150cm パリ、ルーヴル美術館 絵画部門 Inv. 366	43 ヤン・ステーン 《不埒な集い》 1665-1670年頃 油彩／板 41.5×35.5cm パリ、ルーヴル美術館 絵画部門 R.F. 301	第Ⅳ章 日常生活における自然—田園的・牧歌的 風景と風俗的情景
27 ダーフィット・テニールス2世 《慈悲の七つの行い》 1640年頃 油彩／銅板 57×77cm パリ、ルーヴル美術館 絵画部門 Inv. 1879	35 フィリップ・メルシエ 《手品師》 1720-1725年頃 油彩／カンヴァス 27×35cm パリ、ルーヴル美術館 絵画部門 M.I. 1125	44 ピーテル・デ・ホーホ 《酒を飲む女》 1658年 油彩／カンヴァス 69×60cm パリ、ルーヴル美術館 絵画部門 R.F. 1974-29	53 パウル・ブリル 《鹿狩り》 1590-1595年頃 油彩／カンヴァス 105×137cm パリ、ルーヴル美術館 絵画部門 Inv. 1109
28 アレクサンドル＝ガブリエル・ドゥカン 《稼いだお金を数える物乞い》 1833年 油彩／カンヴァス 41×32.5cm パリ、ルーヴル美術館 絵画部門 R.F. 1377	36 ル・ナン兄弟 《トランプ遊びに興じる少年たち》 1642年 油彩／銅板 15×17.5cm パリ、ルーヴル美術館 絵画部門 R.F. 124	45 ユードिट・レイステル 《陽気な集い》 1630年 油彩／板 68×57cm パリ、ルーヴル美術館 絵画部門 R.F. 2131	54 アンニーバレ・カラッチ 《狩り》 1585-1588年頃 油彩／カンヴァス 136×253cm パリ、ルーヴル美術館 絵画部門 Inv. 210
29 バルトロメ・エステバン・ムリーリョ 《物乞いの少年（蠶をとる少年）》 1647-1648年頃 油彩／カンヴァス 134×110cm パリ、ルーヴル美術館 絵画部門 Inv. 933	37 ジャン・ミシュラン 《旅籠屋で休息する兵士たち》 17世紀 油彩／カンヴァス 87×121cm パリ、ルーヴル美術館 絵画部門 R.F. 1938-62	46 ハブリエル・メソー 《若い女性を訪れる士官》 1660-1661年頃 油彩／板 64.5×47.5cm パリ、ルーヴル美術館 絵画部門 Inv. 1461	55 ペーテル・パウル・ルーベンス 《満月、鳥刺しのいる夜の風景》 1635-1640年頃 油彩／板 46×85cm パリ、ルーヴル美術館 絵画部門 Inv. 1800
	38 ヨハネス・フェルメール 《天文学者》 1668年 油彩／カンヴァス 51×45cm パリ、ルーヴル美術館 絵画部門 R.F. 1983-28	47 ピエール＝ユベール・シュブレイラス 《鷹》 18世紀 油彩／カンヴァス 35×28cm パリ、ルーヴル美術館 絵画部門 Inv. 8010	

- 56
シャルル・パロセル
《象狩り》
1736年
油彩／カンヴァス
183×128.5cm
パリ、ルーヴル美術館 絵画部門（アマ
ン、ピカルディ美術館に寄託）
Inv. 7108bis / Inv. 2088
- 57
ニコラ・ランクレ
《狩りの食事》
18世紀
油彩／カンヴァス
90.3×123.5cm
パリ、ルーヴル美術館 絵画部門
R.F. 1990-19
- 58
ジョセフ・ヴェルネ
《風景、雷鳴》
1763-1769年頃
油彩／カンヴァス
50×64cm
パリ、ルーヴル美術館 絵画部門
Inv. 8342
- 59
ウジェーヌ・フロマンタン
《アルジェリアの鷹狩り》
1862年
油彩／カンヴァス
45×85.5cm
パリ、ルーヴル美術館 絵画部門
R.F. 1425
- 60
ジャン＝オノレ・フラゴナール
《嵐》、または《ぬかるみにはまった荷車》
1759年頃
油彩／カンヴァス
73×97cm
パリ、ルーヴル美術館 絵画部門
M.I. 1063
- 61
コンスタン・トロワイヨン
《柵》
1853年
油彩／カンヴァス
90.5×117cm
パリ、ルーヴル美術館 絵画部門
R.F. 1458
- 62
ジャン＝バティスト・カミーユ・コロ
ー
《水汲み場のプルターニュの女たち》
1840年頃
油彩／カンヴァス
38.5×55cm
パリ、ルーヴル美術館 絵画部門
R.F. 1941-4
- 第V章
室内の女性―日常生活における女性
- 63
ティツィアーノ・ヴェチェッリオ
《鏡の前の女》
1515年頃
油彩／カンヴァス
99×76cm
パリ、ルーヴル美術館 絵画部門
Inv.755
- 64
フランス・ファン・ミーリス1世
《身づくろいをする女性と召使いの黒人
女性》
1678年
油彩／板
27×22cm
パリ、ルーヴル美術館 絵画部門
Inv. 1547
- 65
ジャン＝バティスト・カミーユ・コロ
ー
《身づくろいをする若い娘》
1860-1865年
油彩／厚紙
34×24cm
パリ、ルーヴル美術館 絵画部門
R.F. 1975
- 66
ウィレム・ファン・ミーリス
《お茶の時間》
1680-1690年頃
油彩／板
42×34cm
パリ、ルーヴル美術館 絵画部門
Inv. 1548
- 67
ヤン・フェルコリエ1世
《授乳する女性》
1675年
油彩／カンヴァス
58.5×51.5cm
パリ、ルーヴル美術館 絵画部門
Inv. 1928
- 68
ヘラルト・テル・ボルフ
《読み方の練習》
1652年頃
油彩／板
27×25.3cm
パリ、ルーヴル美術館 絵画部門
M.I. 1006
- 69
ジュゼッペ・マリア・クレスピ
《蜜をとる女性》
1720-1730年頃
油彩／カンヴァス
55×41cm
パリ、ルーヴル美術館 絵画部門
R.F. 1970-40
- 70
ジャン＝バティスト・イレール
《幸福な囚われ人》
18-19世紀
油彩／カンヴァス
32×24cm
パリ、ルーヴル美術館 絵画部門
R.F. 3052
- 71
フランソワ・ブーシェ
《オダリスク》
1745年(?)
油彩／カンヴァス
53×64cm
パリ、ルーヴル美術館 絵画部門
R.F. 2140
- 72
テオドール・シャセリオー
《風呂からあがるムーア人の女性》、また
は《ハーレムの室内》
1854年
油彩／カンヴァス
67×54cm
パリ、ルーヴル美術館 絵画部門（ストラ
スブルグ美術館に寄託）
R.F. 3890 / Inv. 1429
- 73
ジャン＝バティスト・カミーユ・コロ
ー
《コロエのアトリエ》
1873年頃
油彩／カンヴァス
63×42cm
パリ、ルーヴル美術館 絵画部門
R.F. 1974
- 第VI章
アトリエの芸術家
- 74
バーレント・ファブリティウス
《アトリエの若い画家》
1655-1660年頃
油彩／板
72×54cm
パリ、ルーヴル美術館 絵画部門
R.F. 1993-17
- 75
フランソワ・ブーシェ
《アトリエの画家》
1730-1735年頃
油彩／板
27×22cm
パリ、ルーヴル美術館 絵画部門
M.I. 1024
- 76
ニコラ＝ベルナルド・レピシエ
《素描する少年》
1772年
油彩／カンヴァス
41×33cm
パリ、ルーヴル美術館 絵画部門
R.F. 671 bis
- 77
ジャン・シメオン・シャルダン
《猿の画家》
1739-1740年頃
油彩／カンヴァス
73×59cm
パリ、ルーヴル美術館 絵画部門
M.I. 1033
- 78
アレクサンドル＝ガブリエル・ドゥカン
《猿の画家》、または《アトリエの情景》
1833年頃
油彩／カンヴァス
32×40cm
パリ、ルーヴル美術館 絵画部門
R.F. 1375
- 79
レオン＝マチュー・コシュロー
《コレージュ・デ・カトル・ナシオンにお
けるダヴィッドのアトリエの情景》
1814年のサロン
油彩／カンヴァス
90×105cm
パリ、ルーヴル美術館 絵画部門
Inv. 3280
- 80
オクターヴ・タサエール
《アトリエの情景》
1845年
油彩／カンヴァス
46×38cm
パリ、ルーヴル美術館 絵画部門
R.F. 2442
- 81
ユベール・ロベール
《ルーヴル宮グランド・ギャラリーの改
修計画、1798年頃》
1798年頃
油彩／カンヴァス
33.5×42cm
パリ、ルーヴル美術館 絵画部門
R.F. 2050
- 82
ジャン＝ジャック・ド・ボワシュ
《室内の情景》
1767年
油彩／カンヴァス
55×54.8cm
パリ、ルーヴル美術館 絵画部門
R.F. 2005-10
- 83
ルイ＝レオポール・ボワイ
ー
《アトリエでボナバルトの胸像を制作す
るアントワーン・ウッドン》
1802-1803年頃
油彩／カンヴァス
56.5×46.5cm
パリ、ルーヴル美術館 絵画部門
R.F. 2007-18

9-7 名簿 The NACT Advisory Board , The NACT Council and Staff List

顧問会名簿 The NACT Advisory Board

高階秀爾	大原美術館長、西洋美術振興財団理事長
福原義春	株式会社資生堂名誉会長、東京都写真美術館長
ブルース・ミラー	駐日オーストラリア大使
森 佳子	森美術館理事長、森ビル株式会社取締役
若尾文子	女優

平成27(2015)年3月末現在 5名

評議員名簿 The NACT Council

足羽與志子	一橋大学大学院社会学研究科教授
新井光風	日展理事、大東文化大学名誉教授、書家
後小路雅弘	九州大学大学院人文科学研究院教授
梅原幸雄	東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻教授、日本画家
大西若人	朝日新聞報道局 編集委員
大田弘子	政策研究大学院大学教授
奥田小由女	日展理事長、工芸美術・人形作家
勝田哲司	サントリー美術館支配人、サントリー芸術財団専務理事
北郷 悟	東京藝術大学理事・副学長、東京藝術大学美術学部教授、彫刻家
葛岡利明	株式会社日立製作所執行役専務
酒井忠康	世田谷美術館長
坂村 健	東京大学大学院情報学環教授、YRPユビキタス・ネットワーク研究所長
高橋信也	森美術館顧問
團 紀彦	建築家、株式会社團紀彦建築設計事務所代表取締役
ドラ・トーザン	国際ジャーナリスト、エッセイスト
土生修一	公益社団法人日本記者クラブ事務局長
黛まどか	俳人
山本 貞	二紀会理事長、日本美術家連盟理事長、洋画家
吉見俊哉	東京大学副学長、東京大学大学院情報学環教授
王 敏	法政大学国際日本学研究所教授

平成27(2015)年3月末現在 20名

職員名簿 Staff

館長	青木 保
副館長	南 雄介
館長補佐	小松弥生
学芸課長	(兼)南 雄介
総務課長	和田敏雄

[総務課]		広報室		教育普及室	
室長(管理)	(兼)和田敏雄	広報室長	(兼)矢板橋進一	教育普及室長	(兼)南 雄介
室長(運営)	矢板橋進一	事務補佐員	桐生智恵子	アソシエイトフェロー	吉澤菜摘
総務担当		事務補佐員	菊池彩乃	研究補佐員	井上絵美子
係長	鈴木俊祐	事務補佐員	磯山浩美	研究補佐員	木内祐子
一般職員	羽田野愛	[学芸課]		情報資料室	
事務補佐員	豊田登世	企画室		情報資料室長(主任研究員)	室屋泰三
事務補佐員	千葉美和	企画室長(主任研究員)	長屋光枝	アソシエイトフェロー	谷口英理
事務補佐員	服部晃子	主任研究員	宮島綾子	研究補佐員	望月麻実子
会計担当		主任研究員	本橋弥生	研究補佐員	小幡朋子
係長	東谷 憲	研究員	山田由佳子	研究補佐員	伊村靖子
一般職員	湯浅仁美	研究員	米田尚輝	研究補佐員	長名大地
事務補佐員	山本紗也香	アソシエイトフェロー	瀧上 華	研究補佐員	阿部陽子
事務補佐員	秋山幸子	アソシエイトフェロー	横山由季子	情報研究補佐員	数原 潔
事業担当		研究補佐員	岩崎美千子	事務補佐員	藤井糸子
係長	神長宏幸	研究補佐員	長谷川珠緒		
事務補佐員	倉持尚子	研究補佐員	日比野民蓉		
事務補佐員	波多野真由美	研究補佐員	小山祐美子		
事務補佐員	山本桃子	研究補佐員	西美弥子		

平成27(2015)年3月末現在 45名

平成26年度 国立新美術館 活動報告

発行：国立新美術館
東京都港区六本木7-22-2
電話03-6812-9900

編集：国立新美術館 教育普及室
印刷：能登印刷株式会社
発行日：平成27年7月1日（非売品）

NACT REPORT
April 2014 – March 2015
The National Art Center, Tokyo

Published by: The National Art Center, Tokyo
7-22-2 Roppongi, Minato-ku, Tokyo, 106-8558, Japan
Edited by: Section of Education & Public Programs
Printed by: Noto Printing Corporation

新 国立新美術館
THE NATIONAL ART CENTER, TOKYO